弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科

平成 28 年度　教育改善に向けたアンケート調査

報　告　書

平成 30 年 3 月 13 日

弘前大学農学生命科学部

自己評価委員会

巻頭言

農学生命科学部長　佐々木　長市

平成 14 年度に開始された「卒業・修了生を対象としたアンケート調査」は、今年で 14 回目になります。この内容は、学部の教育改善の明確化や特徴などを示唆してくれる貴重なデータとなっています。この取り組みは、学部では自己評価委員が解析の労を執り、教育改善員会とともに検討し、構成員に FD として公開しています。この情報は、各教員の教育研究における有意義な情報及び改善点を提示してくれている貴重なものです。特に、新任の教員にとっては有効性が高いと考えています。なお、このアンケートは、「学部・大学院教育のあり方」と「教員対象の教育評価アンケート」が大きな特色です。

今日では、大学及び学部も学生教育における質の向上を図るため、学生の意見を聞きながら改善を図ってきております。学部・研究科の教育理念、教育目的、教育目標、学科の教育目標さらにはアドミッションポリシーなどの指針に基づき教育がなされております。こうした明確な指針に沿った教育は、大衆化した時代の教育の質の保証には重要なことと考えられます。また、内容や評価の公表は、大学あるいは学部の個性的な教育の深化に大いに貢献すると思われます。このデータは、学部のより良い教育や個性化に貢献する一助として大いに評価されるべきでしょう。

本アンケートからは、ガイダンス、シラバス、専門教育に対するする学生の満足度が学部全体で約 80%と高い肯定的な意見が確認されています。施設への要望では、プロジェクターの更新やエアコンなどの設置などの改善がなされ、この質問項目への満足度を高めているようです。平成 28 年度は学部改組が行われた 1 年目で、施設の利用面での不便は少ないと思われますが、今後学生数が増えるに従い、新たな要望が出ると考えられます。学部の卒論に対する満足度は学部全体として約 85%となっております。これまでの長い間のたゆまない改善がこうした結果に結びついているのでしょう。

平成 31 年度には、弘前大学の機関評価が行われます。この評価に対し、このアンケートが大いに役立つことを期待したいと思います。

最後に、本調査に対し、労をいとわずにとりまとめいただいた自己評価委員会の各位に衷心より謝意を申し上げます。

目次

巻頭言 1
はしがき 3
Ⅰ．学部卒業時学生対象　教育評価アンケート 4
　１．アンケート調査内容 4
　２．調査結果 6
Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート 57
　１．アンケート調査内容 57
　２．調査結果 59
Ⅲ．教員対象授業アンケート（学部授業及び研究科授業） 82
　１．アンケート調査内容 82
　２．学部授業に関する調査結果 85
　３．研究科授業に関する調査結果 94
Ⅳ．教員対象教育評価アンケート 103
　１．アンケート調査内容 103
　２．調査結果 104
Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解 125
　生物学科 125
　分子生命科学科 126
　生物資源学科 126
　園芸農学科 128
　地域環境工学科 129
Ⅵ．教育改善委員会（平成 27 年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見 ） 131
　学部卒業時・研究科修了時学生対象アンケートについて
　教員対象授業アンケートについて
　教員対象教育評価アンケートについて

はしがき

農学生命科学部の自己評価委員会は，学部ならびに研究科の教育の適正化，カリキュラムの改善などを目的に，学部４年の卒業予定学生及び研究科２年修了予定学生を対象にした授業評価と，各教員を対象とした専門科目の授業評価についてアンケート調査を実施してきた。平成 14 年度(15 年 2 月実施)以降，これまで 13 回行われ，今回は第 14 回目である。平成 17 年度からの調査では，それ以前の内容に加えて学生と教員を対象として教育評価アンケートを実施している。そのアンケートにおいては，学生および教員対象の各アンケートに同種の質問項目を設けており，学生と教員との間における意識の相違についても読み取れる。また，各年のアンケート結果の比較によって，カリキュラムの改変や施設状況の変化の実態やそれらの影響，学生の意識・要望の変化，教員の取り組みの変化なども読み取れる。

以上のような背景から，本年度もこれまでのアンケートとの継続性に配慮し，それらの内容を踏襲して次の４事項についてアンケートを実施した。

Ⅰ．学部卒業時学生対象教育評価アンケート

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート

Ⅲ．教員対象授業評価アンケート　・学部授業に関する調査　・研究科授業に関する調査

Ⅳ．教員対象教育評価アンケート

各アンケートの設問内容は，それぞれのアンケート調査結果の冒頭に示した。設問は，選択肢式のものと，その回答理由を記述させるもので構成した。選択肢として，「強くそう思う」，「そう思う」，「どちらとも言えない」，「そう思わない」，「全くそう思わない」等の５段階を設定した場合は，順に 1～5 の番号を付して選択するものとした。設問の回答に関する分析では，「強くそう思う」と「そう思う」を併せて「肯定的な評価」とし，「そう思わない」と「全くそう思わない」を併せて「否定的な評価」とした。また，学生の回答理由の記述は，明らかな誤字や個人名以外は，できるだけ原文のまま箇条書きで記し，各学生が選んだ選択肢番号を行頭に付し，学科あるいはコース別に記載した。

本アンケートの設問の設定については，大きな変更はせず，設問の趣旨が的確に受け取られるような範囲の変更にとどめている。これは，本報告書の内容は，教育改善や組織評価等に活用されると想定され，さまざまな取り組みの成果や問題点の把握を可能にする経時的データの役割もあると考えたためである。

本アンケートの結果は教育改善に活用されるべきことから，昨年度と同様に教育改善委員会と各学科の学科長にも本報告(案)の一読を願い，それに対する見解，意見を提出してもらい，本報告の最後に掲載した。

今回の卒業・修了時学生によるアンケート結果にも，本学部・研究科の授業や教員の教育方法に対して厳しい意見や，教育体制に関するさまざまな意見が含まれている。関係各位および教育改善委員会におかれては，カリキュラムの教育内容や方法の改善のためにはもちろん，教育体制の充実を図るためにも，それらを大いに参考にされることを望む。

Ⅰ.学部卒業時学生対象　教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，４年間この学部で教育を受け，今まさに卒業しようとしている学生を対象に，学部教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：指導教員をとおして研究室所属の学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。回収は正面玄関に設置した回収箱で行った。

調査対象：平成 29 年 3 月学部卒業予定者 200 名

調査期間：平成 28 年 2 月 8 日～2 月 17 日

有効回答者数：133 名　（回答率 66.5%）

調査項目：設問は以下のとおりである。(ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。)

[学部・学科の教育目標等の認識]

設問 1．あなたの所属学科をお答えください

設問 2．本学部の教育理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3.あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。

(1) 教育目標について　　(2) アドミッションポリシーについて

設問 4．

(1)あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが，学科のカリキュラム（21 世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。

(2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[学科の専門教育について]

設問 5．本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが，ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

設問 6．シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 7.

(1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[教員の指導について]

設問 8.

(1) 所属する学科の教員の，講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます)。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったときは，学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが，あなたはそれをしましたか。した場合，その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

[学生の主体的学習について]

設問 10. **講義や演習の受講に当たり、その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を、講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に、「１単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。２単位の科目の場合、90 時間の学習が必要な計算になりますが、講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで、講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間には<u>インターネットを利用した関連情報の収集、課題や実験レポートの作成、外書講読・文献講読・専門英語の予習、小テストのための勉強、中間や期末試験のための勉強、研究室内でのプレゼン準備なども含めて</u>も構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。**

設問 11. 大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義に対してどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 実験・実習についてはどうですか。

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

それぞれについて簡潔に記入して下さい。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（ ）内に番号を記入して下さい。 (1) 学業（ ） (2) 学生生活（ ） (3) 進路（ ）

設問 13. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。

(1). 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

評価 / 施設	1. 充分満足	2. ほぼ満足	3. どちらとも言えない	4. やや不充分	5. かなり不充分
1. 講義室					
2. 実験・実習室					
3. 情報処理演習室					
4. 蔵書室（４階）					
5. 学生自習室・学生控室（２階）					
6. 卒業研究を行った研究室					

(2). 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

[卒業研究について]

設問 14. (1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。
(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。
設問 15. (1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。
(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは、進路の決定にどのように影響しましたか。
(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

[本学部の教育のあり方について]
設問 16. (1) あなたが本学部を卒業するに当たり、大学卒業者に相応の知識や学力を身に付けたと感じていますか（大学卒業者に相応の知識・学力は自分のイメージしたもので結構です)。
(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。
設問 17. (1) 本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を、次の項目の中から一つを選んで下さい。
(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい
設問 18. (1) 総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。
(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。]

２．調査結果

設問 1. あなたの所属学科をお答えください。

表Ⅰ－１．各学科の卒業生と回答者数の推移

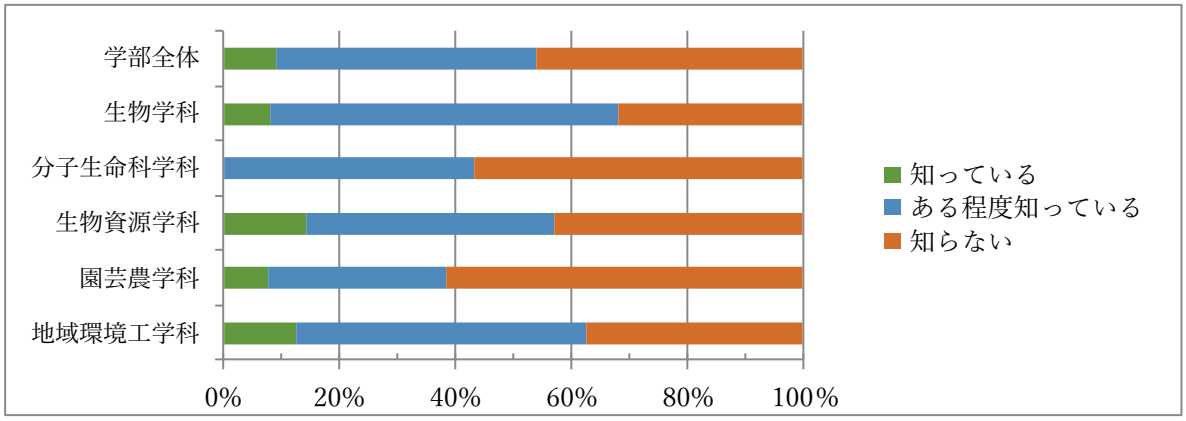
	H28 年度			H27 年度			H26 年度		
	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）
生物学科	43	25	58.1	45	15	33.3	38	33	86.8
分子生命科学科	53	23	43.4	42	24	57.1	35	31	88.6
生物資源学科	36	35	97.2	35	25	71.4	34	30	88.2
園芸農学科	37	26	70.3	38	27	71.1	38	38	100.0
地域環境工学科	31	24	77.4	28	26	92.9	26	25	96.2
合　　計	200	133	66.5	188	117	62.2	157	171	91.8

平成 28 年度の卒業予定学生 200 名のうち，回答者は 133 名 (回答率 66.5%)であり，平成 27 年度の回答率（62.2%）に比べやや上昇したものの、平成 26 年度の回答率（91.8%）からは大きく減少したままであった。生物資源学科で回答率が 97%と高かったが、他学科では約 43～77%と

学科間の差異も大きかったことから，アンケート配布前に学生への依頼・通知方法について改善する必要があると考えられる。

[学部・学科の教育目標等の認識について]

設問 2. 本学部の教育理念、教育目的および教育目標を知っていますか。

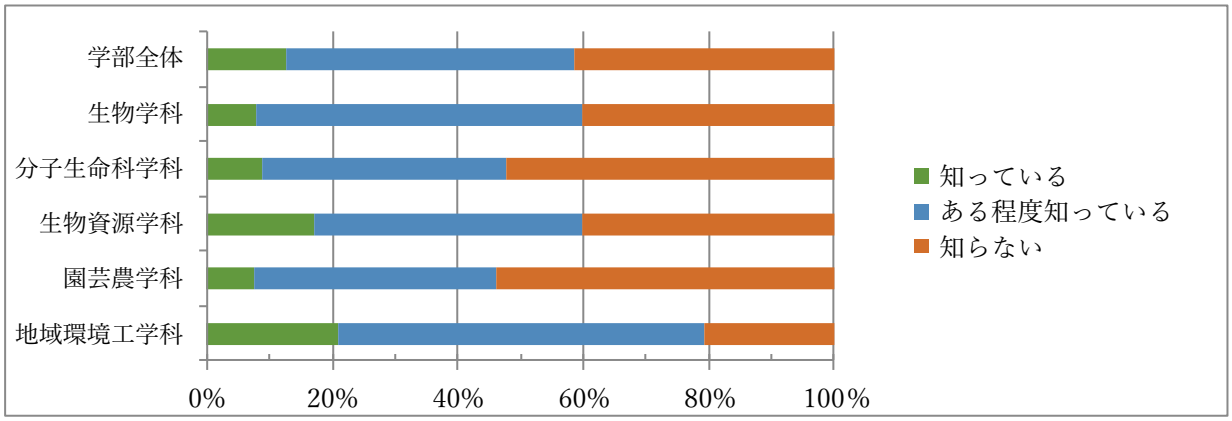


図Ⅰ-２．理念、教育目的および教育目標の認識

学部全体で見ると，「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 54%以上で，過去 2 年（平成 26 年度 54%、平成 27 年度 51%）と比べて変化はなかった。分子生命科学科および園芸農学科では他学科に比べ「知らない」と答えた学生が多く、およそ 60%を占めた。

設問 3. あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

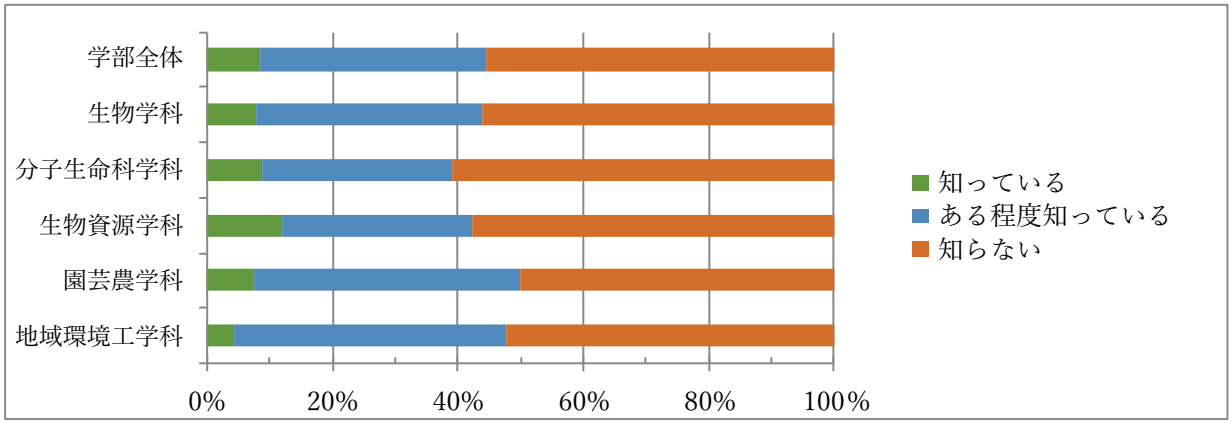
(1) 教育目標について



図Ⅰ-3 （1）. 学科の教育目標の認識

学部全体では、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 58%で、過去 2 年と同程度であった（平成 26 年 62%、平成 27 年度 51%）。昨年度と同様に、地域環境工学科では「知っている」と「ある程度知っている」の合計が最も高く 79%であった。分子生命科学科および園芸農学科では、昨年に比べ 5～13%程度減少した。

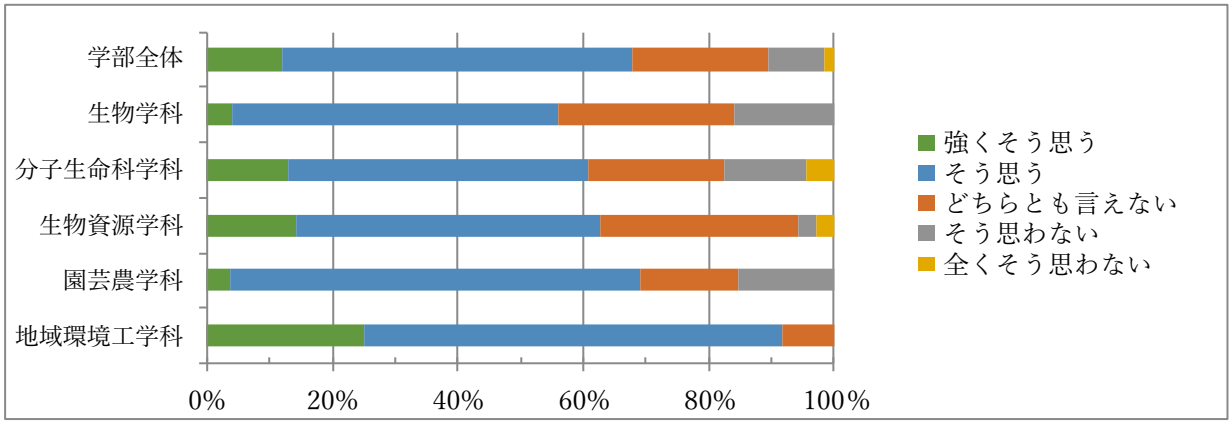
(2) アドミッションポリシーについて



図Ⅰ-3 （2）. 学科の入学者受け入れ方針の認識

学部全体では、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 44%程度であり、過去 2 年（ともに 39%）とほぼ同程度であった。学科別では、分子生命科学科で 13%程度の減少が見られた。

設問 4．(1)あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが、学科のカリキュラム（21世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。



Ⅰ－4．学科の教育目標とカリキュラムの合致

学部全体で見ると、肯定的な評価が 68%で、過去 2 年（平成 26 年 66%、平成 27 年度 71%）と同程度であった。地域環境工学科では肯定的評価が 28%上昇した。

(2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1. 学科の教授の授業は教育目標に合致しているため。
2. 生物に関する様々な分野の講義を受講できた。
2. 専門知識を学べるから。
2. 広い分野に触れることはできたが，教育に熱のない教員の授業が面白くなかったので 2。
2. 文理両方の教養をえることは大事で，21 世紀科目は良い刺激になり得る。ただ，要求取得単位数が多い気がする。専門科目は良いと思う。
2. 4 年間学んできて，教育目標にあるようなことを身につけることができたと思うから。
2. 専門科目では，幅広い分野を学べ，実習や研究を通して実践的な知識を持つことができたため。
2. 目標に合致していると思うが，他学科の講義をもっと受けられた方が知識は深まると思う。
2. 青森県の具体的な自然や環境歴史などについての科目が用意されているため。
3. 農学分野について基礎知識がついたのか判断できない。
3. 生物学の様々な分野についての知識は得られたが，それぞれの科目および内容が独立してるこが多く，結びついてないように思う。また白神山地に関しての専門科目（授業）がないのは，教育目標からするとどうなのかと思う。
3. 授業数が少なく，選択肢の幅がないため，合致しない場合があると考えた。
3. 21 世紀科目は，基礎学力を養うため，若干自分の学科には関係ないような科目も受けざるを得ない。専門は，概ね満足できる。先生も分かりやすく魅力的な授業をする。しかし，教育目標の「生物学科の発展に寄与できる」「実際的・応用的視野を持つ」という部分を実現するの

は難しいと思う。学部の授業で学ぶことはあくまで「広く浅く」で，研究室配属されて 2 年でそこまで成長できる人は少ないだろう。
3. よくわからない。
3. 学習範囲としては合致していますが，深く理解できていないので，身につかない。
4. 明確な目標を感じない。
4. 21 世紀教育科目は，カバーしてる分野は多いが，浅すぎて身についているかといえばそうでもない。一方で専門教育科目は一つ一つの講義は内容が濃くて良いが，興味のある分野の講義が，ゼミ配属後じゃないと受けられない場合があるので，ゼミ決定（専門分野の決定）の参考になりえない事があるのがｻﾞﾝﾈﾝ。
4. フィールドワークのカリキュラムが少なすぎる。
4. 専門教育科目については合致していると思うが 21 世紀教育科目についてはそもそも講義として存在する意義を感じにくい。

【分子生命科学科】
1. バイオマスなどの学問をしっかりと学ぶことができると考えるため。
1. 専門教育科目において、生化学・分子生物学を中心に最先端のバイオテクノロジーについて学んだから。
1. 基礎をしっかりやっていると思うから。
2. 次世代の資源利用、開発に関わる講義だったと思う。
2. 自己の経験に基づいて。
2. そう思うから。
2. 応用する上で欠かせない基礎となる部分をしっかり学ぶことができるから。
2. ２１世紀教育においても学科の先生による専門科目の履修を見越した授業が行われていたから。
2. 教育目標に記された様々な分野の講義があったから。
2. 専門教育科目の内容をちゃんと学べば、その目標の人材を育てることができると思うから。
2. 有機化学や分子生物学など様々な分野の学問を学べるから。
2. 得た知識・技術を応用に発展させていけるいい人材が育ちそうです。
3. 充実した内容の科目もあったが、そうで無い科目もあった。
3. 毎年同じ教科書を使っているため、その年の最先端を学んでいるとはいえない。
4. ２１世紀教育科目はほとんど高校時点で理解できているもので、意味のないものだと感じた。専門教育はとても重要であるため、こちらの時間を長くした方が良い。
4. ムダな授業が多い。
4. グローバルを目指しているのか、いないのか矛盾している。

【生物資源学科】
1. なんとなく。
1. その通りのカリキュラムになっていると思います。
1. バイオテクノロジーなどについて満足に学べたと感じるため。
1. 授業で目標が達成できるから。

2. 専門科目は合致していると思うが，21 世紀教育科目は合致していない部分もあると思う。
2. 幅広いテーマを扱った講義が多かったため。
2. 教育目標と受講した講義の内容が合致しているため。
2. 育種学，植物バイオテクノロジー，植物ゲノム，食品，昆虫と実験もあり，実際りんご園なども行き，学内での知識，実習地での専門的な知識など学べるから。
2. 学生実験，コア科目で実地・座学どちらも実践できるから。
2. 教育目標にある分野は必須でだいたい網羅されていて，選択でさらに深めることも出来たなと思うため。
2. 基礎授業を行っているから。
2. 食品科学から病害のことまで幅広く学べるため。
2. 食に関する講義がないため。
3. 判断が難しかったから。
3. そもそも学科の教育目標を知らないので。
3. 食品に力をかけすぎ，環境などへの力の入れ方とバランスがあまりとれていないため。
3. 必修専門教育科目を増やすべきであると考えているため。
3. 座学は非常に充実していて，学ぶ側としてもタメになる。ただ実習に関しては不足ぎみだと思う。もう少し早くに研究室配属されたほうがいいと思う。
3. 合致していると思えるカリキュラムもあれば，関連性がまったく分からないカリキュラムもあると感じたから。
4. 学科内の分野が幅広すぎて，理解が追いつけなかった。

【園芸農学科】

1. 弘前大学の農学生命科学部の中で，最も農業に近い研究が出来るので。
2. 学科に特化した科目が必修などになっているから。
2. 必修あるいは選択必修科目が園芸学に関連するものが多く，役に立った。
2. 学生のやる気次第ですが，内容は適切だと思う。
2. 座学だけではなく，実習や調査にも取り組んでいるから。
2. 農場実習等があり，実践的な事が学べたから。
2. 目標を達成していると思うから。
2. 地域特性の講義も行っているから。
2. カリキュラムに書いてあることをやったから。
2. 実際，研究室の属性が多様で幅広く学べるため。
2. 各教員によって目標に沿った教育を実施していた。
2. 学内だけでなく，外での研修活動も行っているため，学んだことが外ではどうなっているのか理解出来る。
2. 講義を受けてみた実感。
3. 人によると思う。
3. 選択必修で農業に関する分野を学べるが，基礎までがほとんどである。応用からは選択になるため，等しく学ぶことはできない。
3. あまりにも 21 世紀教育科目が多すぎる。

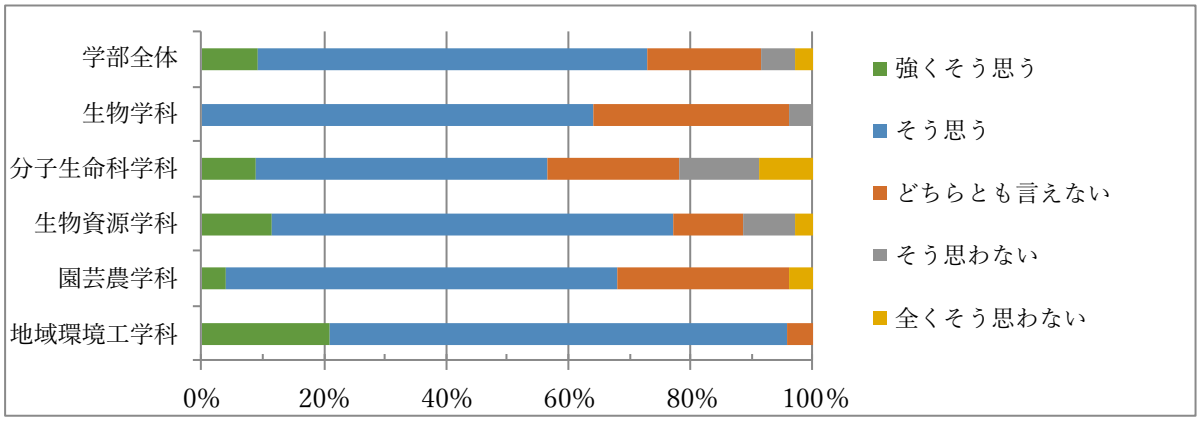
4. 21 世紀教育科目の単位数が多く，1.2 年の頃にまったく専門科目の授業がないため，実質 2 年間しか専門分野を勉強できない。そのため，知識がないままゼミ配属さえ，農業に関して幅広く学ぶことができない。
4. 1 年時の 21 世紀教育科目の取得単位数が多い。1 年時の専門科目が少なすぎる。
4. 授業が分かりづらく，学生に「教える」というよりは，とりあえず 90 分で内容を詰め込もうとする教員が多い。このくらい知っていて当たり前ということを前提に授業を進め噛み砕いて誰にでも分かるような説明をしない。

【地域環境工学科】

1. 今までの講義の内容は，教育目標通りの内容だったため。
1. 専門的知識を身につけるための基礎であったことを勉強してみて感じたから。
1. そう思うから。
1. その通りに学習したから。
1. 農業土木だけでなく，地域計画等地域づくりに関する授業も行われている。また，より良い技術者育成のため，技術者倫理についても学べる。
1. 専門に関することを丁寧に指導し且つ，技術者倫理に反することなく講義が進められていると感じたため。
2. コースで学ぶことのできる授業が教育目標の内容と一致しているため。
2. 目標を達成するために必要な科目であるといえると感じたから。
2. 21 世紀教育科目についてはそう思わない。
2. JABEE コース進学について，技術士となるために必要な知識を学ぶことができたから。
2. 学生の身になってくれる教員がいたため。
2. JABEE コースに必要な知識を学べたから。
2. 講義の内容が広く，総合的に農業土木を基礎として学べるものだから。
2. 多方面の科目を取れるため。
2. 先生方の話す内容から感じた。
2. 学科が求めている目標に達成できるような適切なカリキュラムが組まれていると思う。
2. 専門的なことをできていると思うから。
2. そのような勉強ができたと思うから。
2. 受けてみて思ったから。
2. 関連した授業がしっかりあるように思われる。
2. 専門知識の学習やインターンシップでの現場学習など行っているから。
3. よくわからない。
3. 学ぶ内容の幅が広すぎる。

[学科の専門教育について]

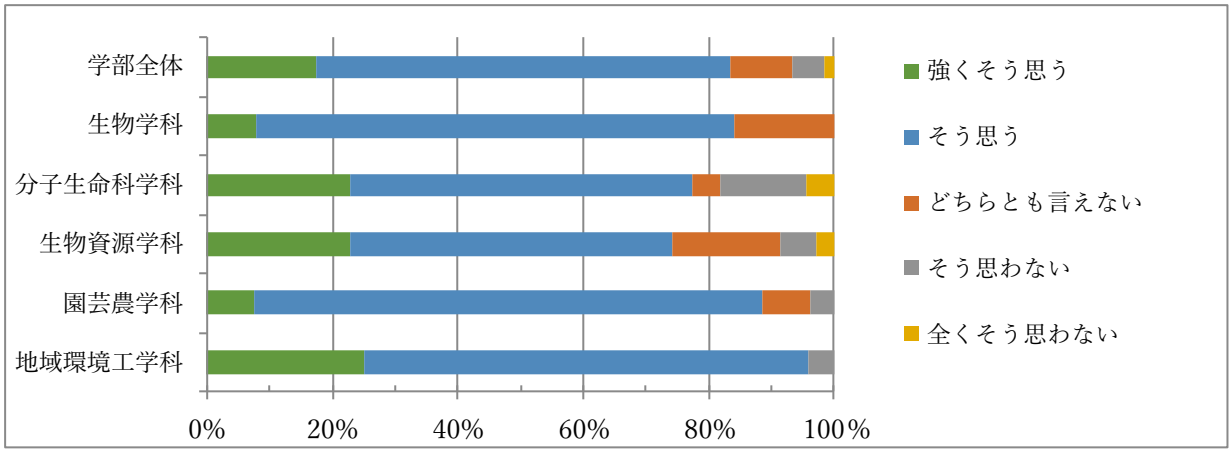
設問 5. 本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが、ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。



図Ⅰ-5．ガイダンス内容が適切だったか

学部全体では、肯定的な意見の割合が 59%（26 年度）、65%（27 年度）、72%（28 年度）と推移しており、昨年度より 7%上昇した。特に地域環境工学科での肯定的な評価が高く（約 95%）、昨年度に比べ 18%上昇した。

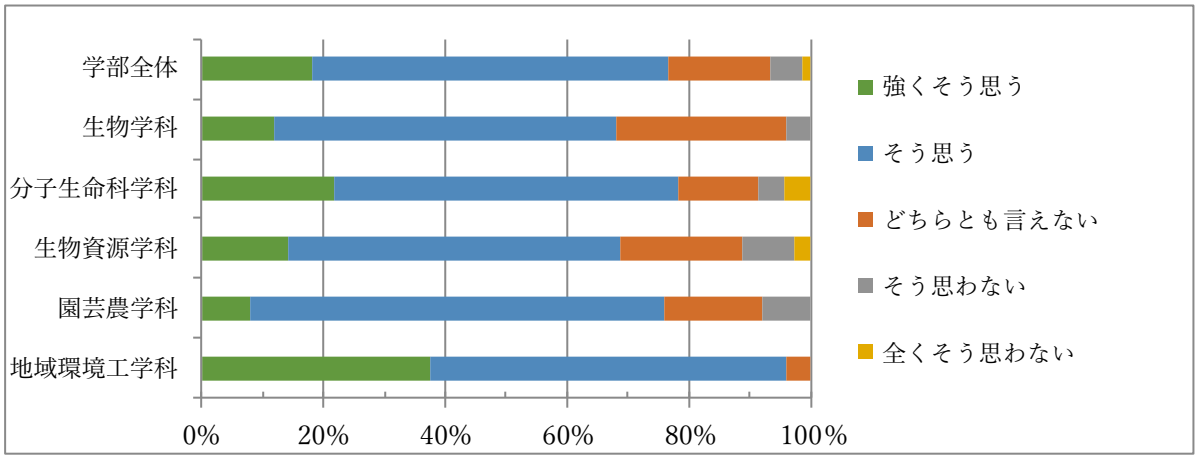
設問 6. シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。



図Ⅰ-6．シラバスは役立ったか

学部全体での肯定的な意見は、83%で、過去 2 年間（平成 26 年 81%、平成 27 年度 86%）とほぼ同じであった。昨年同様、生物資源学科での肯定的意見が 76%と最も低かった。シラバスの内容をさらに充実する必要がある。

設問 7. (1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。



図Ⅰ－7（1）．あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか

学部全体では、肯定的意見が 78%で過去 2 年間（平成 26 年 73%、平成 27 年度 77%）同様であった。昨年に比べ、分子生命科学科および地域環境工学科で満足度が上昇した（約 17%）のに対し、園芸農学科では 20%減少した。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1. 各教員の研究内容なども知ることができるため。
1. 専門性が強く，教えることに熱心な先生が多かったため。楽しく，わかりやすい講義が多かった。それを創るための自由度の高い講義が印象深かった。
1. とにかく面白かった。研究だけでなく教育に力をしっかり入れて下さっている先生が多かったから。
2. 生物学としての授業はとても勉強になった。「生物学科の発展に寄与できる」ような研究をするには，どのような能力・考えが必要なのかを具体的に教わる授業が欲しかった。
2. 生物について学べたので。
2. 実験をはじめ，先生ごとに特色のある授業が受けられて楽しかった。
2. どの講義も面白かった。
2. 教員によりますが，興味のある分野の授業が理解しやすかったです。
2. 自分が学びたいと思える科目に対してある程度の選択の自由があり，内容も専門的だと思えるため。
2. 「基本的に単位だけは真っ当に努力すればとれるが優以上をそるのは容易でない」という教員側の姿勢を感じる。
2. 専門知識が増えたと感じるから。
2. 受けたい内容の授業が選べた。
2. 今までに知らなかったことを学べたから。

2. 「そう思った」から。
2. 実験から野外実習まで幅広い体験ができたから。
3. 教職科目と重なって受けたい講義を受講することが出来ないことが多々あり，そこが満足できない。
3. 講義の質にかなり幅があるので何とも言えない。良い講義はとても役立つし，雑な講義は本当に何のためにやってるのかわからない。
3. 講義により質の高さに差がありすぎる。専門的がゆえ理解が難しいのではなく，先生側の講義の仕方（内容）に対して不満をもつものがいくつかある。
4. 言ってることと書いてることが違ったり，そもそも言ってることが当たってないことがあり，不満のある授業があった。

【分子生命科学科】
1. 高校では触れない深い分野を幅広く学べたのは良かった。
1. 後の研究室で利用するため。また、研究室を選ぶ際に自分が興味を持った部門に進むかどうかの指標にもなる。
1. バイオマス等の次世代に必要な知識をしっかりと学ぶことができたため。
1. 役立っているので。
2. 幅広い知識を身につけることができたから。
2. より専門的に学ぶことができました。
2. 自分の興味のある分野について学び、未知であることについて研究できたため。
2. ガイダンスを受けても授業の選択に役に立ったとは感じなかった。同様にシラバスを見てもあまりピンとは来ない。しかし専門科目はどれも興味深かった。
2. 十分に専門的知識をつけることができた。
2. 異なる分野の知識も得られたから。
2. 様々な分野の内容が学べて視野が広がり、内容も面白かったから。
2. ためになったから。
2. 基礎から応用まで幅広く学んだことを研究室で実践することができたから。
2. 自分が学びたいと考えていたことを学ぶことができたから。
2. 内容が少し一般的なことで、もっと専門的でも良いと思った。
2. 研究で使わない内容も多かったが、知識として様々なことを学べたので満足。
2. 自己の経験に基づいて。
3. 研究や就職先で役に立ちそうなものもあれば、全くもって一切使わないものもあった。
5. 理工学部の授業が面白かった。

【生物資源学科】
1. 授業がわかりやすいから。
1. 教育目標の通り，幅広い分野の勉強をすることができたから。
1. 植物病理学・昆虫生理学・菌学など，専門知識を深める科目が多かった。
1. 専門的な事を教授から教わることができたから。
2. 授業を通して他方面から農業分野への改良・開発ができると学べた。

2. 入学当初は興味本位で食品の研究室に入りたかったが，専門科目を受けて，性に合わないと身をもって感じることができたから。
2. 学びたいことを学習できたから。
2. 期待通りの教育を受けることが出来たが，期待を超える事は無かったため。
2. 実験・実習地ともに充実している。
2. 最新の知識を分かりやすく教えてもらったため。
2. 学科内に，まったく違う分野の専門が多くあったが，大半は興味をもつことができ，一部はまったく興味をもてなかったため。
2. 様々な分野のことを学べたため，知識が身についた。
2. 専門知識の修得だけでなく，プレゼンの手法や人との連携についても専門教育を通して学べたため。
2. 様々な分野が入り混じっているため。
2. 教育目標にあった専門教育がなされているから。
2. 学科で受けた専門教育の影響で考え方が変わる事象等があったから。
3. 満足した講義もあったが，もっと実践的な教育がほしい（学生実験の頻度をあげてほしい)。
3. 自分が理解できていない講義が多いから。
3. あまり今後必要としない講義が多い。
3. 食品系の専門が少ない（食品系の学科と言っている割に)。
3. 他学科の講義を受けることに対する壁が高いように思える。
4. もっと自分の興味分野に特化して授業を受けたかった。
4. ためになってないから。
4. 幅を増やして欲しいと考えるため。

【園芸農学科】

1. 講義が充実しているため。
1. 農場実習がよかった。
2. より深く専門的なことを勉強できたから。
2. 自分が学びたい科目を履修することができたから。
2. どの科目も分かりやすく，卒業研究に向けての知識につなげることができた。
2. 講師の指導がわかりやすいから。
2. 興味のある事を学ぶことができたから。
2. 1 年時に受けられる科目が少ないのは難点だが，2.3.4 年時の授業内容は充実していた。
2. 専門的すぎて興味のないものあるものがはっきりしていたから。
2. 自ら学びたいものを学ぶことができたので。
2. 知識がついた。
2. 学びたい事を学ぶことができたため。
2. 幅広い専門分野を自由に学べたため。
2. 充実していた。
3. 先生によって面白さが全く異なる。
3. 有意義な講義は多かった（専門）が，どうしても他学科の講義と重なるものもあったため。

3. 身に付けた知識が役に立つとは限らないから。
4. 花卉園芸学の講義が少ない。
4. 1.2 年生の頃に専門科目が少ないため。

【地域環境工学科】
1. 自分が学びたかった分野を詳しく学ぶことができたほか，就職にも役立ったため。
1. 将来の役に立ったと思うため。
1. 教わりたい内容を学べるから。
1. 専門的知識を幅広く学ぶことができた。
1. 自分の学びたかった学問の知識を存分に教えてくれたから。
1. 就職に関わる勉学ができた。
1. 資格をもらえるから。
1. 専門的知識を得られたと思うので。
2. 必要な知識が備わったから。
2. 学びたいことが学べるため。
2. 就職に有利である。
2. 教員は熱心に講義で教えていた。
2. JABEE で資格がとれるから。
2. 土木工学中心に学べたから。
2. 概ね専門に関することを広く指導していただいたが，その教授の専門内容に特化しすぎるものも，ままあった。
2. 基礎的な部分をしっかりとしてくれるため。
2. この学科において必要な専門教育であったと感じたから。
3. 先生によって，教育指導基準が異なっているように感じたから。

[教員の指導について]

設問 8. (1) 所属する学科の教員の、講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます）。

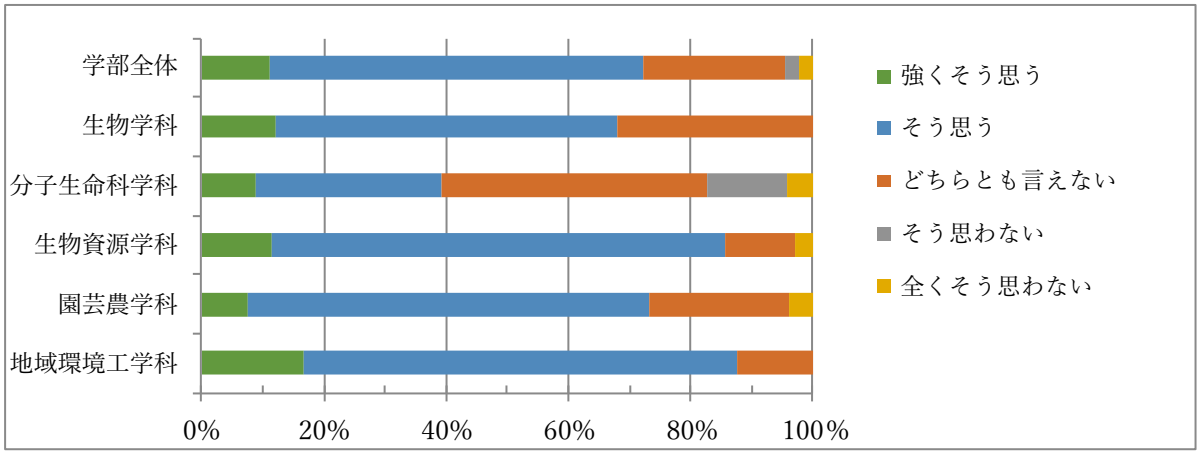


図 I－8. 教員の指導や対応に満足か

学部全体では過去2年と同程度であった（68%、69%、72%と推移)。学科間では過去2年の傾向と同様、分子生命科学科で肯定的な評価が最も低く39%であった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1. 教員はみんな熱心で学生への対応も素晴らしいと思う。
1. 十分な指導をしていただいた。
1. 自然科学を学ぶ上では，座学のみならず，自由度の高い講義が必要であると思う。本学科ではそれを受けることができた。
2. 教員にもよるが，実験操作や質問等に丁寧に対応してくれたから。
2. 講義が熱心でした。
2. よかったから。
2. 多くの教員の方々は，親切に指導してくださったと思います。
2. 生徒の相談によくのってくれる。
2. 疑問に思ったことなども質問すれば詳しく教えてくれるため。
2. 先生によって出席，テスト等での配点が異なるので事前に（初回に）説明が欲しい
3. 教員の中でも，学生のことを考えて下さる方がいるが，一方で学生側が理解する前に次のステップに進んでしまう方がいるので。
3. 覚えてない。
3. 人により授業の教え方が違うから。
3. 何とも言いがたいから。

【分子生命科学科】

1. 自分がわからない点における質問に対し、わかりやすく説明をしてくださいました。さらに＋αの知識を教えて頂き、興味を持たせるような指導をして頂いたため。
2. 授業のわかりやすさに差はあるけども、質問には必ず答えてはくれるので満足している。
2. 一部満足できない教員がいたから。
2. 誠意が伝わってきたから。
2. それなりだから。
2. 自己の経験に基づいて。
2. 授業内容がわかりやすい先生が多かったから。
3. 教員による。
3. 自分の研究分野をひたすら語っているだけの教員が多々いたから。
3. いいと思う教員のテキトーな教員の差があった。
3. 対応に満足している教員としていない教員がいるから。
3. 先生によって説明のわかりやすさに差があった。
4. 学生によって対応を変える教員が少なからずいたため。

【生物資源学科】

1. わかりやすい。
1. 1人1人に親身になって様々なことを教えて下さるから。
1. 資料や板書を中心にわかりやすい授業が多かった。
2. わかりやすく説明してくれる教員もいた。
2. 稀に文章的に意味の通じない授業をする方がいましたが，多くの先生は基本的に分かりやすく説明しているように感じたため。
2. わかりやすく伝えようというのを強く感じたから。
2. 教員の指導や対応に明らかな不足は感じられなかったため。
2. 板書やプリントなど工夫が見られた。
2. 講義内容の確認を授業の最初に行っていたから。
2. レポートやテストなどを早めに告知してくれた。
2. 大半の先生が丁寧に指導して下さったため。
2. きちんと説明してくれるので。
2. 指導を的確にしてくれた。
2. 授業がわかりやすかったから。
2. とても親身に授業をされていたため。
2. 先生ごとに色々な工夫があったから。
3. 講義に関して，難易度に差を感じることがあるため。
3. 満足できた人と満足できなかった人がいたため。
3. 指導や対応がわかりやすかったり，丁寧な教員もいれば，指導や対応がわかりにくかったり，雑な教員がいると感じたから。

【園芸農学科】

1. 親切に対応してくれる教授が多いので。
2. 一から教えてくれたため。
2. 丁寧に指導していただいたと思います。
2. ちゃんとやってくれていたから。
2. 週数回にわたりゼミを聞かせていただき，興味のある分野の勉強をさせていただいたので。
2. 分からないことをていねいに教えてくれた。
2. 楽しく学ぶことができたため。
2. わかりやすく教授いただいたから。
2. リアクションペーパー等で学生全員の質問に答えてくれるため。
2. 分かりやすかった。
2. 特に基礎ゼミの時に大学は未知の部分を解決するところだと印象づけられた。
2. 先生によって違うけど，熱心に講義していただいた。
2. 不明な点をすぐに解決してくれるから。
2. 親身に教えてくれたから。
2. 実際に，質問にきちんと答えて下さる教員の方が多かったため。

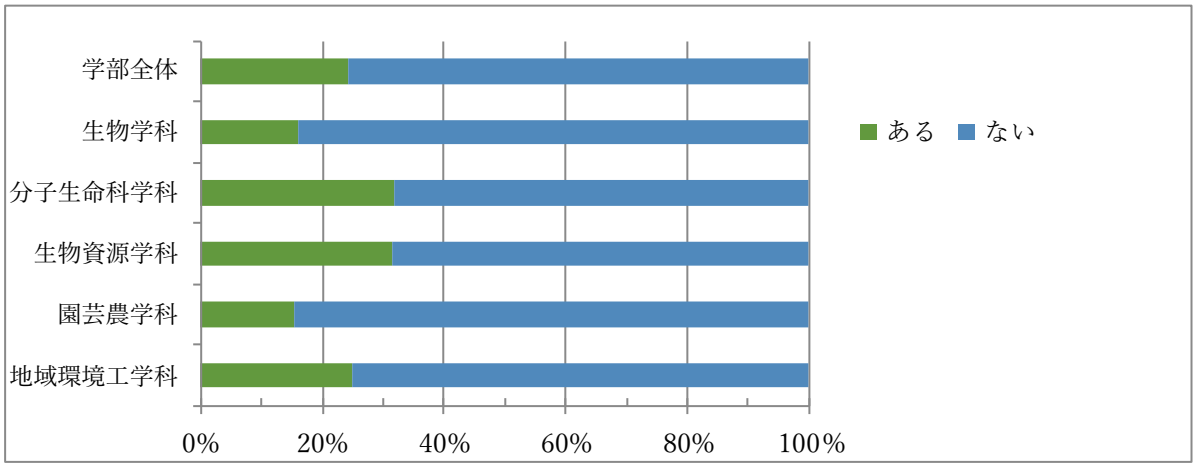
3. パワーポイントによる説明が多いため，内容が頭に入ってこない。
3. そうである人とそうでない人がいるため。
3. 特に何も思わない。
3. その先生によって異なる。授業の準備をしてくる先生と，そうでない先生で授業の面白みが全く異なる。厳密に言うと，授業の準備に時間をそれる先生，そうでない先生，生徒に分かってもうら努力をする先生，そうでない先生に分かれる。
5. 指導力が欠如しているため。

【地域環境工学科】

1. 分かりやすく，また，優しく教えてくれるから。
1. 強くそう思うから。
1. 質問時に丁寧に教えていただいた。
1. １人１人に対応した丁寧な指導をしていただけた。
2. レポート等の提出期限はきちんと事前に口頭ではなく用紙などで予告し，時間を守る教員が多数いたため。
2. 課題なども適切で理解度を深められる。
2. 講義の説明がわかりやすく熱心な先生が多いため。
2. たまに理不尽に怒る人もいたが概ね満足。
2. 学生の理解度を確認しながら授業をしていたから。
2. 配慮されていた。
2. 丁寧に教えて頂いたり，課題なども適切であったから。
2. 多くの教員が自主性を促すなど，適切な指導であったと考えられる。
2. 教えてくれる部分について教員の熱意を感じたため。
2. 適切な指導，対応であったと感じたから。
3. 教員の字が汚い。
3. 時と場合による。

設問 9. 履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

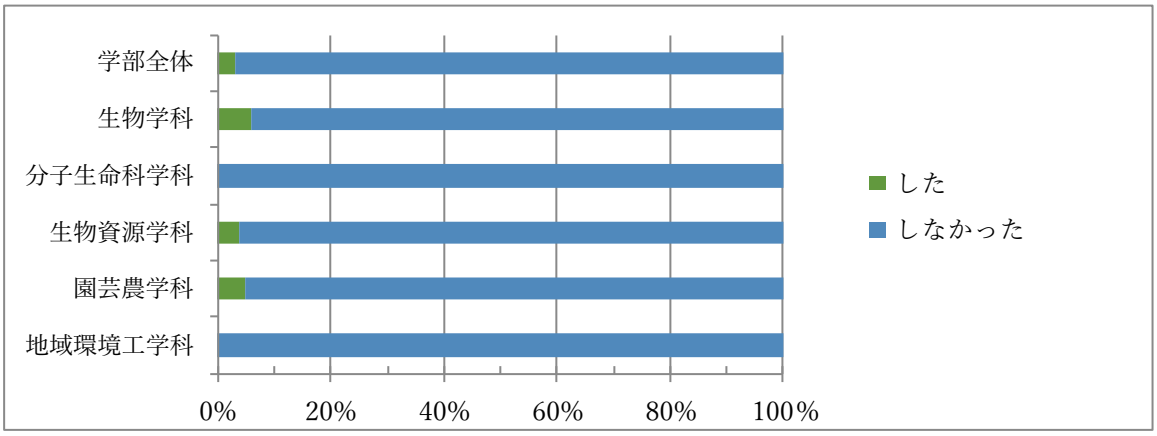


図Ⅰ-9（１）成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはあるか

学部全体で成績評価に疑問があったと回答した学生の割合は約 23%で、昨年度にくらべ 5%上昇した。分子生命科学科および生物資源学科で「ある」と答えた割合が高く（約 33%）、それぞれ 12%および 4%上昇した。

(2) 疑問や異議があったときは、学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが、あなたはそれをしましたか。した場合、その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

1. した　2. しなかった



図Ⅰ－9（２）．成績評価の問い合わせをしたか

学部全体では過去 2 年（平成 26 年 95%、平成 27 年度 100%）と同様に、97%の学生が成績評価について問い合わせていなかった。

【生物学科】
2. 制度の存在を知らなかった。周知していますか？

【分子生命科学科】
2. 学務の対応が悪く心に傷を負った。

【生物資源学科】
2. １つくらい納得できなくとも，様々な先生がいると思い，他で補っていたため。

【園芸農学科】
なし。

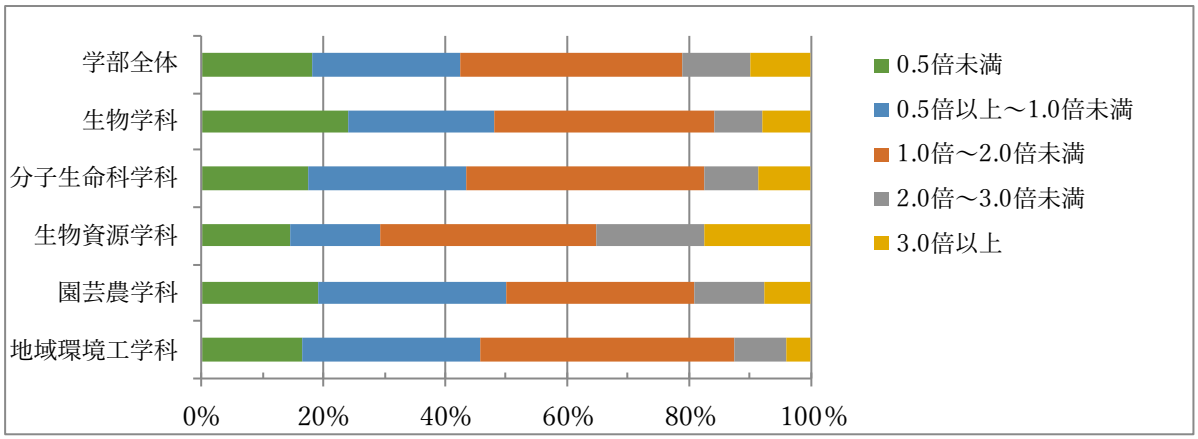
【地域環境工学科】
2. 知らなかった。
2. しづらい環境であった。

[学生の主体的学習について]

設問　10. 講義や演習の受講に当たり、その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を、講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に、「１単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。２単位の科目の場合、90 時間の学習が必要な計算になりますが、講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで、講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間にはインターネットを利用した関連情報の収集、課題や実験レポートの作成、外書講読・文献講読・専門英語の予習、小テストのための勉強、中間や期末試験のための勉強、研究室内でのプレゼン準備なども含めても構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。

1. 0.5 倍未満　　2. 0.5 倍以上～1.0 倍未満　　3. 1.0 倍～2.0 倍未満

4. 2.0 倍～3.0 倍未満　　5. 3.0 倍以上



図Ⅰ－10. 1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てたか

学部全体で学習時間が「1～2 倍未満」と回答する割合が最も高く 48%であった（昨年は 41%）。「2～3 倍未満」および「3 倍以上」の合計は 19%であり、昨年と同程度であった。「2 倍以上」の割合は生物資源学科で最も高く（35%）、地域環境工学科で最も低かった（12%）。授業外学習時間が短いことは依然続いていることから，何らかの対策を取らなければ全体学力低下の状態を招く恐れがある。

設問 11. 大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

主体的・意欲的学習を，学生自身が講義室外で学習したことを示す記述の有無を基準として判断すると，回答総数 113 件のうち，該当したのは以下を含め 19 件（16.8%に相当）のみであった。

回答例：「配布資料や参考書などに対して分からない所があれば自分で調べた（生物学科）」、「その日あった講義の復習・予習を毎日行った（分子生命科学科）」、「難しそうな内容は予習して，ほ

かは復習メインでおこなった(生物資源学科)」、「要点を理解するように取り組んだ(園芸学科)」、「わからない所があれば，教員友人等に質問し解決を目指した（地域環境工学科)」など。

これに対して， 単位を取得のみを目的とし， 以下のような,受動的であることが明白な記述は24 件（21.2%に相当）であった。

回答例 :「卒業証をいただくために必要なもの(生物学科)」、「講義室の真ん中より前半分の位置で、講義中寝ないようにした(分子生命科学科)」、「単位がとれるように取り組んだ(生物資源学科)」、「講義にはほぼ欠かさず出たが、1/4 程は集中していない状態だった（園芸学科)」、「適当な姿勢で取り組んだ（地域環境工学科)」など。

設問 10 で示したとおり，1 日当たりの予習と復習時間の合計時間が講義時間の 1 倍未満と回答した学生の割合が学部全体で 43%にのぼることからすると，「意欲的」とは講義時間内に限ってのこととも受け取れる。受動的と思われる学習姿勢が多い傾向は， 昨年度と同様であった。大学での学びにおける「主体的・意欲的な学習」のあるべき姿勢について入学直後に積極的に指導する必要があると思われる。

残りの回答は，以下の回答例に示すように,「真剣」， 「真面目」,「意欲的」という言葉を使っているが，具体的内容が書かれておらず，受動的な学習との区別ができなかった。

【生物学科】
・向上心を持ってやりました。
・意欲的に学習した。
・できる限り先生が伝えたいことを理解しようとした。
・積極的姿勢だったと思う。
・真剣、一所懸命。
・知識を付けたい。興味の幅を広げたい。
・真面目に取り組めた。
・教員の話を聞き自分で考えて理解する。

【分子生命科学科】
・積極的に取り組んだ。
・自分の知らないことを吸収しようという考えで臨んだ。
・真剣に取り組んだ。
・中間あたりの席に座るほどの意欲。
・意欲的に取り組んだ。
・新たな専門知識を取り入れるため意欲的な姿勢で取り組みました。
・比較的真面目に。
・全力で。
・試験勉強が最小限に済むよう講義中に内容を理解できるよう集中した。

【生物資源学科】
・真剣に取り組んだ。

・ノートとるのに必死でした。
・意欲的ではないが，消極的でもない姿勢。
・講義内容をその講義時間内に理解できるよう取り組んだ。
・なるべく良い成績をとれるよう勉強した。
・板書を見やすく書く。
・興味のある事は楽しみ，ないものは理解する努力した。
・授業に出る。
・しっかり先生の話を聞こうと努力した。
・絶対に休まないようにした。
・テストのために，秀をとろうと心掛けた。
・少なくとも何か１つは新しく身につけて帰ろうと考えながら取り組んだ。

【園芸農学科】
・講義中に頭に入れられるよう努力した。
・新たな知識，見解を得ようとした。
・自分の興味のある分野には意欲的に取り組んだ。
・知識を得ようと努力した。
・その回の講義内容を授業時間内での理解に努めた。
・真面目な姿勢。
・先生の話を注意深く聞いた。
・面白いと感じた講義には本気で受けた。

【地域環境工学科】
・意欲的に取り組んだ。
・一番前の席につき，常に講義にとりくんだ。
・比較的前の席に座るなどしたが，発言等はしていない。
・真面目に取り組んでいた。
・知識を学ぶ姿勢。
・講義の内容がそのまま就職後も生かされるので，大切なことはノートにとってまじめに受けた。
・集中し，しっかりとノートをとるようにした。
・授業だけで理解できるくらい集中した。
・何事も吸収しようとする姿勢。
・良い成績がとれるように。
・講義の内容をよく聞いて理解しようとした。
・学ぶべきことはきちんとした姿勢で取り組んだ。
・良以上の成績をとらなければならないという気持ちで取り組んだ。

⑵ 実験・実習についてはどうですか。

全回答数 109 件中，23 件（21.1%）は下記の回答例のように自身が行った取り組みや学習成果

を具体的に記述していた。

回答例:「理論を理解出来るように調べつつ行った(生物学科)」、「手法や原理を調べて備えた(分子生命科学科)」、「仲間と協力し,グループみんなで理解しながら実験を進めた(生物資源学科)」、「卒業研究に役立てるように意識した（園芸学科)」、「手順などを頭に入れ，スムーズに進むようにした（地域環境工学科)」など。

しかし，大多数（75 件，68.8%）は、「真剣に取り組んだ」、「積極的に行った」などのように前向きな記述であったが具体的な記述が無かった。

少数（11 件，10.1%）ながら、下記の回答例のような受動的取り組みや否定的な記述もあった。

【生物学科】
・受け身の姿勢で，意欲的ではなかったと思う。
・積極的にとりくんだものの，与えられた課題以上のことはやらなかった。
・単位目当て。

【分子生命科学科】
・休まないようにした。

【生物資源学科】
・意欲的ではないが，消極的でもない姿勢。
・単位がとれるように取り組んだ。
・できるだけ参加する。

【園芸農学科】
・冬の情報実習は過酷でした。

【地域環境工学科】
・言われたことはきちんとやった。
・ものによって，時間の長さが違いすぎるのをどうにかして欲しいと思った。
・学習方針程度に。

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で,もっとも印象に残った科目があれば,その科目名と理由を記入して下さい。

講義の内容や教授法のすばらしさが理由で印象に残っている科目，代えがたい体験を理由に印象に残った実験実習科目，および単位取得に苦労した科目が記入されていた。これらの科目のうち，3 名以上の学生が記入した科目は，生物学科で「臨海実習」(4 名)，分子生命科学科では複数回答なし，生物資源学科で「応用昆虫学」（6 名)，園芸学科で「農場実習」(8 名)，地域環境工学科で「地域環境工学実験」(7 名)であった。印象に残った理由は以下の通りである。

【生物学科】

・臨海実習：初めて本格的な実験を自ら考えてできた場だと思う。先生の熱意があった。
・臨海実習：4 泊 5 日の中で，生物について様々なことを学べたし，学生や教員との関わりが深まった。生物について，実習→研究テーマ決め→研究→発表といった流れがよかった。
・臨海実習：やる気がある人が行っていたので，モチベーションが上がった。
・臨海実習：最も目的意識を自己満足が両立された。
・動物生理学：教員の熱意が伝わる極めて内容の充実した講義だった。
・動物生理学：質問の時間も多くもうけてくれていたので，色々考えながら受講できた。
・生態学野外実習：TA 含め 3 度行く機会があり，採集～種同定までを教える立場での経験をすることができたため。
・カウンセリング基礎論：先生の話がとても面白かったから。
・白神学入門（21 世紀）：毎回密度の濃い面白い授業だった。
・生化学Ⅱ：自分の専門とする科目とは少しはずれるが，それゆえに自分で学ぶことでかなり理解が深まるから。
・テーマ科目各種：興味が全くなく，ためになった気がしない（ある意味印象的）。
・家畜生理学：内容が興味深く教え方も分かりやすかったから。
・進化生態学：特に面白かった。
・人間の尊厳：個人的に興味深かった。
・分子進化学。

【分子生命科学科】
・卒業研究
・生体物理Ⅰ：難しかったがわかると非常に楽しかった
・生化学Ⅱ：テスト勉強が大変だったため、印象に残っています
・ロシア語Ⅰ：興味深く心をゆさぶられた
・生物有機化学：内容に興味があったため
・糖鎖工学：自分が興味を持っていた専門の講義だったため、復習に力を入れていたため
・学生実験：様々な分野の実験ができて面白かったが、レポートが大変だった。
・相対性理論：落としたから
・微生物生態学：微生物の面白さに気づくきっかけになったから
・糖鎖工：最も興味深い講義だった
・応用微生物学：もっとも興味をもって受講したため

【生物資源学科】
・応用昆虫学：テキストが英語であったため難解だった。
・応用昆虫学：大学での学習の仕方から学ぶことができたから。
・応用昆虫学：幅広い昆虫の知識を得ることができた。
・応用昆虫学：内容が一番難しかったが興味深かった。
・応用昆虫：内容が興味深く，また講義の仕方がわかりやすくて今でも内容を覚えているから。
・応用昆虫
・菌学：興味があったから。

・菌学：勉強しても点数がとれなかったから。
・植物病理学：興味深い内容だったため。
・植物病理学・植物病原学：もとから病理に興味はあったが，授業を受けてさらにいろいろしりたくなったため。食品実験と土壌実験以外はためになっている感じがしたので，いろいろ考慮したりした。
・昆虫学実験：昆虫というか虫全般得意ではなかったが，大分ましになったため，多少気合いでやればなんとかなることを実感したため。
・専門英語：予習に大きく時間を使ったため。
・植物ゲノム学：最先端の技術について，わかりやすい説明で知ることができたため。
・植物バイオテクノロジー：教授の話が興味深かった。
・古典語実習 B：授業が面白い。そして衝撃的だった。文系の考え方，ものの見方など間違えなく自分の人生観を変える授業だった。こういう授業こそ，21 世紀教育や基礎のカリキュラムに取り入れられるべきだと思う。
・漢文（A）（B）：漢文が好きなため。

【園芸農学科】
・農場実習：羊の毛刈りなど（2 名）。
・農場実習：普段食べている物を作る経験は貴重なため。
・農場実習：園芸らしい内容の実習で有意義だった。
・農場実習：めったに体験できないことを多く体験できたため。
・農場実習：実学が一番。
・農場実習（2 名）。
・農学生命科学概論：色々なことを学べた。
・花卉園芸学：自分が学びたい科目だったから。
・園芸学：園芸農学について幅広い知識が身についた。
・果樹園芸学：研究室で行う研究の基礎となったため。
・ブランド論：各地方の農産物のブランド品を知ることができて楽しかった。
・漢文 A：鉄道に関する小説を知ることができたから。
・教育実習：苦労したから。
・国際農業論：当時，農業経済にそれほど興味はなかったが，この講義を受けて刺激を受け，どちらのコースに進んでも経済の勉強をする必要を感じた。それ程面白い講義。

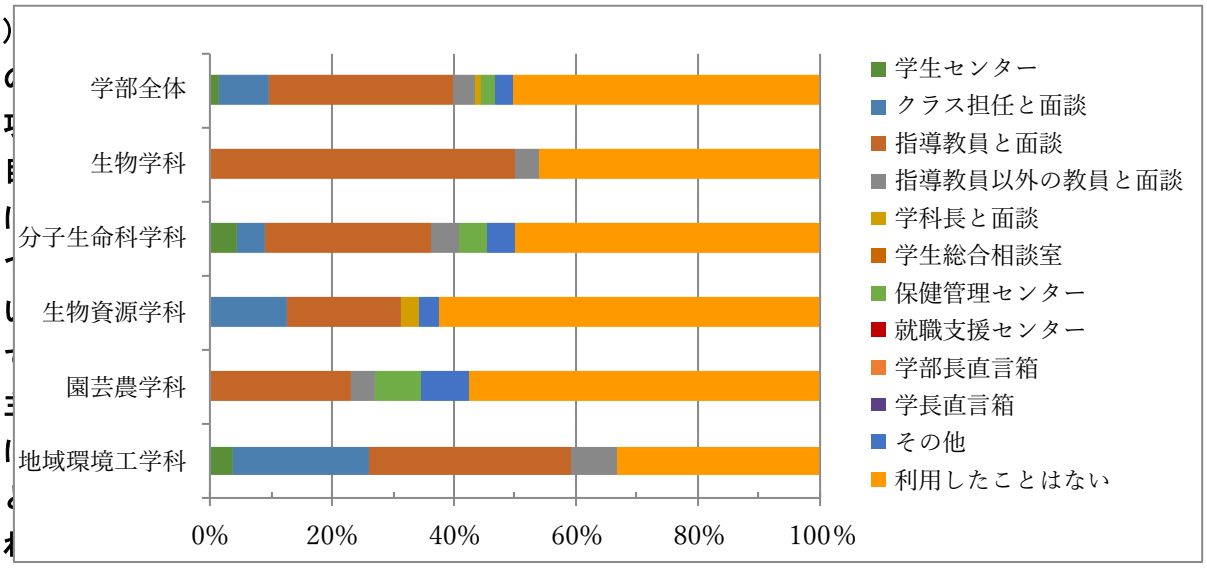
【地域環境工学科】
・地域環境工学実験：様々な分野に興味を持てた。
・地域環境工学実験：他大学の人と交流して刺激をもらった。
・地域環境工学実験：インターンシップを行い，実施の現場で学べたから。
・地域環境工学実験：幅広い知識を身につけることができた。
・地域環境工学実験：実験から様々なことを学べたから。
・地域環境工学実験：実際に作業すると理解も進む。
・地域環境工学実験。

・農場実習：リンゴの栽培について知れたため。
・卒業研究，テーマ科目の「人間と～（Ⅰ）」。
・水利学：内容が難しかった。
・水利学Ⅱ：テストが難しかったため。
・水利造構学。
・構造力学：楽しかった。
・構造物設計：自由度が高く，意欲がわいた。
・中級英語Ｂ：劇で表現性が問われる。テストで画期的だと思ったから。
・地域計画学：自分で考えることが多い科目だったため。
・テーマ科目，専門科目以外の講義が面白かった。
・現地見学。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について，ご利用されましたか（　　）内に番号を記入して下さい。

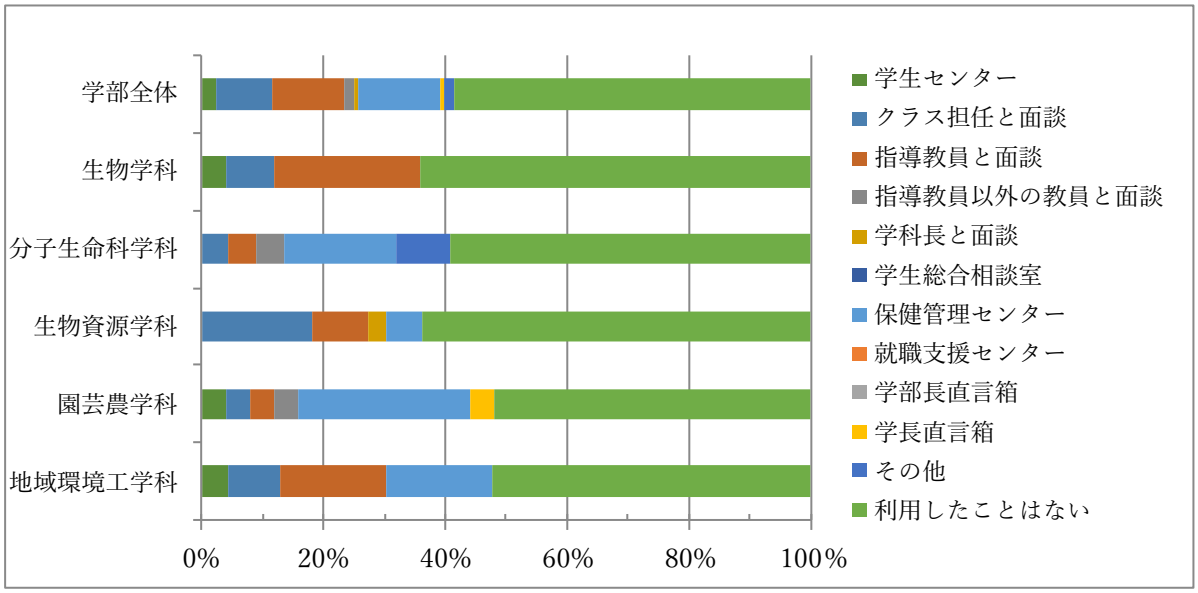
(1) 学業



図Ⅰ－12（1）．学業に関する相談窓口

学業に関する相談の場合、学部全体では、「利用したことはない」(51%)、「指導教員と面談」(28%)、「クラス担任との面談」(8%) の順に高く、例年通りの傾向であった。学科単位で見ると、地域環境工学科では「クラス担任と面談」と「指導教員と面談」の合計が 55%で、教員への相談率が高いと考えられた。

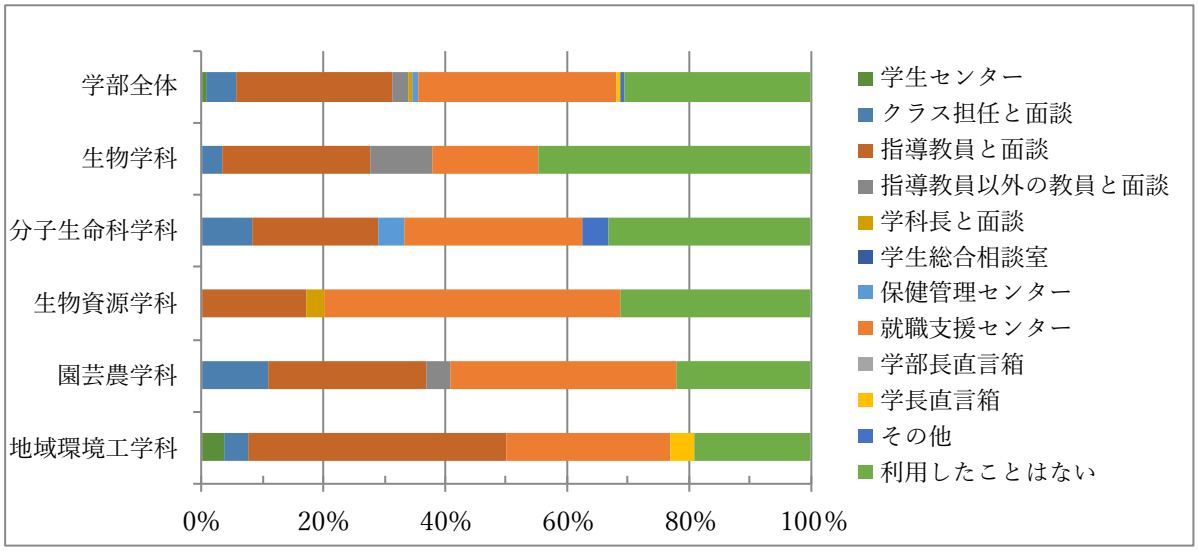
(2) 学生生活



図Ⅰ－12（2）．学生生活に関する相談窓口

学生生活に関する相談の場合、学部全体では、「利用したことはない」（56%）、「保健管理センター」（13%）、「指導教員と面談」（11%）の順に高く、最近 2 年間の傾向と同様であった

(3) 進路



図Ⅰ－12（3）．進路に関する相談窓口

進路に関する相談の場合、学部全体では、「就職支援センター」(35%)が最も高かった。次に多い「指導教員と面談」(27%)は昨年に比べ 7%上昇した。一方で、例年多い「利用したことはない」は、昨年の 16%から 32%に増加した。地域環境工学科では、他学科に比べ「 指導教員と面談 」の割合が高かった (29%)。

設問 13. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1). 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

1. 講義室

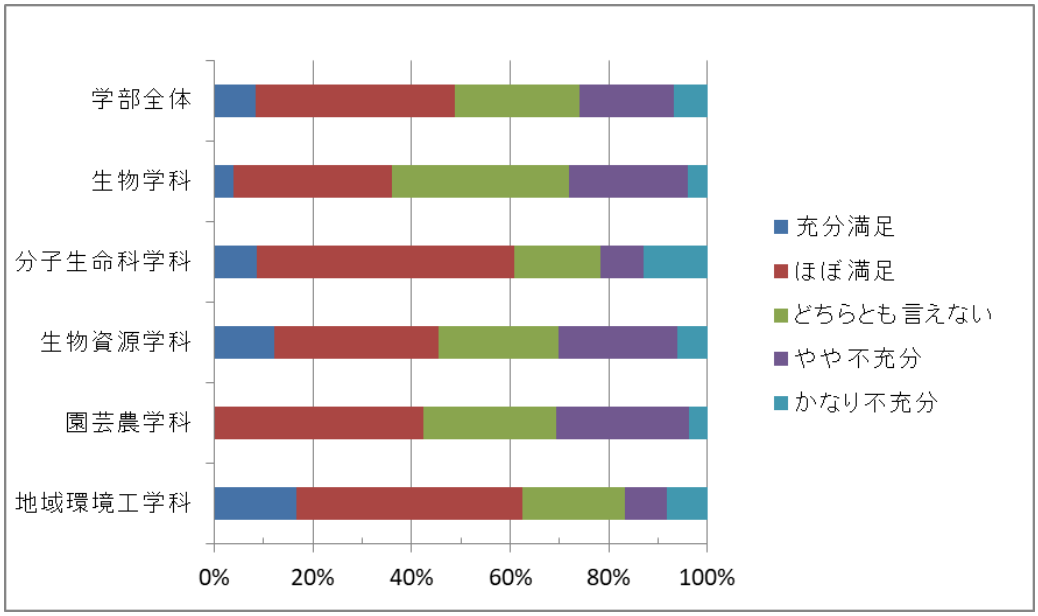
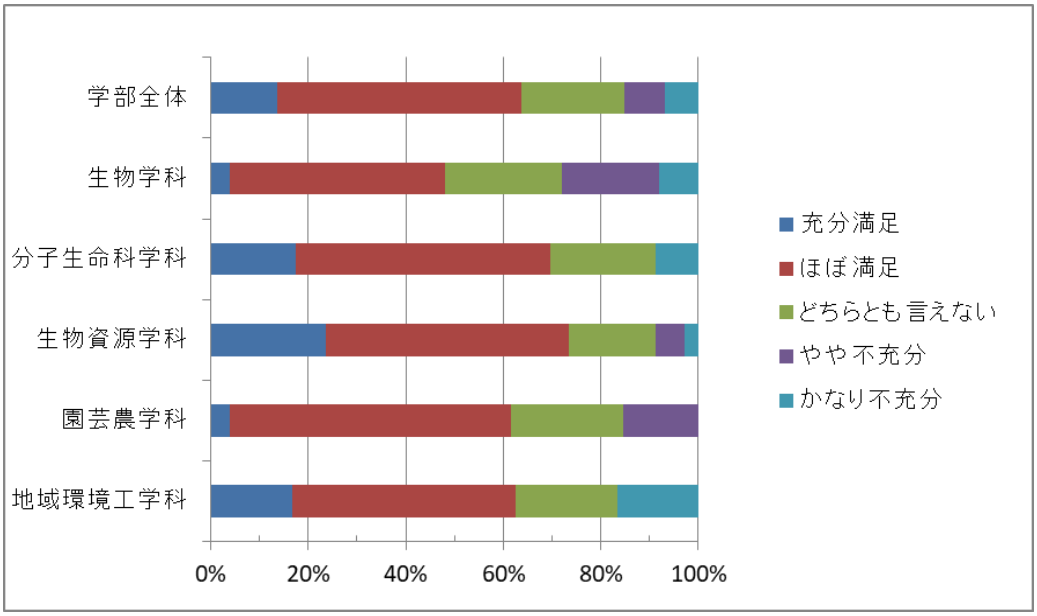


図 I -13(1)-1. 講義室

平成 28 年度に一部の講義室に冷房設備が導入されたことから，その影響が注目された。その結果，学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 49%で，平成 26～27 年度よりわずかに上昇する一方，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 26%で，平成 26～27 年度を下回った。しかし５年以上さかのぼって比較すると「充分満足」の割合が経年的に低下傾向に，「かなり不充分」の割合が経年的に上昇傾向にある。本年も満足度が不満足度を上回る結果となったが，長期的に見ると満足度が低下している可能性に留意する必要がある。

設問 13(2)より，近年は８月上旬まで授業があるのに依然としてほとんどの講義室に冷房設備がないこと，冬季は暖房の温度管理が不充分で暑すぎたり寒すぎたりが激しいことが不満足の主要な原因と考えられる。また，平成 28 年度は時計の設置を要望する記述や，プロジェクターの不具合を指摘する記述も見られた。

2. 実験・実習室

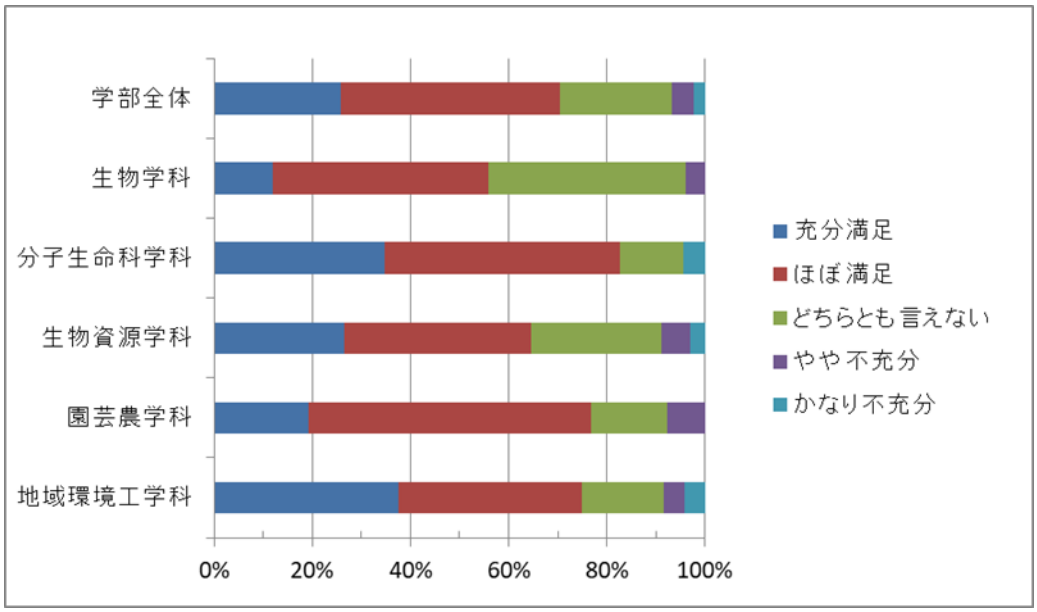


図Ⅰ-13(1)-2. 実験・実習室

実験・実習室について，学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 64%であり，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（15%）を大きく上回った。平成 26 年度以降，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 64～67%，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計は 15～18%で推移している。

学科別に見ると，平成 25 年度以降生物学科では「やや不充分」と「かなり不充分」の合計が 40%を超えていたが，本年度は 28%にまで減少した。しかし依然として他学科より不満足度が高い。設問 13(2)から，生物学科の不満足の要因として機材の破損や不足が考えられる。なお過去には学科実験室の面積不足も指摘されていた。

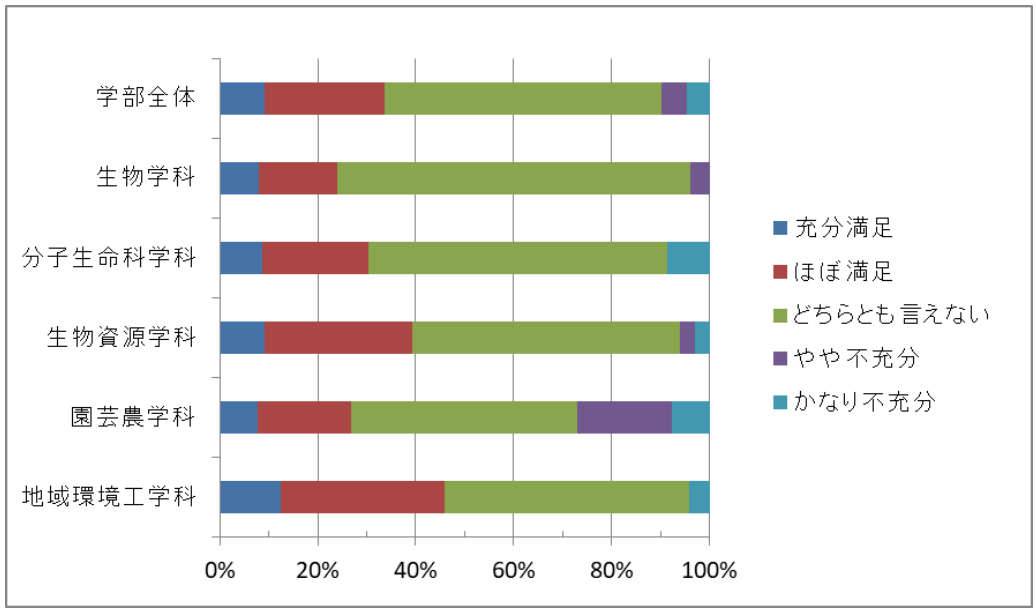
3. 情報処理演習室



図Ⅰ-13(1)-3. 情報処理演習室

情報処理演習室について，学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 70%であり，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（7%）を大きく上回った。情報処理演習室は過去にも満足度が高く，平成 24 年度以降，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 70～79%で推移している。満足度には学科間でやや差があるように見られるが，学科間差に年次を超えた一定の傾向を見いだすことはできない。設問 13(2)では不満足の要因として印刷枚数制限が指摘されている。

4. 蔵書室（４階）

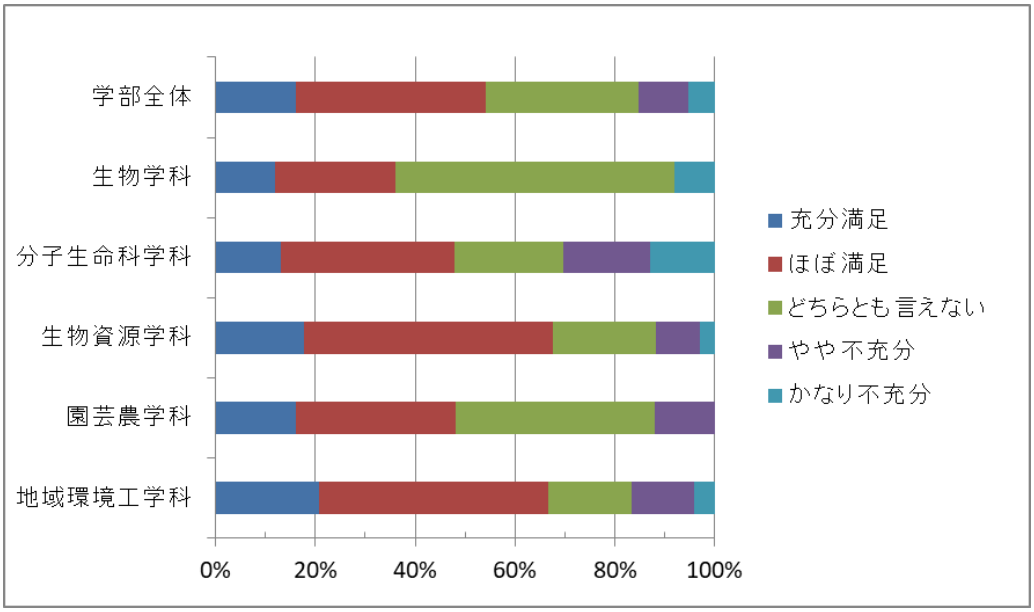


図Ⅰ-13(1)-4. 蔵書室

平成 27 年度に，４階に蔵書室を新設して図書閲覧室内の蔵書の大半を移設し，従来の図書閲覧室内の蔵書スペースに学生控室を設ける改修が実施された。そのため平成 28 年度からは，図書閲

覧室の蔵書ではなく，新設された蔵書室の満足度を調査することとした。その結果，学部全体では「どちらとも言えない」が 56%で最も多かった。この割合は平成 26，27 年の図書閲覧室内の蔵書スペースにおける「どちらとも言えない」の割合（47～48%）を上回った。この結果は，蔵書室の利用が少なく，所蔵図書の現状を十分に把握していないためと考えられる。一方，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 34%であった。平成 25 年度以降 27%→31%→34%→34%と推移し，改善する傾向が見られる。書誌や雑誌の閲覧がオンライン利用に移行する中で蔵書室の利用を拡大しようとするなら、授業科目の参考図書や学部学生向けの専門図書を計画的に拡充していくことが望ましいと考えられる。

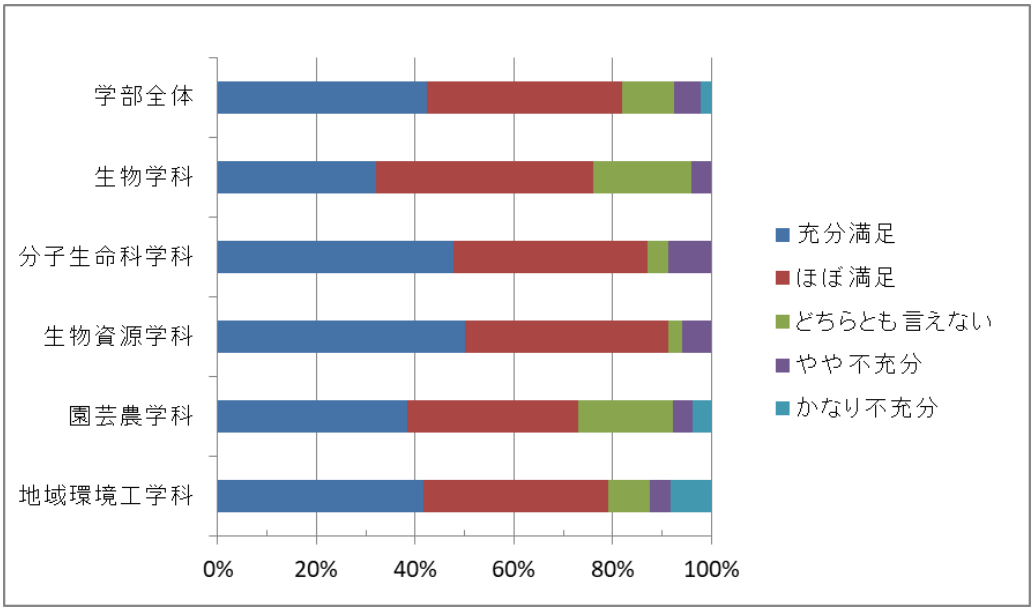
5. 学生自習室・学生控室（２階）



図Ⅰ-13(1)-5. 学生自習室・学生控室（２階）

平成 27 年度までは図書室の閲覧スペースと所蔵図書の満足度を別々に調査していたが，閲覧スペースの利用目的の主流が自習になってきたことと，所蔵スペースが学生控室に改修されたことを受け，平成 28 年度からは「学生自習室・学生控室」として，その満足度を一体的に調査することとした。学部全体では「充分満足」と「ほぼ満足」の合計は 54%で，平成 26～27 年度の閲覧スペース（52～57%）と同程度であり，「やや不充分」と「かなり不充分」の合計（15%）を大きく上回った。学科間にかなり満足度の差が見られるが，平成 28 年度から設問が変更されたこともあり，年次を超えた共通したものであるかは不明である。

6. 卒業研究を行った研究室



図Ⅰ-13(1)-6. 卒業研究を行った研究室

卒業研究を行った研究室について，平成 27 年度は「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が学部全体で 70%であったが，平成 28 年度は 82%と顕著に増加した。特に「充分満足」の割合は学科全体で 42%と過去５年間で最高であり，平成 27 年度と比較すると５学科全てで増加していた。研究室に対する満足度が増加した原因は必ずしも明らかではないが，平成 28 年度に学部の改組が実施され，一部で居室や実験室の再配置が行われた影響も考えられる。設問 13(2)では，研究室が狭小なため教員と同室になったり，学生に机が割り当てられないことや，Wi-Fi 環境が不備であることの不満が記された。

(2)．各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

今年度は延べ 59 件の要望があったが，そのうち 30 件は冷暖房に関するもので，経年的にその割合が増加しており，学生の切実な要望であることがうかがえる。また建物内の Wi-Fi の電波環境の改善要望が昨年（4 件）を上回る 6 件あった。そのほか，廊下の照明の改善，自販機の増設，樹木伐採による居室の採光改善などへの要望が記載された。

【生物学科】

＜講義室＞

- 農生講義室 403 の空調おかしい。冬でも冷気しか出てこない。
- 冬場寒いです
- 空調がよくない
- 夏場の暑さ対策がゼロで体調不良にある。

＜実験・実習室＞

- 調節必要な顕微鏡とかあって数が足りない。きちんと揃えるべき
- 顕微鏡等の実験道具が人数に対して不十分。（足りない）

▶ 設備不備（顕微鏡が１人１台当たらない　など）

＜情報処理演習室＞
▶ あまり利用していないが，レポート等あるのに紙の枚数制限は辛い。

＜学生自習室・学生控室＞
▶ せまい

＜卒業研究を行った研究室＞
▶ 暖房の温度調節ができるようにして欲しいです。ONにするとガンガンに暑くなりすぎることもあるので
▶ せまい
▶ 人数が多すぎて自分の机等スペースが充分に確保できない。(3年次)
▶ 狭い。配属される学生全員に机が与えられるほどには広くあってほしい

＜その他の施設＞
▶ 冷房が欲しいです
▶ 冷房がない
▶ GRCがもう少し気軽に利用できるとありがたい。
▶ いすの背もたれが動かせないのは辛いです
▶ 農生の設備は古い

【分子生命科学科】
＜講義室＞
▶ 暖房を事務職員に合わせた１７時までででは無く１７時３０分までつけてほしい
▶ 時計が設置されていないところが多い

＜その他の施設＞
▶ 農生だけ他と比べて暗いし寒い
▶ 先生をひとりにしてあげたい⇒一人部屋
▶ 人文サロンのような施設がほしい

【生物資源学科】
＜講義室＞
▶ 時計を置いて下さい
▶ 冷房を設置してほしい
▶ 大教室はとにかく人口密度というか人数が多いので，夏場の室温をどうにかしていただきたいです。
▶ プロジェクタが講義時間中持たないで過熱でとまってしまうのはどうにかした方がいいと思います

＜情報処理演習室＞
▶ 情報処理演習室でプリント出来る枚数が少ない

＜学生自習室・学生控室＞
▶ 学生控室をきれいにしてほしい
▶ 学生控室を自習室の隣に設置しない方がいいと思います。談笑がしづらくなってしまうし，自習室の自習をしている方に迷惑がかかっていると思います

＜卒業研究を行った研究室＞
▶ 研究室まで Wi-Fi が通っていないため，自分のパソコンの作業が困難になるときがあるので，できればネット環境の改善をしていただきたいです

＜その他の施設＞
▶ エアコンの設置
▶ どの部屋も空調設備が充実していない
▶ なぜか農生だけうす暗い
▶ 暖 房をもう少しおそくまで付けていて欲しい
▶ トイレの水流

【園芸農学科】
＜講義室＞
▶ 時計がほしい。
▶ 冬場はよいが，夏場はエアコンが入らず，かなりあつく集中できない
▶ プロジェクターの安定
▶ クーラーを付けて欲しい（他学部は実現している。農生もできるはず）

＜実験・実習室＞
▶ 実験室が寒いので，暖かくしてほしい

＜蔵書室＞
▶ 蔵書室にもう少し新しい本を置いてほしい

＜卒業研究を行った研究室＞
▶ 研究室の部屋数を増やすべきである
▶ 蔬菜・花卉研究室の学生室がせまい

＜その他の施設＞
▶ 中庭の木が邪魔で，1 階北側の部屋に光が入らない
▶ Wi-Fi のルーターを増やして欲しい

▶ 空調の安定
▶ 冷房導入
▶ クーラーをつけてほしい

【地域環境工学科】
＜講義室＞
▶ 温度管理がしっかり行われていない
▶ プロジェクターが熱で動かなくなることがあった

＜卒業研究を行った研究室＞
▶ 水利造構学研究室のゼミ室に Wi-Fi を通してほしい
▶ 水利造構学実験室の設備を新しくしてほしい（特に暖房）

＜その他の施設＞
▶ 暖房，クーラーの設置
▶ 暖・冷房がない
▶ Wi-Fi がつながらない
▶ 農学生命科学部棟でもしっかりと使える Wi-Fi をおいてほしい。
▶ Wi-Fi 環境を整えて欲しい
▶ 1 階だけでなく 4 階にも自動販売機がほしい
▶ 専門的な機器が少ない
▶ 何十年単位で変化がないようなので，そろそろ補修が必要だと感じる
▶ 基本的に寒い

［**卒業研究について**］
設問 14.（1）卒業研究を行ったことに満足していますか。

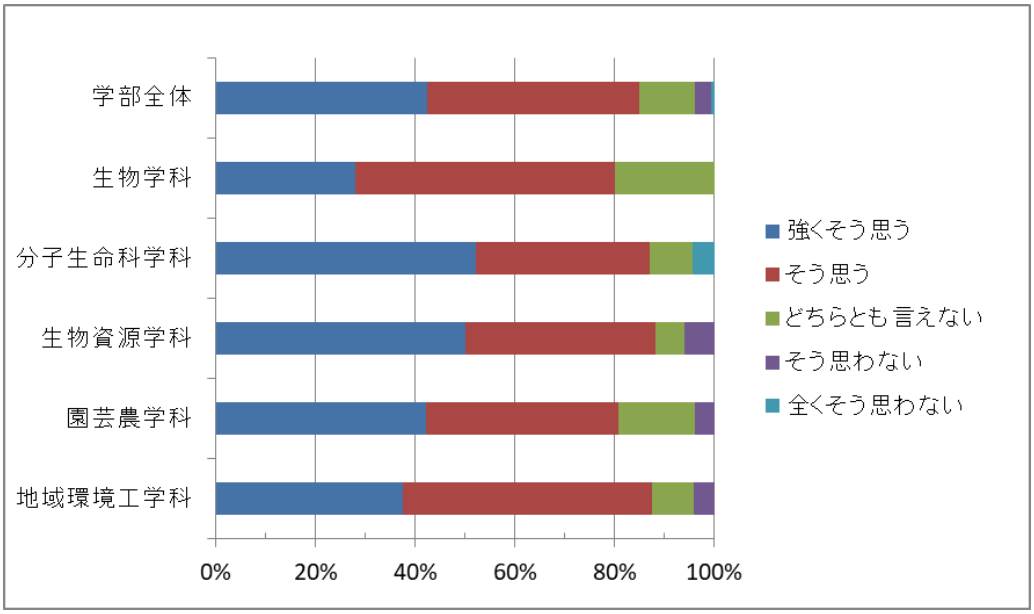


図 I -14. 卒業研究を行ったことに対する満足度

卒業研究を行ったことに対する満足度は，学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 85%に達し，27 年度の 78%，26 年度の 84%を超える高い値であった。卒業研究は本年度も好評であったことが判る。満足した理由（設問 14(2)）を見ると，研究活動を通して自己の成長を実感したり，大きな達成感を得たりする学生が多いことがわかる。満足度は全ての学科で十分に高いが，「強くそう思う」割合は生物学科が他の学科より若干低い。これは昨年も同じ傾向であった。

一方で，回答した 129 人中 20 人が「どちらとも言えない」，6 人が「そう思わない」および「全くそう思わない」を選択した。その理由として，「期間が短すぎる」「時間が足りない」「満足できる結果が得られなかった」「致命的なミスをした」などの時間的制約や研究成果に対する不満，「興味を見いだせなかった」などテーマ設定への不満，「他研究室より熱心に取り組んだのに評価は同じ」「指導教員の態度が冷たく暴言を吐かれた」など指導体制への不満があげられていた。これらの指摘の中には，教員と学生のコミュニケーション不足に起因する事例もあるように思われる。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない

5. 全くそう思わない

【生物学科】

1　卒業研究を行ったことで，自分で情報を集める能力と，研究に関する実験技術が飛躍的に伸びたとおもう

1　自身の好きな分野・対象について，大学 2 年間でも十分学ぶことができたため

1　やりたいテーマができた

1　研究を通して専門分野の理解が深まった。とてもおもしろいと感じられる

1　自分が興味をもっていた分野ができたため
1　自分がこの大学に来た目的を果たせたので
1　　自らの力で最後まで１つの物事をまとめるという大切な経験ができた。人にモノを伝える責任というものを学んだ
2　やりたい実験をすることができたから
2　専門知識が身についたからです
2　好きなことをさせてもらえたから
2　研究がしたくて大学に入ったので
2　　調査の計画，実行から結果の分析までの流れ+発表を自分でできるようになることは理系の大学生として必要と思う。ただ期間が短い
2　１つのことを突きつめて調べるという経験ができたから
2　青森県の自然に対する理解が深まり，自分の知識が増えたことで視野が広がったから
2　内容の伝え方などためになったので
2　未知の事を既知とする楽しみに触れた
2　対象とした生物に対して非常に多くの知識を持つことができたから
2　卒業研究はマストにしないと，大学卒としての価値はないのでは
2　大学で研究したという爪あとを残せた
3　卒業研究を行い，発表・卒論を書いたことは満足しているが，最後まで自分の研究に対して興味や面白さを見出せなかったため
3　時間が足りない

【分子生命科学科】
1　自分のやりたかった分野の研究を行うことができたから
1　すごい研究をしたということはないが，４年間の集大成として行って良かった
1　指導教官の指導が適切でたくさんのアドバイスをくださり納得のいく結果が出たから
1　やり遂げた感（充足感）を得ることができた
1　きっちりとまとめ，は票することに意味があり，自分の行いたいことができたため
1　研究を行うにあたり，自ら主体となり参考文献を探したり，行動することや，実験結果を比較し客観的に考えるなど，これから社会に出るにあたり必要とされる能力を身につけることができたため
1　研究を通して物事を分析し，整理する力がついたと思うから
1　実験をたくさんやることができ，論文を書けたから
1　　卒業研究自体とても楽しく行うことができたし，研究室のメンバーとも協力することができた
1　論理的な思考能力を身につけることができたため
2　実験手法など自主的に学ぶことができたため
2　専門分野以外にも学ぶことが多かったため
2　知識が深められた
2　成果を目指して研究することは大学生として必要な経験だと思うから。
2　人間関係を築くのに役だったから

2　以前よりも時間の使い方が上手になったと感じることができるから
5　大学院へ進学することを考えていたときは丁寧に指導をしてくれていたが，就職に希望を変えたとたん，手のひらを返したように冷淡な態度をとられ，進学する動機との対応態度が 180°違い，その後も指導は適当，暴言を吐かれる始末でした

【生物資源学科】
1　修士に進む前の良い訓練になったと思うから
1　深く理解できるようになってきている
1　自分のスキルを磨くことができた
1　貴重な体験ができたため
1　自身のテーマについて真剣に取り組むことで，今まで明らかになっていないことを明らかに出来たという満足が得られ，さらに先生たちも，真面目に行った分，返してくれるのでとても充実していたため
1　院へ進学するので，学部のうちに実験等になれることができたため
1　本当に自分の知識としてためになったから
1　目標達成への取組の姿勢を身につけるため
1　やりたいことができたため
1　就職する前に，これまでの実験をひと区切りできて，後輩に引き継げていけるから
1　物を進めて行く上での段階の仕方，出た結果の考察の方法，などなど多くの事を学べたから
1　卒業研究の題材となった事柄について詳しくなったとともに，細やかな部分で自身のスキルとして身についた物事もあったから
2　最後の思い出ができたから
2　楽しく考えて研究することができたから
2　実験を通して，自分が成長できた気がするから
2　結果がでたから
2　興味分野の研究を深いところまでやることができたから
2　研究者の気持ちが少し分かった気がしたから
2　論理的に考える力や継続力がついた
2　いろいろと自分で調べて理解が深まったため
2　研究を通して計画性などを身につけられたから
3　研究結果が将来世の中の役に立つであろう事は理解しているが，現時点では何かを成し遂げた実感を得られていないため
3　あまり充実した内容の卒業研究ではなかった
4　致命的なミスを 2 つし，それが取りかえしのつかないミスだったため
4　つらい

【園芸農学科】
1　大学生ぽいことをしたから
1　4 年間学んだことを形にできたので，達成感がありました

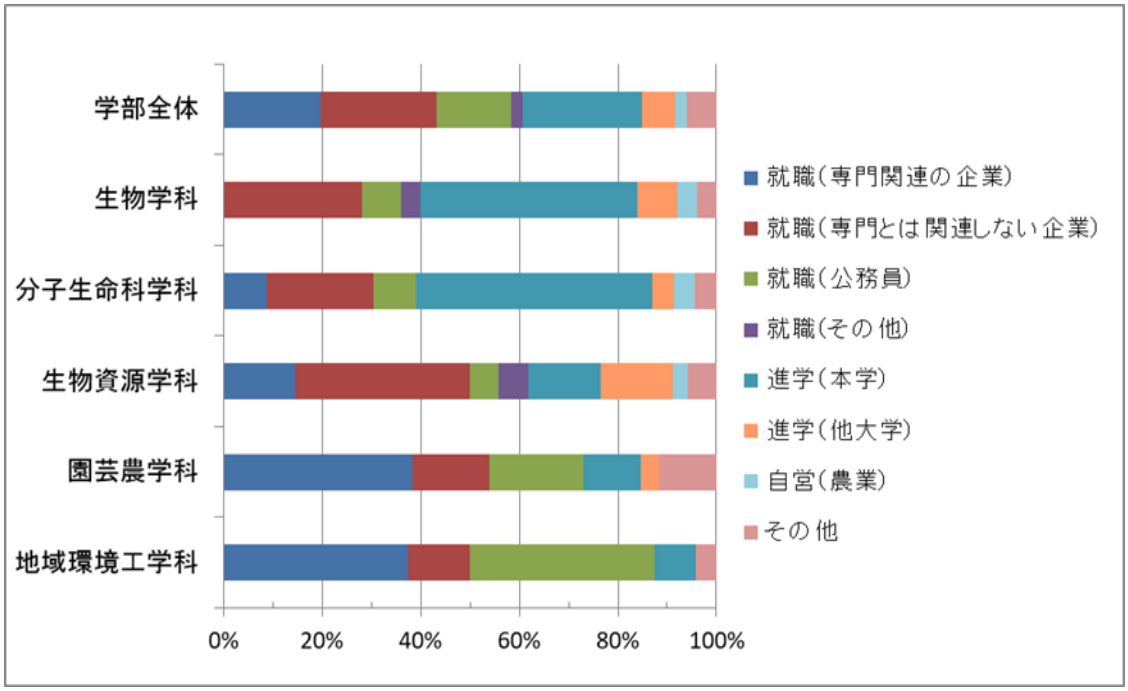
1　　自ら興味のある内容について長いスパンで取り組むことができ，かつ，事務スキルも身についたため
1　　何か1つをやり遂げることは大切なことであるため
1　　1つのテーマを定め，それに向けて勉強することに喜びを感じたため
1　　指導教員から細やかに専門的な指導を受けることができたので
1　　授業ではできないことに集中してできるので良かった
1　　良い経験ができたと思う
1　　自分で課題を解決するための計画性を身につけられたため
1　　自分が研究したいと考えていたことに近い研究に取り組むことができたため
2　　自分の勉強不足や情報収集力のなさを痛感した
2　　学びたい事を学習できたため
2　　達成感を得ることができた
2　　論文を書く意義は全く分からないまま終わったが，自分の弱点を見出すことができた。本当に研究したい人だけ論文をかき，それ以外の人は実習で代替できるような仕組みを作ってほしい
2　　1つのことを自分で考え解決する力がついたから
2　　普段だったら学ばないことを自主的に学ぶ事ができたから
2　　これからの就職先に生かせるため
2　　紅の夢の遺伝子に関する研究は思うようにいかなかったが，大学院に入って必ず成功させるというやる気が出てきたから
2　　達成感があるから
3　　まだやってる最中だから
3　　卒業研究を終えたという達成感はあるが，なければないで変わりはないため

【地域環境工学科】
1　　進学に向けてやることがわかってきた
1　　自発的に研究を行うことができた
1　　いろいろなチャンスを与えてもらい，また，様々な専門の人の研究をすすめることができたため
1　　入学時，希望していた内容をできているため
1　　大学生活の集大成としての一面があるから
1　　達成感があるから
1　　新たな知見を得ることで，今まで興味のなかったことについても関心を持つようになった
1　　やりがいがあった
1　　発表のやり方やまとめ方について知ることができたので
2　　自分の関心のあることを調べることができたため。しかし想像以上に大変だった
2　　人生の中でここまで研究をしたことはなかったので，良い経験になったから
2　　やりたい分野を重点的に行えた
2　　専門的内容を学べたから

2　　達成感はあった
2　　調べたいテーマについて追求できた
2　　より専門的な内容について調査することができた
2　　1 つのことをつきつめる機会はないから
2　　専門分野について深く学ぶことができたから
2　　ためになった
2　　新しい観点でデータを分析できたから
2　　大学生として最後に何かをやり遂げたという実感が得られた
3　　1 年半では時間が足りない
3　　自分の卒業研究に対して，熱心に取り組んだ一方で，他研究室は私ほど一生懸命に取り組んでいないように感じた。時間の使い方が他研究室と差異が大きく，それでも評価にあまり影響がないところをみると，不平等な印象を受ける
4　　時間のムダが多かった

［進路支援について］

設問 15.（1）あなたの卒業後の進路は次のどれですか。



図Ⅰ-15-(1)．卒業後の進路

学部全体では就職した者の割合は 61%で平成 26～27 年（71～73%）と比較すると減少し，それ以前の平成 24～25 年（59～63%）と同レベルに戻った。これに伴い，進学（本学と他大学）した者の割合は 31%と平成 26～27 年（21～22%）より増加し，平成 24～25 年度（29～36%）と同じレベルに戻った。平成 28 年度は，2 年間続いた就職志向から，進学志向にやや回帰したと言える。他大学への進学者は 9 名であった。なお，自営（農業）に進んだ者は平成 26～27 年度は全くいなかったが，平成 28 年度は 3 名いた。

学科単位でみると，就職した者の割合が最も高いのは地域環境工学科の 88%，次いで園芸農学

科の 73%であった。一方，進学（本学と他大学）した者の割合が高いのはと生物学科の 52%であり，生物資源学科は両者の中間であった。この傾向はここ 3 年間変わっていない。これに対して分子生命科学科における就職した者の割合は，平成 25 年度から 28 年度にかけて約 40%→約 60%→約 80%→約 40%と毎年激変している。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは、進路の決定にどのように影響しましたか。

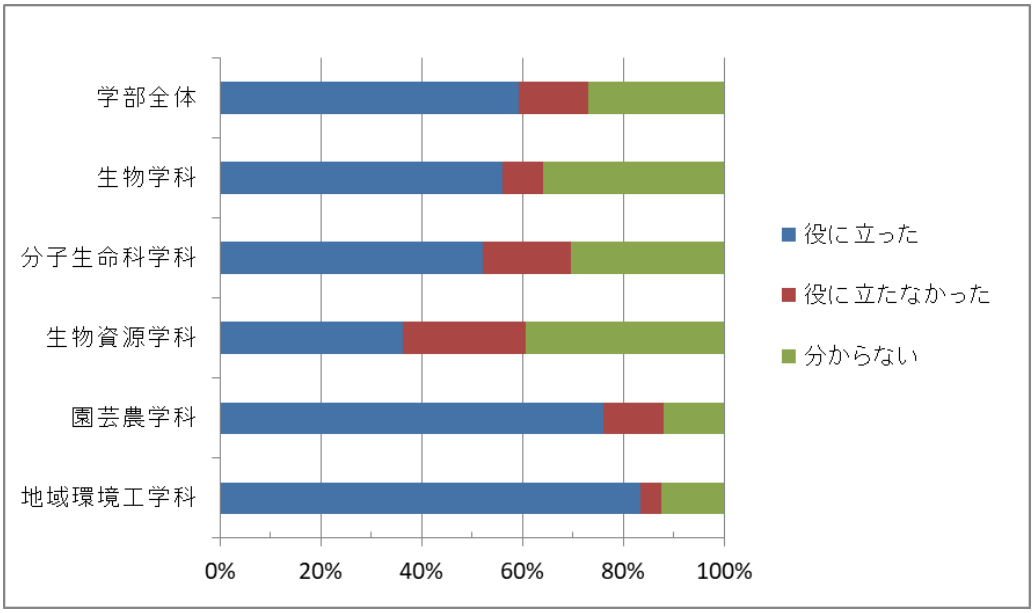


図 I -15(2)．カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したか

カリキュラムで学んだことはどのように進路に影響したかについて，学部全体では「役に立った」は 59%，「役に立たなかった」は 14%であった。「役に立った」は平成 26～27 年度には 50～52%であり，本年はやや増加した。

学科単位でみると，「役に立った」割合が最も高いのは地域環境工学科の 83%，次いで園芸農学科の 76%であった。両学科は専門関連の企業に就職する者の割合が高いことと関連している可能性がある。両学科に続くのが生物学科の 56%と分子生命科学科の 52%である。生物学科と分子生命科学科は，専門関連の企業への就職者は少ないが本学部大学院への進学者が多く，進学に際して学部のカリキュラムが役に立ったと評価された可能性がある。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

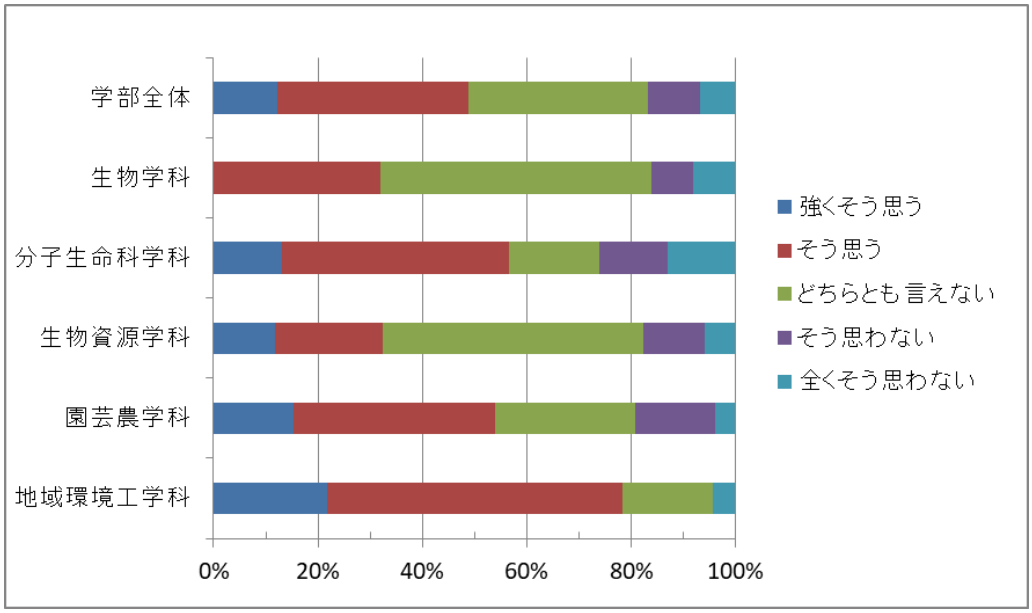


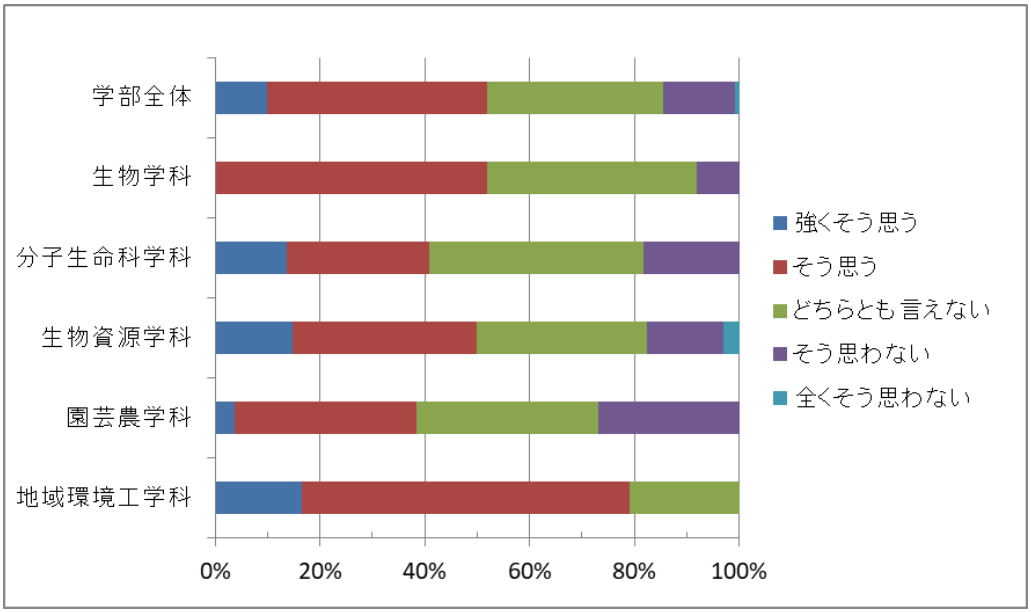
図 I -15(3). 本学部の進路支援の取り組みは充分か

本学部の進路支援の取り組みは十分だったかに対して，学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計は 49%，一方「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計は 17%で，肯定的評価が否定的評価を大きく上回った。肯定的評価の割合は平成 25 年度の 32%から 4 年連続で増加した。希望通り就職できるかどうかは毎年の雇用情勢にも大きく左右される。ここ数年来大卒者の就職内定率が全国的に高く，このことがアンケート結果に影響した可能性もある。また設問 12(3)から，進路決定に際して就職支援センターを活用する学生が多い。同センターの取組が経年的に評価されてきている可能性もある。

学科単位で見ると，「強くそう思う」と「そう思う」の合計は，最も低い生物学科では 32%であるのに対し，最も高い地域環境工学科では 78%に達しており，学科間で評価の差が著しい。この傾向は昨年も同じであった。設問 12(2)より，地域環境工学科では進路についてクラス担任や指導教員に相談する割合が多い。地域環境工学科の高い評価は，教員のきめ細かな指導体制と関連しているかもしれない。

[本学部の教育のあり方について]

設問　16.（1）あなたが本学部を卒業するに当たり、大学卒業者に相応の知識や学力を身に付けたと感じていますか（大学卒業者に相応の知識・学力は自分のイメージしたもので結構です）。



図Ⅰ-16．大学卒業者としての知識や学力を身に着けたか

大学卒業者としての知識や学力を身に着けたかという設問に，平成 28 年度から「大学卒業者に相応の知識・学力は自分のイメージしたもので結構です」という但し書きを付け加えた。その影響かどうかは明らかでないが，学部全体では平成 26～27 年度と比較して「どちらとも言えない」の割合が減少し，代わって「強くそう思う」と「そう思う」の合計が 52%まで増加した。「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計（15%）は過去２年間と同程度であった。否定的評価の理由を設問 16(2)から探ると，勉強不足に対する反省，講義内容が十分消化できなかったことへの不安，修得した知識が社会で役立たないことへの不安，一般常識が身についていない不安などが挙げられる。

学科単位でみると，地域環境工学科において「強くそう思う」と「そう思う」の合計が前年度から 30 ポイント上昇して 79%に達し，他学科より 27～41 ポイント高かった。前年度は，学科間のポイント差は最大でも 19 ポイントで，年度を超えた共通の学科間差も認められていなかった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　　2. そう思う　　3. どちらとも言えない　　4. そう思わない

5. 全くそう思わない

【生物学科】

2　私はそう思うが，ここばかりは研究室によると思う

2　実習，TA，研究などを通して，今まで自身に不足していた所を補うのに十分な経験ができたため

2　主観的に成長したと感じます

2　先輩の姿をみていろいろ吸収できた

2　身についた知識・学力は独学では手に入りえないものと思える

2　テストでいい点とれたから
2　高校卒業と比べて成長した実感があるから
2　そんじゃそこらの学生よりも，大学生活・就活の両方で苦労したから。そして成功したから
2　専門知識を身に付けられたから
2　そう思ったから
3　自学自習がたりない
3　 専門とする科目については身についたが，全体でみるとまだ身についていないとおもえるものもあるから
3　自分はそう思っても社会にでないとわからない
3　もちろん自らの専門分野については，ある程度知識はついたし，他の分野もしかりだが，英語に関してはむしろ高校よりも低下した気がしなくもない
3　インプットは十分にあったため，知識はふえたが，それを使って何か研究に還元できたかというとなんともいえない
3　実感が無いです
3　所属した研究室での知識は身についたが，それ以外での講義内容は，ほぼ忘れてしまうから
3　卒業者相応の知識がイメージできなかったので
4　 全く身に付かなかったとは言えないが，昔に比べれば”大学卒業者”としての価値は低いと思う
4　英語力が足りてない

【分子生命科学科】
1　　研究などを通して得た知識は大学でしか得られないかけがえのないものであった
1　　勉強で身についたと思ったから
2　　研究室への所属により専門性の高い知識を身につけられたため
2　　企業が用いているような機械の使い方や、データの読み方などのスキルが身につけられた
3　　忘れていることが多く大学卒としては物足りないかもしれない
2　　自分の専門分野以外の学問の知識も身につけることができたから
2　　専門性の高い知識を得た
2　　専門分野だけでは無く、文系科目の講義を受講したことで知識の幅が広がったと思うから
2　　元々、学びたかった専門的な知識を深めることができたため
？　　講義だけで無く卒業研究や研究室での行動を通して知識や学力を身につけることができたと考えるため
3　　身につけた物つけられなかった物があるため
3　　専門分野の知識は身についたが、一般常識の知識はあまり身につけられなかったと思う。
3　　講義の内容があまり身につかなかった
4　　環境や機会が少なかったと思う
4　　頭が悪いから
4　　大学卒業者に相応の一般常識が身についいていない

4　　社会に役に立つ知識というのであれば、サークルや部の活動の方で学べるが、卒業先で学部の知識を生かせるかというとそうならない場合の方が多いため

【生物資源学科】
1　　社会に出て，大学卒として一般的に身につけておく必要のある教養を学び，さらに専門的なことも身につけられたと感じるため
1　　人間関係を広げることができ，明るくなれたから
1　　高校では習わないことが学べたから
1　　相応にはなれたと考えたため
1　　専門的な就職先ではないが，これまでに身につけた実験への取り組み方を今後も生かせると感じたから
2　　家族や友人との会話でたびたび「流石農学部だ」という意味合いの事をいわれるため
2　　勉強を自らで行う（強制されずに）ことで，講義への理解をさらに深めていったため
2　　大学でしかできないことを学べた
2　　他の大学の人から話を聞くと，卒論が必須でなかったり，ほとんど勉強しなくても卒業できる大学がたくさんあるようだったから
2　　様々な経験ができたため
2　　この大学で学んだ事を就職先で生かせることになったから。サービスを提供していくうえでの基礎知識を身につける事ができた
3　　そもそも計れない
3　　他の人がどうなのか分からない
3　　大学では知識や学力というより，自主性などを学んだ。実際，抜き打ちテストをしたら，回答できないと思うから
3　　本当に役立てる知識か自身がないため
3　　その知識や学力を生かせる場面がまだないから
3　　他の大学卒業者の基準がわからない
3　　社会に出て，役に立つ実感があまりないから
3　　大学で学んだ専門分野を使わないから
3　　知識や学力は入学前よりも付いたと思うが，卒業者に相応の知識や学力であるかは判断できない
4　　趣味をエンジョイしていたため
4　　身に付いたこととついていないことがある
4　　自ら知識や学力をつけようと努力しなかったから，大学では主体的に行動しないと身につけられないから
4　　勉強不足の部分が多い

【園芸農学科】
1　　対人関係を上手くする方法を身につけられたと思います
2　　論文の書き方について理解できた
2　　専門的知識が身についた

2　　ここでしか学べなかったことをたくさん学べたから
2　　研究室での学習など，大学でしか学べない研究ができたので
2　　専門知識を身に付けることができたから
2　　1～3 年まで様々な科目を受けて知識を身に付け，そして卒業への活用もできたのでよかった
2　　院に進むにあたり，専門知識を得られた
3　　自分で自分が知識ないなと思うことがあるから
3　　1.2 年生の授業で学んだことがあまり身についていないと思ったから
3　　英語には不安あり
3　　意欲的に学んだとは言えないから
3　　研究室に配属されて，2 年間専門教育を学びましたが，大学卒業者にふさわしい学力が身についたかどうかは分からない
3　　自分でもまだ未熟と思われる部分があるため
3　　2～3 年の知識がやはり時間とともに頭から抜けてしまうため
4　　もっと自主勉強や情報収集が必要だったと感じる
4　　部活動重視の学生生活になってしまったと考えているから
4　　その場での学習だけであり，繋がりがない
4　　専門を学ぶ期間が短すぎるため
4　　高校 3 年生の時の方が，頭がよかったと思うから
4　　1 回生,2 回生の頃は,それほど有意義とは考えられない講義が多いと感じたため。また，研究室に配属されてからも，受ける必要があるのか不明な講義を受けていたため。加えてまだまだ「知識」が足りないため

【地域環境工学科】
1　　社会人としても相応の自分が形成できたと思うため
1　　がんばりました
1　　専門的知識を身につけられたから
1　　就職後にも利用できるため
2　　基礎的な知識は役に立つと思うが，実際に仕事で使うような専門知識はあまり身につけられていないと思うため
2　　専門的知識を身につけることができたと感じる
2　　ニュースで流れた専門用語が分かるようになったから
2　　自己の計画性がなかった。もっと学力を身につけられたと思う
2　　就職先での基本的な知識を身に付けられたため
2　　専門的内容を学べたから
2　　理由なし
2　　今まで学んだことのないこと経験したことのないことなど，色々なことが身についた
2　　学力だけでなく，実験や実習を行う中でコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけることができた
2　　入学時より知識は増えたから

2　　知識量が増えた
2　　専門的に学んだから
2　　講義や学生生活の中で様々な経験をしたため
2　　4 年間で得られる専門に関する知識は得られた
2　　21 世紀専門科目ともに大学卒業者として相応の知識を得られるものであったと感じたから
3　　卒業者の学力をイメージできないから
3　　卒業研究の内容についてはしっかりと覚えているが，ほかの事はあまり覚えていないため
3　　学んだことが完璧に定着できたとは言えないので
3　　広く学べるのは良いが，少し浅い知識になってしまう点がある
3　　自分では，身につけたように感じても，まわりに比較されると，相応であるか判断できない

設問 17.（1）本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を、次の項目の中から一つを選んで下さい。

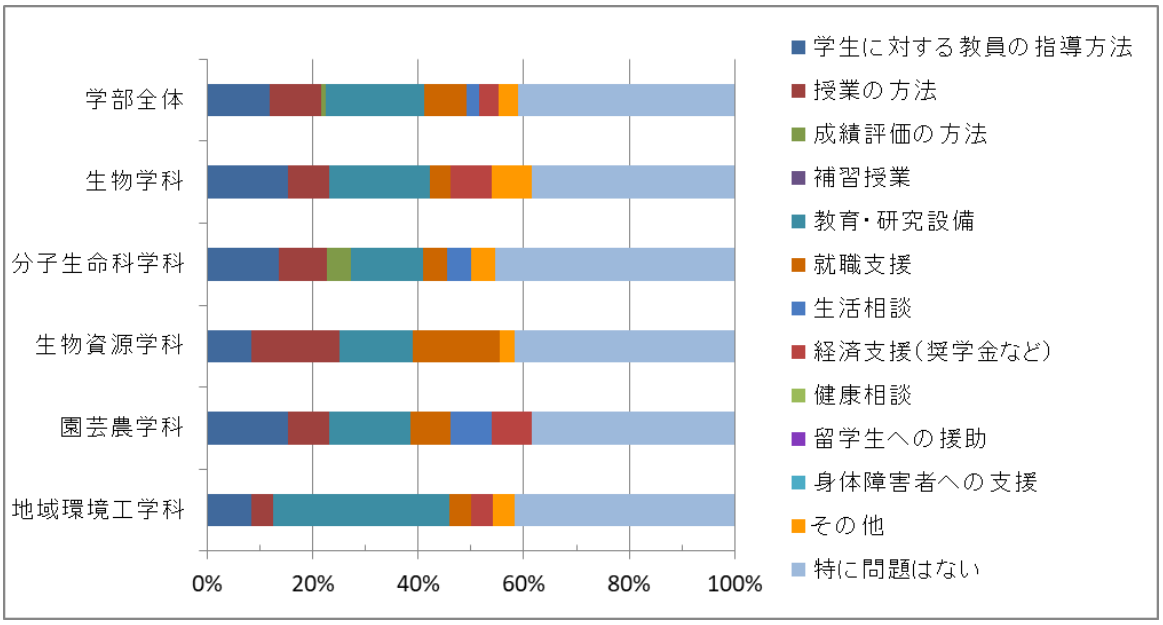


図 I -17.　早急に改善すべき点

学部全体でみると，選択肢の中では「特に問題は無い」が 41%で最多であった。平成 26～27 年度も「特に問題はない」が最多で 38%を占めている。早急に改善すべき点として選択された上位 5 項目は，学部全体でみると「教育・研究設備」(19%)，「学生に対する教員の指導方法」(12%)，「授業の方法」(9%)，「就職支援」(8%)，「経済支援（奨学金など)」(3%) であった。平成 27 年度も，順位こそ異なるものの上記の 5 項目が上位 5 項目であった。過去 5 年間をさかのぼっても，上記の 5 項目は，ほとんどの年度で上位 5 位以内に入っている。

学科別に見ると，分子生命科学科では平成 25 年度から 3 年連続で「1. 学生に対する教員の指導方法」，「2. 授業の方法」および「3. 成績評価の方法」の合計が 37～39%に達していた。平成 28 年

度は 27%であり，依然として他学科より高いものの，いくらか改善された。

「教育・研究設備」に関する具体的な要望は，冷房設備の導入，暖房設備の機能向上，研究室面積の増加や，老朽化した施設全体の更新を訴えるものが目立った。蔵書室の蔵書充実に関する要望も複数あった。そのほかに「実験室や教員部屋をたくさん持っている研究室とスペースの無い研究室との格差が激しい」，「1F に日光が届かない。木が大きすぎます」，「ネットなど研究室に繋がってない」などがあった。

「学生に対する教員の指導方法」や「授業方法」に対する要望や不満の中に，平成 28 年度は自分自身が指導教員のアカデミックハラスメントを受けたと訴えるものが２件，周囲にアカデミックハラスメントがあることを訴えるものが２件含まれていた。例年より件数が多く，学生の訴えを真摯に受け止めなければならない。また，21 世紀教育の縮小，専門教育における必修分野の縮小，実験授業の拡大，研究室配属の早期化など多様な要望が見られたが，一方で現在の教育カリキュラムに満足している学生が多いことにも留意する必要がある。そのほかに「教職や学芸員の講義と、専門科目の講義がなるべくかぶらないようにするべき」，「学生のやる気がないので教員のやる気が低下し，その結果学生のやる気が更に低下するといった負の連鎖をなくしてほしい」，「一部の教員の板書やテスト返却時の文字が汚くて読めない」，「つまらない講義があった」「興味の持てる授業展開（を望む)」などの記述があった。

「就職支援」に対しては，就職支援センターへの依存度が高いことから，学部・学科独自の取組や相談窓口を設ける要望が多く寄せられた。そのほか「北海道・東北以外のエリアの企業ともっと話しをききたい」，「インターン的なのがあればどんどん告知してほしい」，「就職支援センターの相談員の数を増やしてほしい」といった要望があった。

「経済支援（奨学金など)」については，「還付型の奨学金の幅（選択肢）を増やす」といった要望が寄せられた。

（2）上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

1．学生に対する教員の指導方法　2．授業の方法　　3．成績評価の方法　　4．補習授業
5．教育・研究設備　6．就職支援　7．生活相談　8．経済支援（奨学金など）
9．健康相談　10．留学生への援助　11．身体障害者への支援　　12．その他（　　）
13．特に問題は無い

【生物学科】

1　教員の教育に対する思いの差が大きいこと。閉鎖的な環境により，アカハラが起きやすくなったり，それを隠蔽されやすいこと

2　授業カリキュラムがカバーする範囲が広すぎて学習が追いつかないので，もっと狭く専門的にするべきだと思います

5　教育の場である設備が整っていなければ，何もできない

5　研究に対する学生の姿勢がなさすぎる

5　暗い廊下，冬期に冷風が出る講義室など，あまり良い環境とは言えない。学生実験室の実験器

具不足
6　北海道・東北以外のエリアの企業とももっと話しをききたい
12　教職との兼ね合い。普通に本学科（生物学科）で過ごしている者がとるにはあまりに多くの講義とかぶりすぎる。集中講義すらかぶっており，他学部のシラバスをわざわざ参照して講義をうけねばならない。これでは学部単位でシラバスを発行する意味がない
12　授業内容。21 世紀教育の中で，南京等についてプロパガンダ的教育をしている教員がいるらしい。できれば自分でも確かめたいが，国立大学においてこのような教育はいかがなものか

【分子生命学科】
1　設問１４（２）にかいたとおりです。ほぼアカハラです。定期的に教員の監査を入れるべきだと思います。
2　２１世紀は高校の授業と大差ないこと
2　教職や学芸員の講義と、専門科目の講義がなるべくかぶらないようにするべきだと思う
5　教室も必要であればそうだが、研究室の増設を！
5　他大学と比較してなさ過ぎる
5　実験室や教員部屋をたくさん持っている研究室とスペースの無い研究室との格差が激しい
6　インターン的なのがあればどんどん告知してほしい
7　１～４年次にかけての講義の取り方やスケジュールについて早めに知りたい
10　授業を受ける態度が悪い中国人がいるので、そういった留学生に対する援助を減らしてほしい
12　研究室の選択　　特に興味の無い分野の研究室に配属されることは無くした方が良い

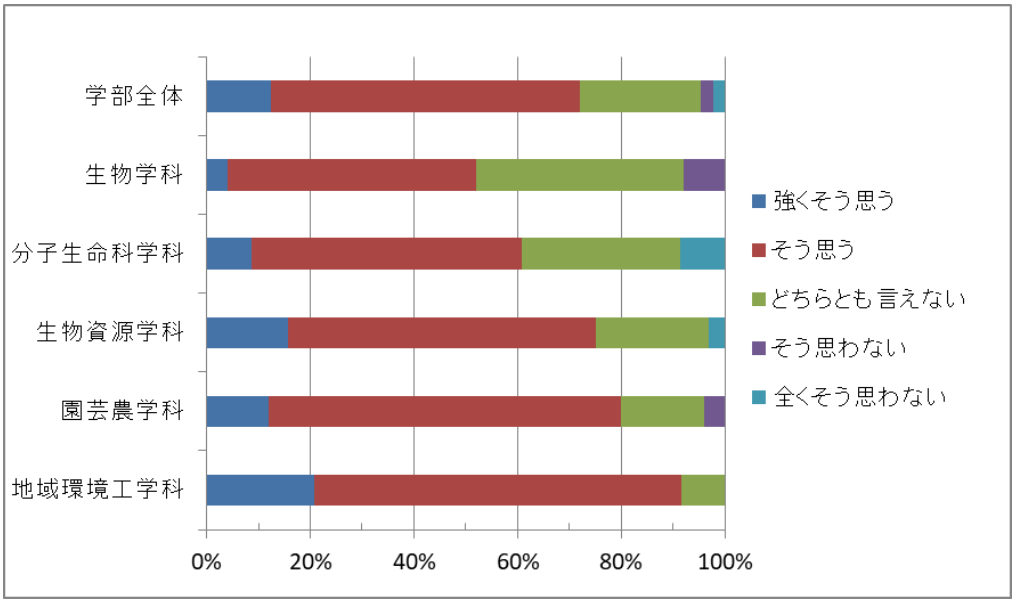
【生物資源学科】
1　ごく一部の教員の説明能力が著しく低い。「専門的物事を予備知識の無い者に分かりやすく伝える教育能力」を身につけてもらえると大変助かる
2　わかりにくいから
2　21 世紀教育を減らし，専門教育に力をいれるべきだと思います。特に，生物資源学科の学生実験は 1 年次頃から行って研究室配属をもっと早くすべきだと思います
2　実験を増やすべき。そしてもっと早く研究室配属すべき
5　書庫
5　研究室所属の人数に対して部屋が狭い
5　エアコンが欲しい。暖房はあるが夏場はキツすぎる
5　冷房設置
6　就職希望者数に対して，就職支援センターの相談員の数がたりていないと思う。1 時間しか ES などを添削してくれないので，ハローワークに行った
6　学科ごとに先輩達がどのように就職活動を進めていたのかを教えて欲しかった
12　　休み期間　　せっかく青森に来た学生もいるので，夏休み休暇をねぷた，ねぶたにかぶせない方がいいと思う

【園芸農学科】

1　興味を持てる授業展開
1　指導教員によるアカハラにより，身体的・精神的にも苦しい時が多々あったため（ある意味強くはなったが・・・）
1　つまらない講義があったから。
2　学生サイド：教授のやる気がない→授業がつまらない→勉強をしない　教授サイド：学生のやる気がない→教える気がなくなる→研究に時間を使いたい→授業の質が低下　という負のスパイラルをなくしてほしい
5　研究室に属する学生の居場所が狭い。研究室ごとに 1 部屋学生部屋があってもよいのではないだろうか
5　1F に日光が届かない。木が大きすぎます。
6　学部内での相談できる窓口があればと思う
7　1 年生のときのホームシックに対する対応が必要と思われる
7　初めて 1 人暮らしを始めて，苦労したから
8　還付型の奨学金の幅（選択肢）を増やす

【地域環境工学科】
1　教員全体で指導基準を確実なものにすべき。アカデミックハラスメントと言われても仕方のない指導をしている教員もいる。または指導基準を学科で設けない方がいいと思う
1　一部の教員の板書やテスト返却時の文字が汚くて読めない
2　学ぶ幅が広すぎる
5　講義室の空調設備が欲しい
5　農業土木についての本を増やしてもらいたい
5　設問 13 に同じ
5　古い
5　構内で使えるビニールハウスの面積と地下水が少なかった
5　老朽化が進んできている
5　ネットなど研究室に繋がってない
6　相談できるとこがほしい

設問 18. (1) 総合的に判断して、本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。



図Ⅰ-18. 本学部・学科の取り組みに満足か

本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますかという設問に対して，学部全体では「強くそう思う」と「そう思う」の合計が72%で，「そう思わない」と「全くそう思わない」は計6名で5%に過ぎなかった。 平成26～27年度において肯定的評価は72～73%，否定的評価は4～8%で推移しており，平成28年度も変化はなかった。

学科別にみると，肯定的評価の割合が最も高いのは地域環境工学科，最も低いのは生物学科であり，その差は40ポイントもあった。実学的な学科ほど肯定的評価の割合が高い傾向がある。平成27年度は，学科間のポイント差は最大29ポイントで本年ほど顕著ではないが，同様の傾向がみられた。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

【生物学科】

1　弘大に来てよかったと思えるから

2　全体的に大体満足しているが，教職科目について，履修対象者についての記録がなく，混乱したことがあったので，他学部ともっと確認をとるべき

2　熱意があります

2　生物学について学べてよかったと思ったので

2　農生は良い先生が多いと思う。でも設備が古いのが少し気になりました

2　単純に知識を教えるだけでなく，学生の主体性を重要視しているから

2　学生に親身になってくれるいい先生がそろっていた。勉学・研究以外にも，多くのことを学べた

2　特にこれといって直して欲しい点が思いつかないから

2　　教員の方々から講義やそれ以外の場でも大変お世話になり，大学院に進学することを考えました
3　私は満足している
3　　満足はそんなにしてないけど，そこまえ不満が多いわけでもない
3　　設問 17 までを総合して。良い所も悪い所もあるので，どちらとも言えない
3　　教員の熱意は感じとれるのですが，実現しにくい環境だと思います。例えば学部生が学会に行く場合，旅費が出ないなど
3　　ゼミ配属された後は，研究室によって大きく差がある（と感じる）
3　　「研究」目的の人からは，不満が多いが，就職を目的とすると農業分野にも手を広げられる強みはあると思う
4　　やる気のある者，ない者がはっきりとしている現状がある。やる気のない者（教員や大学職員含む）は，大学から身をひくべきでは？
4　　設備の充実，教育，アカハラの撲滅に力を入れて下さい（どのような対策をしているか周知していますか？そもそも何か制度ありますか？）

【分子生命科学科】
1　　農学・生命科学分野の基礎的・専門的な知識を学ぶことができ，また自分の興味を持った研究に携われることができたため
2　　研究室に対しては満足しているため
2　　多くの点で努力していると思う
2　　自分の卒業研究に本学科で学んだ知識が役に立ち，更に指導教官が大変親身に指導してくださり，満足のいく卒業研究ができたため
2　　入学に後悔しなかったから
2　　白神を活用した点
2　　授業や実験材料が面白かったから。
2　　楽しく，社会に出るための準備ができたから
2　　人として成長できたと感じることができたから
2　　講義・研究のどちらもほとんど満足のいくものだった
2　　自分自身が過去に望んで将来像に現在ある程度近づくことができているため
3　　全体的に悪いと思いました
3　　研究室決めのもめ事が大変。成績などで決めるのはいいが，もっと教授の方たちも加わって話し合いすべき
3　　GPA を出してほしい。研究についてはとても良いと思う。卒業発表では賞を出すのであれば全員分教員が見なければならないと思うし１分で話すのに教員が全部回らないのでは短くしている意味が無いと思う。１分という短い時間を設けるのであれば，全員分を回るべきだと思う。

【生物資源学科】
1　　専門的な研究を十分に出来たことが，うれしかった
1　　入学してよかったと思ったため
2　　満足したから

2　　自分は参加していないが，様々なセミナーを行っていたから
2　　総合的には妥当であり，このアンケートのように更に向上させていく為の取組も感じられるため
2　　講義は良かったし，設備も満足しているから
2　　卒業研究の指導が的確だったから
2　　指導教員が熱心に取り組んでいたその姿勢がよいと思った
2　　不満はさほどなかったので
2　　真面目だと思ったため。夜遅くまでの実験は良くないと思った
2　　4年間それなりに学ぶ機会がえられたため
2　　もっと高レベルなものにしていいと思う
2　　教員達が熱意を持って教えてくれていることが伝わったから
2　　総合的に判断すると満足できたから
3　　各研究室によってかわるから
3　　単位の認定などをより厳しくするべきであると思ったため
3　　先生によって研究の取組に対する姿勢が違いすぎる。本当にいい先生もいる一方で，不真面目な先生もいる

【園芸農学科】
1　　農生（特に園芸農）は素晴らしい教員，学生が揃っていると感じる。また，学務と違い，農生の総務は対応も丁寧で，非常に安心して学習に臨める。問題は，学長を始めとする偉い人達の無能さである
1　　かなりマイペースが雰囲気だったので，あせらず自分を見失うこと無く研究ができたから
1　　4年間とても充実していたと思う
2　　担当教員の方々による指導・サポートのおかけで，卒業研究に意欲をもって取り組めたから
2　　楽しい学生生活をおくる事ができたから
2　　卒業研究に困らない程度の設備があり，熱心な教員も多いため（学生からみて）
2　　2～4年まで農場での作業があるのは，この学科に来た意味があると思いました。楽しかったです
2　　先生とか一生懸命やっているなと思うから
2　　入る前のイメージ通りであったし，自分自身，農生に満足しているから
2　　良い環境であったと思う
2　　講義の勉強やゼミでの研究活動の経験は，今後活かせるとは限らないが，成長することはできたため
2　　もう少し改善する点があると感じた
2　　不満に思う点が見当たらないため
2　　全体的に自分で考える力がついたと感じるため
2　　セミナーやバスでの企業見学などを開催しているから
2　　教員にもよるかもしれないが，放任ではなく面倒を見てくれた

3　　指導方法が教員によって異なるため
3　　よくわかりません
3　　特になし
4　　自分で考えなければいけないが，何をすべきなのか等が入学当初は分からず，そのまま引きずっていってしまう

【地域環境工学科】
1　　とても良き講義だったため
1　　1 人 1 人の学生に対して誠実に向き合っていると思うため
1　　楽しかったです
1　　充実した学習を行えたため
2　　本学科でしかすることのできない研究が出来たと思う
2　　将来の役立つものであったと感じたから
2　　勉学に専念することができたから
2　　指導教員にとても丁寧に学問以外にも助けられたため
2　　特に不満がないから
2　　そう感じたから
2　　達成感は得られた
2　　基本的には，良かったと思う
2　　土木技術者としての専門的知識だけでなく，社会人としての知識を身につけることができた
2　　特に問題を感じたことはないから
2　　限りある設備の中で可能なことにしっかりと取り組んでいるから
2　　わかりやすかった
2　　なんだかんだ終わると満足
2　　学生に親身になって相談を受けてくれたり，新しい考えを示してくれたから
2　　ほとんどの授業および研究室で，満足していますが，一部疑問に感じる研究室もありました
2　　4 年間本学部に所属して，充分であったと感じたから
2　　そう感じるため
3　　良い部分とキツイ部分の 2 つがどちらもあったため
3　　文系と理系で指導の差が大きい。取り組むものが違いはするが，学生が犠牲にするものに差異がありすぎる

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，2 年間本研究科で教育を受け今まさに修了しようとしている学生を対象に，研究科における教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：教員をとおして研究室所属の研究科学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。

調査対象：平成 29 年 3 月研究科修了予定者 30 名

調査期間：平成 29 年 2 月 8 日～2 月 17 日

有効回答者数：19 名

調査項目：設問は以下のとおりである。(ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。)

設問 1．あなたの所属コースをお答えください。

[研究科・コースの教育目標等の認識]

設問 2．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，概要および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 概要について

(2) 入学者受け入れ方針について

設問 4．(1) あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[コースの教育について]

設問 5．シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 6．(1) あなたが所属するコースで受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問 15 で別に聞きます)。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 7．本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。

[教員の指導について]

設問 8．(1) 所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

[学生の主体的学習について]

設問 10. (1) 講義や演習の受講に当たり，その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を，講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に，「1 単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。2 単位の科目の場合，90 時間の学習が必要な計算になりますが，講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで，講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間)。学習時間にはインターネットを利用した情報収集，講義や演習でのプレゼン準備やレポートの作成，研究室内でのプレゼン準備などに要した時間も含めても構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。

(2) 学術特別研究（学術研究プログラム)，実践特別研究（実践研究プログラム）あるいは課題研究（社会人入学者）に要した時間は 1 日平均どの程度ですか。実験に要した時間に加え，研究に必要な文献調査や文献講読に要した時間も含めて計算して下さい。

設問 11. 大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 大学院在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12. (1) 本研究科や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（ ）内に番号を記入して下さい。

(2) それぞれの対応に関して改善すべき点があれば以下に簡潔に記入して下さい。

設問 13. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

評価 / 施設	1. 充分満足	2. ほぼ満足	3. どちらとも言えない	4. やや不充分	5. かなり不充分
1. 講義室					
2. 実験・実習室					
3. 情報処理演習室					
4. 蔵書室（4 階）					
5. 学生自習室, 学生控室（2 階）					
6. 修士研究を行った研究室					

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

[修士研究について]

設問 14. (1) 修士研究について満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 15. (1) 研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。

(2) 本研究科のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

[本研究科の教育のあり方について]

設問 16. (1) あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者に相応の知識および学力を身に付けたと感じていますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 17. (1) 本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 18. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

設問 19. (1) 総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

２．調査結果

設問 1. あなたの所属コースをお答え下さい。

表Ⅱ-1. コース別アンケート回答率

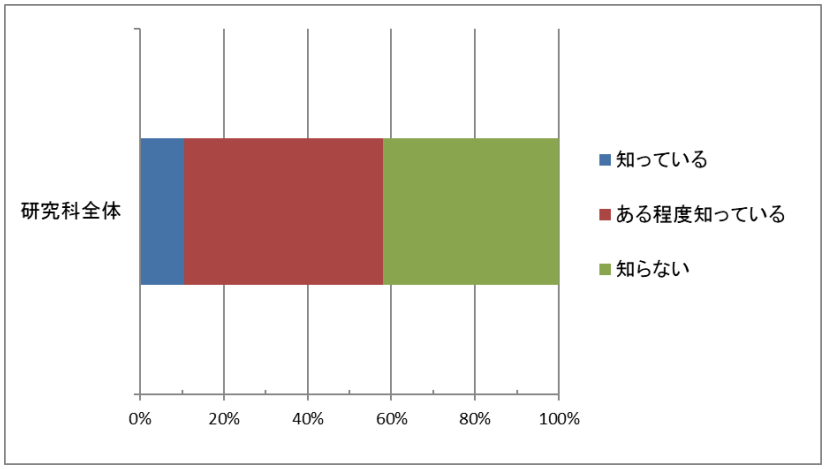
コース	対象者人数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
研究科合計	30	19	63
生物学コース	9	6	67
分子生命科学コース	9	6	67
生物資源学コース	6	4	67
園芸農学コース	5	2	40
地域環境工学コース	1	1	100

研究科全体の回答率は平均で 63%で，26 年度(78%)より明らかに低く，27 年度(66%)と同程度であった。対象者が１名だった地域環境工学コースを除くと，生物学コース，分子生命科学コース，生物資源学コースの３コースで 67%であった。最も回答率が低かったのは園芸農学コースで 40%であった。アンケートの目的を果たすためには，回答率を上げる努力が必要である。

回答者数が少ないため，以降の集計は研究科全体で行った。

[研究科・コースの教育目標等の認識について]

設問 2. 本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。



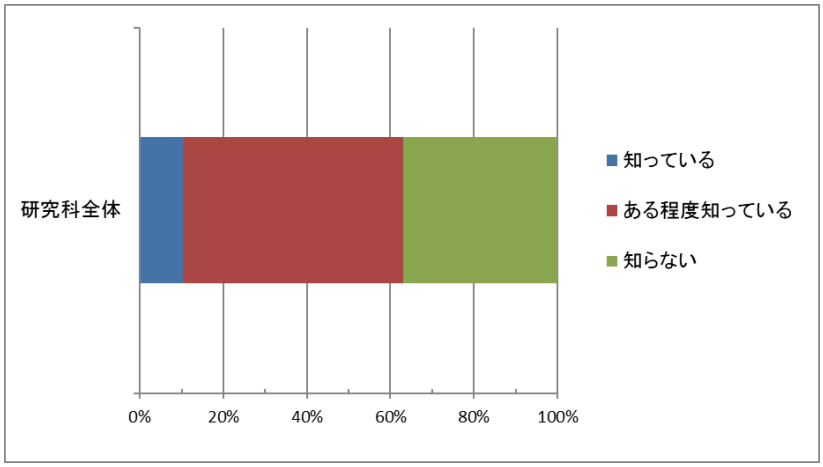
図Ⅱ-2. 本研究科の教育目的等の認識

「知っている」および「ある程度知っている」が，26 年度(71%)から明らかに減少し，27 年度(60%)と同程度の 58%であった。

教育目的及び教育目標の周知を図る努力が必要である。

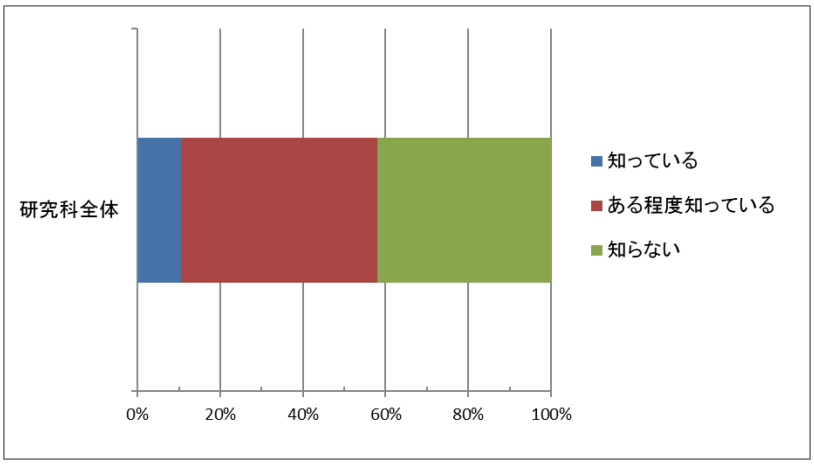
設問 3. あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースの概要および入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 概要について



図Ⅱ-3(1). 所属コースの概要の認識

(2) 入学者受け入れ方針について

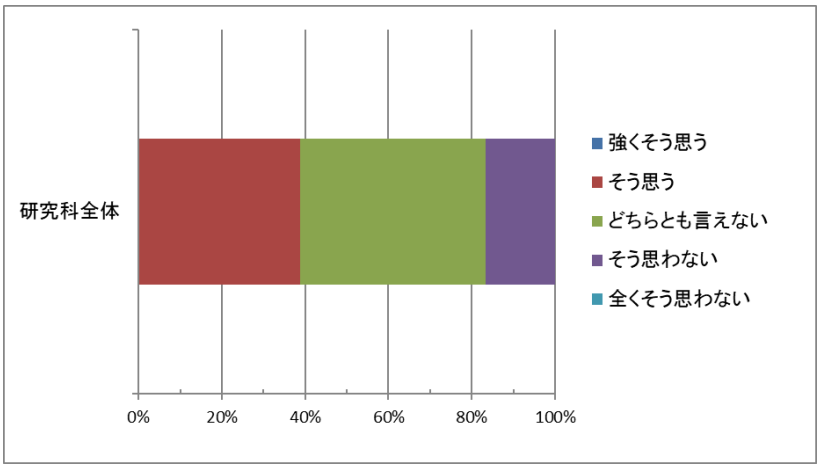


図Ⅱ-3(2)．受け入れ方針

概要については，「知っている」および「ある程度知っている」が 63%で，26 年度(76%)，27 年度(74%)より減少した。入学者受入れ方針については 58%で，26 年度(69%)より低かったが，27 年度(53%)よりは高かった。

大学院入試説明会等において，丁寧に説明する必要があると思われる。

設問 4. (1) あなたが所属するコースの概要は添付資料の通りですが，コースのカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。



図Ⅱ-4. 概要とカリキュラムの合致度

「目標に合致しているか」の問いに対し，「そう思う」は 39%で，26 年度(56%)，27 年度(80%)に比較して大きく減少している。大学院入試説明会等における説明に改善が必要である。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

[生物学コース]

2　分野の異なる教員からも講義してもらえるため，様々な視点から考える機会が与えられている

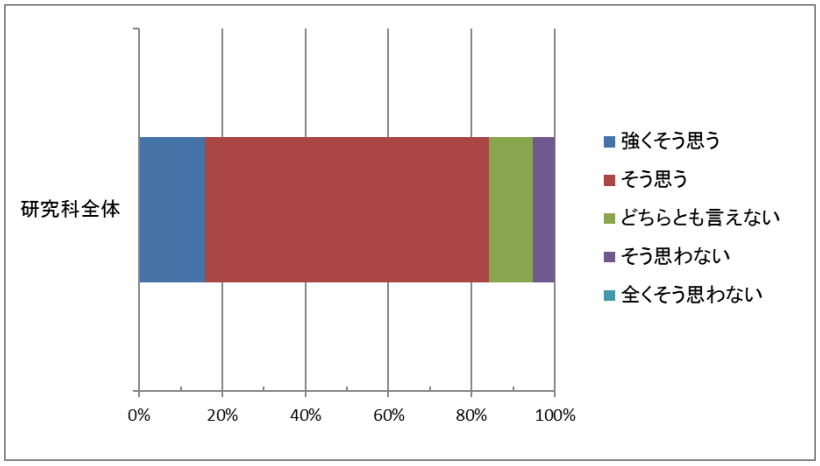
と思うため。
2　自分の研究活動を通して，専門的な解析方法などを学ぶことができた。
3　生態学研究室が人気/基礎生物学研究室が不人気→バランス悪。
3　概要を覚えていない。

[分子生命科学コース]
3　目標とカリキュラムが一致していると思えない。
3　合致している授業もあるが，必要がないと思える授業もあるため。
4　研究者になれるような人などほぼいない。そのような教育をされていない。

[生物資源学コース]
3　カリキュラムの中でも，所属研究室によって学べることは，まったく違う。大学院だと，履修できる科目数に限界があり，ほとんどとれなかった。
4　食品の研究に力を入れすぎている。
4　食品以外の研究，食用植物以外の研究に関しても行っている。

[コースの教育について]

設問 5. シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

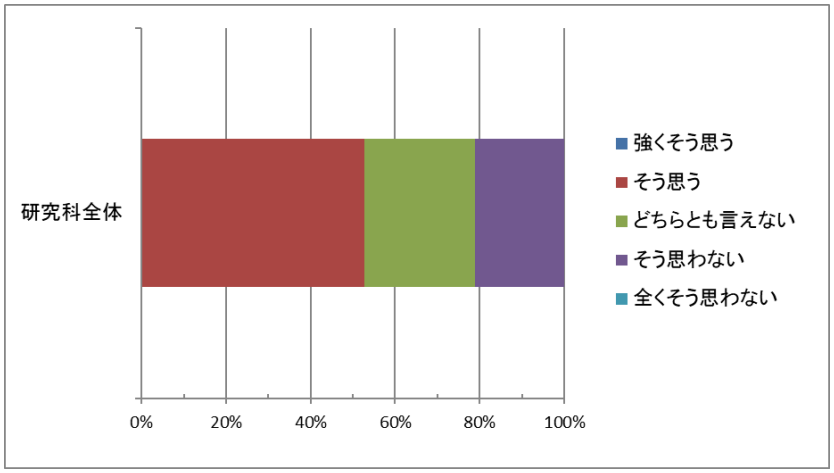


図Ⅱ-5. シラバスの有用性

「強くそう思う」と「そう思う」の合計は 84%で，26 年度(86%)と同程度だが，27 年度(93%)より減少した。

シラバスの内容と講義の内容の乖離を是正する努力が必要であると考えられる。

設問 6. (1) あなたが所属するコースで受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問 15 で別に聞きます）。



図Ⅱ-6. 所属コースの教育に満足か

「強くそう思う」および「そう思う」の合計は 53%で，26 年度(61%)，27 年度(58%)と比較してやや減少した。「そう思わない」および「全くそう思わない」は 21%と，26 年度(7%)，27 年度(19%)より高かった。

講義・演習については，少数意見も取り入れた教育の改善が必要と思われる。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

[生物学コース]

2　設問 4 (2) に同じ（分野の異なる教員からも講義してもらえるため，様々な視点から考える機会が与えられていると思うため)。

2　自分の専門ではない知識を学ぶことができた。

3　講義の中で議論を活発に行うことはできたが，演習や実習でより実践的な内容のカリキュラムにしてほしい。

4　講義より研究がしたかった。

[分子生命科学コース]

3　単位のために受けただけだから。

3　教員によって授業の進め方が，大きく異なるので，どちらとも言えない。

3　講義によっては，プレゼンテーション等で自分が発表するのみで，教員からあまり指導が受けられなかったため。

4　実践研究プログラムでは，夏季休業期間に集中講義が多すぎて，インターンシップに参加できない。

4　教員たちが自分の研究紹介をするだけで，「求める学生像」とか身についたとは思えません。

[生物資源学コース]

2　履修した科目の先生は，とても丁寧で良い授業だった。

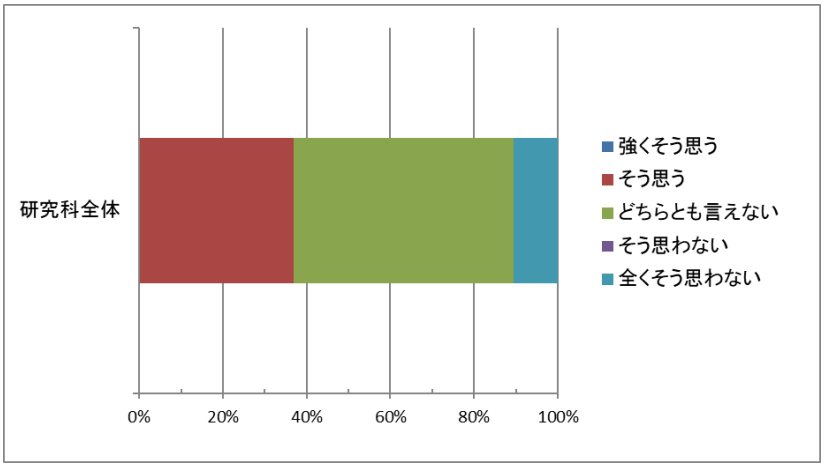
2　プレゼンをする機会が多く，発表に慣れることができたので良かった。
2　専門的な知識を，その道のプロから丁寧に教えてもらえるため。

［園芸農学コース］
2　ディスカッション形式の授業は，考えて意見を述べる良い機会となった。

［地域環境工学コース］
2　しっかり指導してもらえました。

肯定的な意見では,「自分の専門ではない知識を学ぶことができた」等の理由が挙げられており，一定の教育効果があったと考えられるが，他方では「教員からあまり指導が受けられなかった」「集中講義が多すぎる」等の不満が散見された。講義内容や開講時期等の検討が求められる。

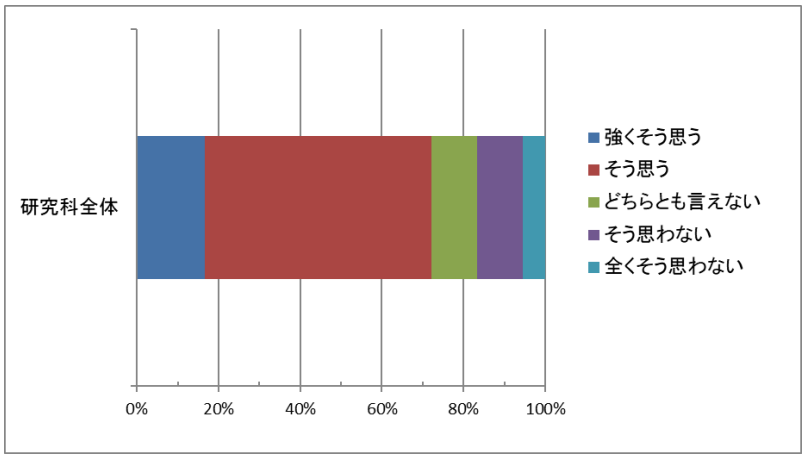
設問 7. 本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。



図Ⅱ-7. ガイダンスは適切だったか

「強くそう思う」と「そう思う」の合計は 37%で，26 年度(64%)，27 年度(74%)より大幅に減少した。また，「全くそう思わない」が 11%で，26 年度(7%)，27 年度(3%)より増加しているので，ガイダンスの内容を改善する必要がある。

［教員の指導について］
設問 8. (1) 所属するコースの教員の学生への指導や対応に満足していますか。



図Ⅱ-8. 教員の指導や対応に満足か

「強くそう思う」および「そう思う」の合計は 68%で，26 年度(79%)，27 年度(77%)と年々減少している。

「どちらとも言えない」は 11%で，26 年度(14%)および 27 年度(19%)より減少しているので，大学院生への指導や対応は概ね適切だったと思われるが、改善の余地がある。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
5. 全くそう思わない

[生物学コース]

1 良い教員が多いと思う。Q&A もしっかりしていただけるし，学生に壁を作って拒絶するようなこともない。

2 多忙な中で精一杯世話して下さった。感謝している。

2 自分の研究内容について，相談した際は，多くの助言をいただくことができた。

[分子生命科学コース]

2 学生が，研究や就職活動に費やす時間を最大限に尊重してくださる教員が多かった。

2 疑問があるときちんと答えてくれるから。

3 指導や対応に満足できる教員と，そう思えない教員がいるため。

4 生徒のためと口で言うが，自分のやりたいように生徒をねじ曲げている。嫌い。

5 自分のお気に入りには「うん。それでいいよ。すごくいい」と言うくせに，そうじゃない生徒には，発表スライドや原稿も見もしないで一瞬で消す。その上に，自分のやりたいように書いて，それを発表すると怒られる。そんな指導で誰が力を伸ばせるんですか？

[生物資源学コース]

1 皆，優しく丁寧な指導をしてくれたため。

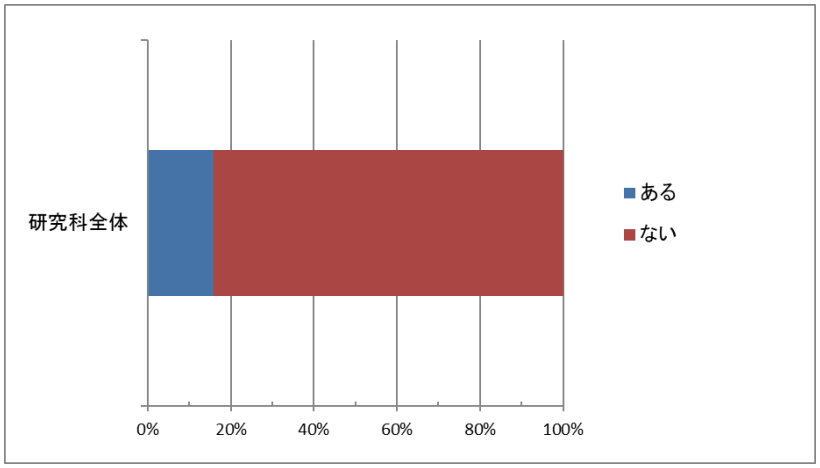
3 一部，何のために授業をやっているのかわからない教員がいた。

[園芸農学コース]
2　大学外の広い世界の一部を見る機会を提供してくれた。

[地域環境工学コース]
2　よくしていただいた。

概ね「丁寧で配慮ある指導を受けることができた」という回答であったが，一部に教員の対応に問題があるとの指摘もあり，今後の改善が望まれる。

設問 9. 大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。
(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。



図Ⅱ-9. 成績評価に対する疑義

「成績評価の結果に疑問や異議を持ったことがある」が 16%で，26 年度および 27 年度の 19%をやや下回った。

改善傾向にあるが，重要な項目であるためさらなる改善が望まれる。

(2) 疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。

[生物学コース]
記述なし

[分子生命科学コース]
1　相談はしていない。プレゼンテーション演習Ⅰの講師は本当にいらない。お金の無駄。
1　相談していません。
1　優秀賞をいただいたとき，複数の先生から「何でお前が」と言われました。研究と並行して裏で努力していることも知らないで，しかも優秀賞下さいなんて言ってないのに，勝手に選ばれて，バカにされる。何でそんなこと言われないといけないんですか？オフィスアワーとかありますけど，その言った先生が担当していたら，誰に相談したらよかったんですか？相談してどうにかなりましたか？

[生物資源学コース]

記述なし

[園芸農学コース]

記述なし

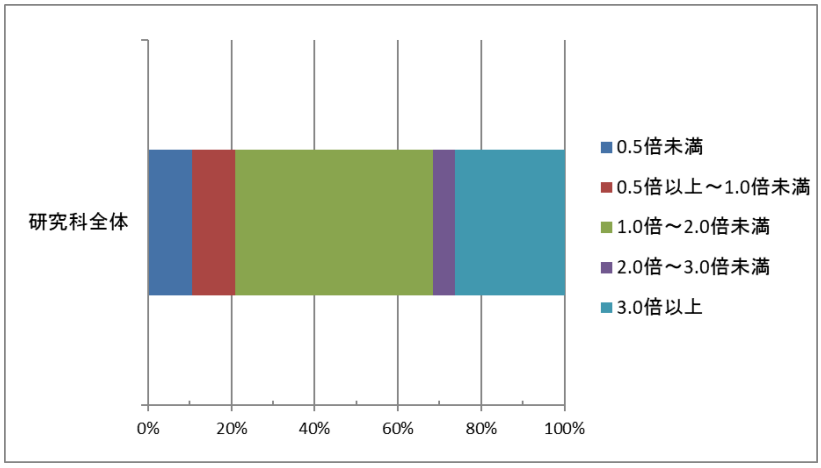
[地域環境工学コース]

記述なし

疑問や異議があったときに実際に相談等の行動をした大学院生はいなかったが，相談等がしやすい環境を整備することが望ましいと思われる。

[学生の主体的学習について]

設問 10.（1）講義や演習の受講に当たり，その講義の受講期間中にあなたは講義室での受講時間の何倍程度の時間を，講義室外での学習（予習や復習など）に当てましたか。大学設置基準に，「1 単位は 45 時間の学習を必要とする内容」と規定されています。2 単位の科目の場合，90 時間の学習が必要な計算になりますが，講義室では 30 時間（90 分を 2 時間として扱い×15 回＝30 時間）の学習時間しかありません。そこで，講義室外での学習が必要になります（講義室での 2 倍の時間）。学習時間には<u>インターネットを利用した情報収集，講義や演習でのプレゼン準備やレポートの作成，研究室内でのプレゼン準備などに要した時間も含めて</u>も構いません。ある 1 科目を想定して回答しても構いません。

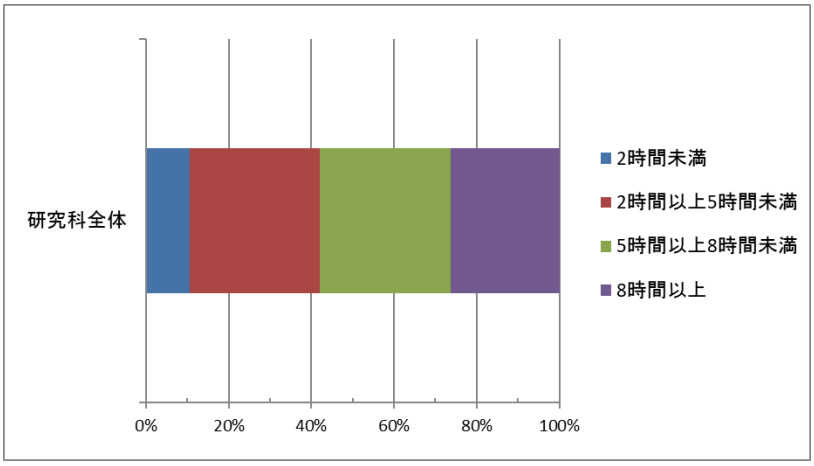


図Ⅱ-10(1)．予習や復習の時間

講義時間の２倍以上の時間を予習や復習に充てたという回答は 32%で，27 年度(30%)を少し上回ったが，大学設置基準を満たしていない大学院生が多い。カリキュラムの見直しを含めた大幅な改革が必要と考えられる。

(2) 学術特別研究（学術研究プログラム），実践特別研究（実践研究プログラム）あるいは課題研究（社会人入学者）に要した時間は 1 日平均どの程度ですか。実験に要した時間に加え，研究に

必要な文献調査や文献講読に要した時間も含めて計算して下さい。



図Ⅱ-10(2). 学術特別研究，実践特別研究，あるいは課題研究に要した時間

５時間以上もしくは８時間以上と回答した大学院生が 58%で，26 年度(70%)，27 年度(74%)と比較して明らかに減少していた。物理的に研究に割ける時間が減少しているか，研究に対するモチベーションが低下している可能性が考えられるので，要因の解析が必要である。

設問 11. 大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。
(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

[生物学コース]
・積極的ではなかったと思う。
・自身の力になりそうな講義をえらんだ。
・可能な限り意欲的になろうと努力した。
・自分の専門以外の分野にも，積極的に携ることで，少しでも研究のヒントになるようなものがないか，考えながら取り組んだ。

[分子生命科学コース]
・実験を疎かにしない程度。
・予習ができそうな講義については，予習をがんばった。
・他分野を勉強できる機会があるから，少しでも研究に役立つことを吸収したい。

[生物資源学コース]
・知識を身につけられるよう努力した。
・講義の内容をしっかりと理解するため，集中して取り組んだ。

[園芸農学コース]
・発言を意欲的に。
・直接的に関係がないものでも，幅広い知識を得るために集中した。

[地域環境工学コース]
・真面目に取り組んだ。

多くの大学院生が主体的および意欲的な姿勢で取り組んだと回答しており，教員の提示した要求に応えていると思われる。

(2) 大学院在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

[生物学コース]
・修士研究は長かった。
・プレゼンテーションⅠ： 必要性に疑問を持った。演習Ⅱは英語力が磨かれる内容でよかった。
・森林生態学の講義の中で，自分で課題を考え，それに対するアプローチを考えレポートにするのが，とても身になった。

[分子生命科学コース]
・プレゼンテーション演習Ⅰ： 宗教的な授業。いらない。
・天然物科学特論 A，B： 先生の対応が丁寧だった。
・プレゼンテーションⅡ： テストを行って学力でクラス分け，下のクラスは発表回数も少ない，宿題もないってなれば，それを知ってる人は手抜きますよね。意味ないなと思いました。

[生物資源学コース]
・昆虫系の授業： 正直意味不明。
・プレゼンテーションⅡ： 英語でプレゼンする機会が多く，普通の講義と違い，楽しく受けることができた。

[園芸農学コース]
・家畜飼養学？： いのちのたべかたを見て，受講者が感想発表。自分のコース以外の人の考え方が興味深かった。

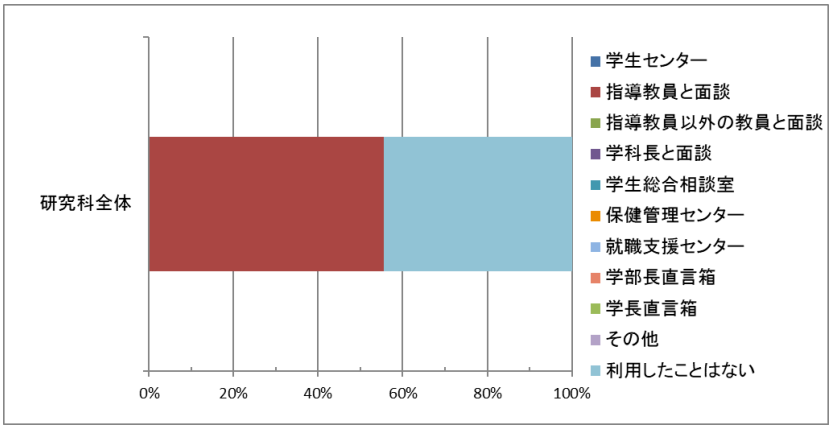
[地域環境工学コース]
記述なし

プレゼンテーション演習Ⅰに対しては質に問題を感じる大学院生がいた。一方，プレゼンテーション演習Ⅱは，26 年度に内容に対する不満が多く，27 年度には改善していたが，28 年度では評価の善し悪しの差が大きかった。講義内容も含めた検討が必要と思われる。

[学生への教育支援，施設・設備について]
設問 12.(1)本研究科や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の

(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。( )内に番号を記入して下さい。

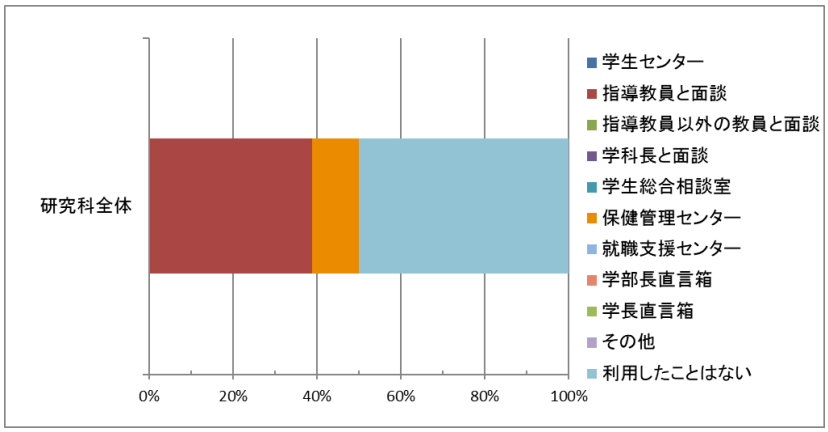
(1) 学業



Ⅱ-12(1). 学業についての利用

「指導教員と面談」および「指導教員以外の教員と面談」との回答が 56%で，27 年度(74%)より減少した。また，「利用したことがない」との回答が 27 年度の 20%から 44%と倍増しており，教員と大学院生の間の垣根を低くする努力が必要と思われる。

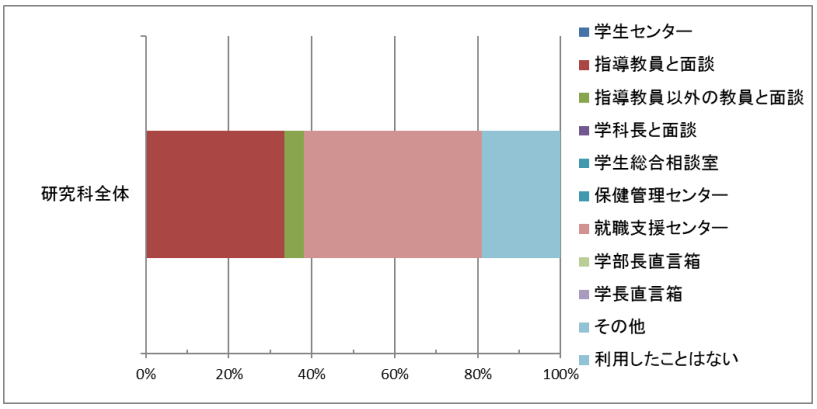
(2) 学生生活



図Ⅱ-12(2). 学生生活についての利用

27 年度と同様に，大学院生のほぼ半数が「利用したことがない」と回答している。学生生活に関する相談ができる窓口が複数用意されていることを周知する努力が必要と思われる。

(3) 進路



図Ⅱ-12(3). 進路についての利用

就職支援センターの利用は，26 年度(35%)から 27 年度(55%)に大幅に増加したが，28 年度は減少して 43%であった。「利用したことがない」との回答は 19%で，26 年度の 32%から 18%と大きく減少した 27 年度とほぼ同じレベルであり，就職支援センターの認知が改善されてきた結果と考えられる。

(2) それぞれの対応に関して改善すべき点があれば以下に簡潔に記入して下さい。

[生物学コース]
・就活に金がかかりまくり，特に交通費。なんとかして～。

[分子生命科学コース]
・指導教員には言えないことを他の先生に言える機会がほしかった。

[生物資源学コース]
記述なし

[園芸農学コース]
・相談する意味がない。

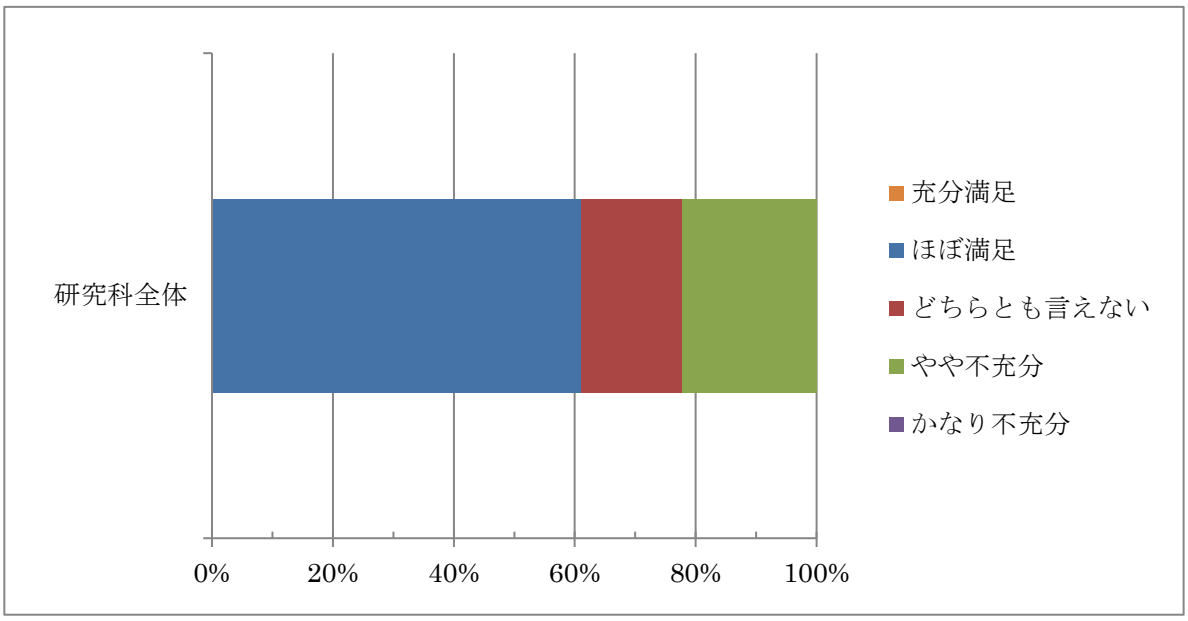
[地域環境工学コース]
記述なし

回答数は少ないが改善すべき

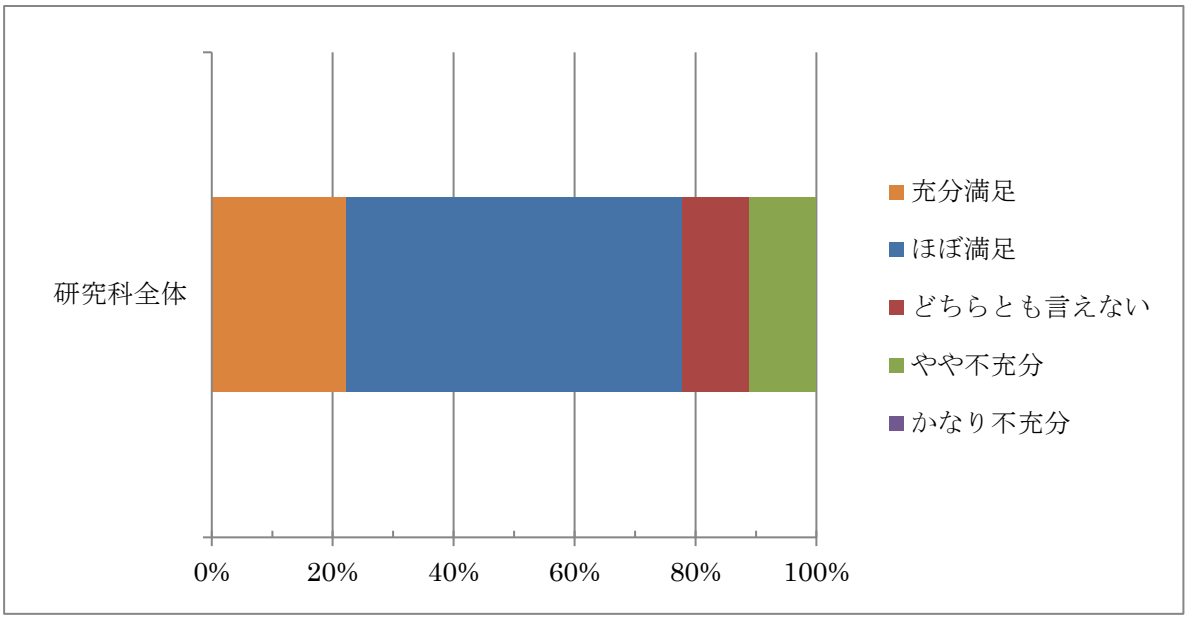
設問 13. 本学部の以下の施設について、どのように感じていますか。

（1）下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

評　価 施　設	1. 充分満足	2. ほぼ満足	3. どちらとも言えない	4. やや不充分	5. かなり不充分
1. 講義室					
2. 実験・実習室					
3. 情報処理演習室					
4. 蔵書室（4 階）					
5. 学生自習室, 学生控室（2 階）					
6. 修士研究を行った研究室					

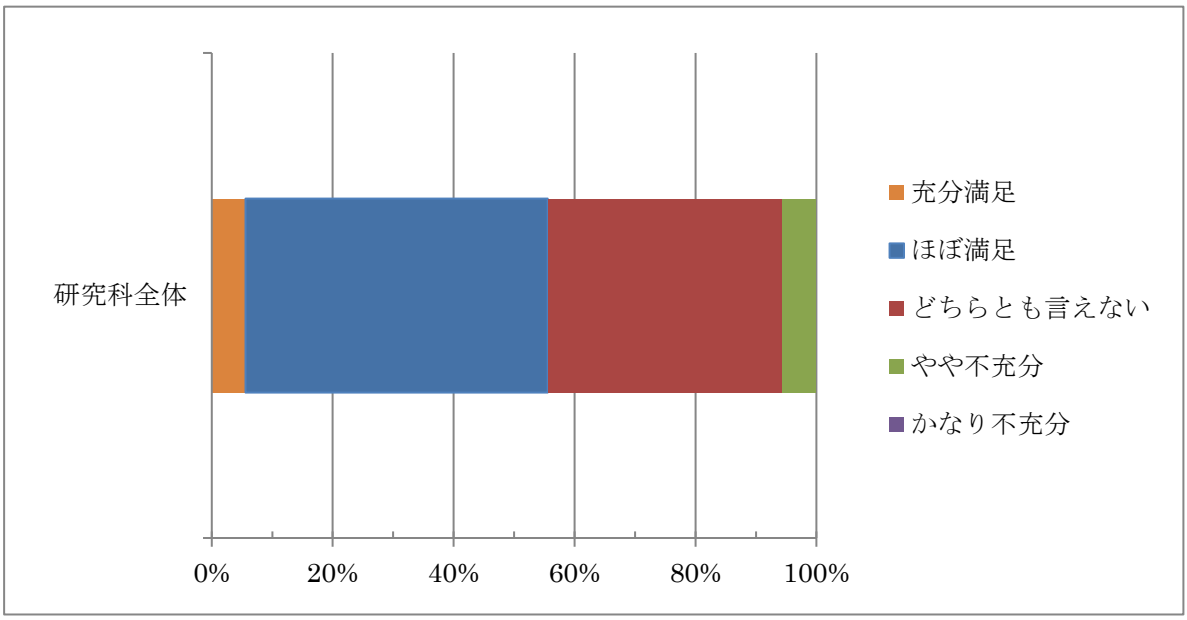


図Ⅱ-13(1)-1. 本学部の施設に対する満足度（講義室）

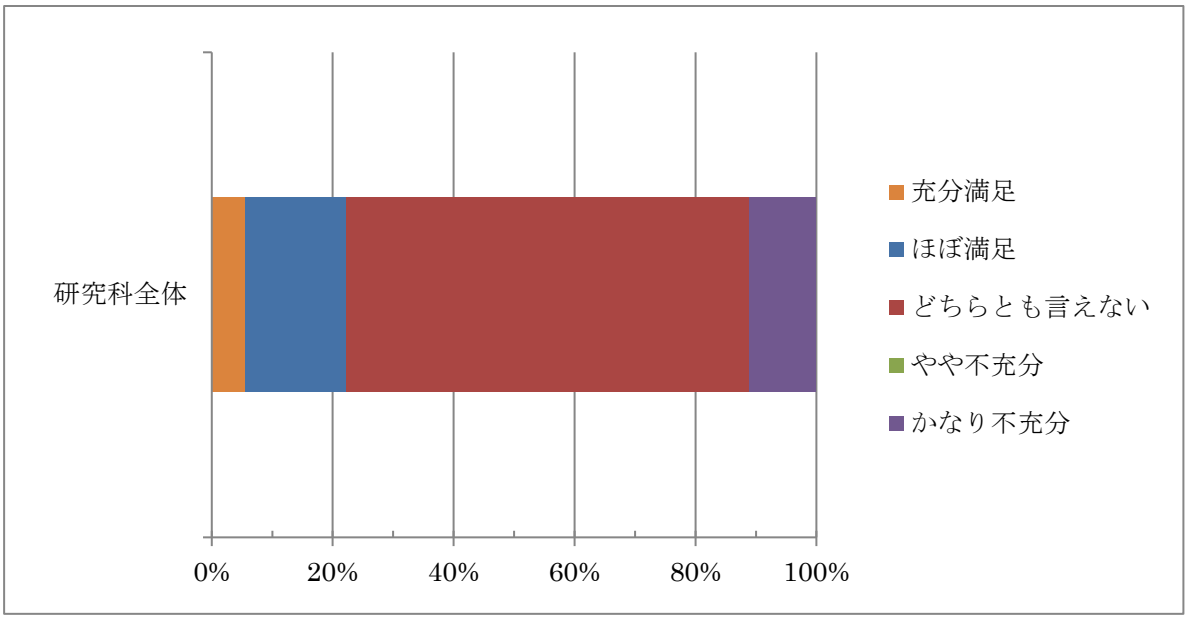


図Ⅱ-13(1)-2. 本学部の施設に対する満足度（実験・実習室）

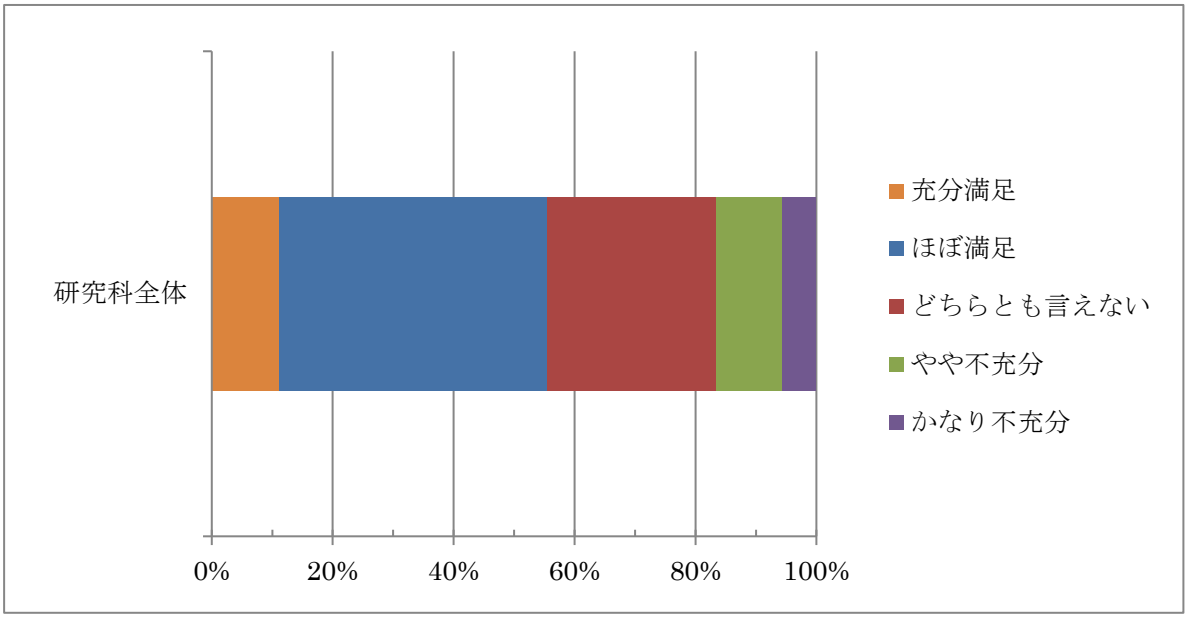
3. 情報処理演習室



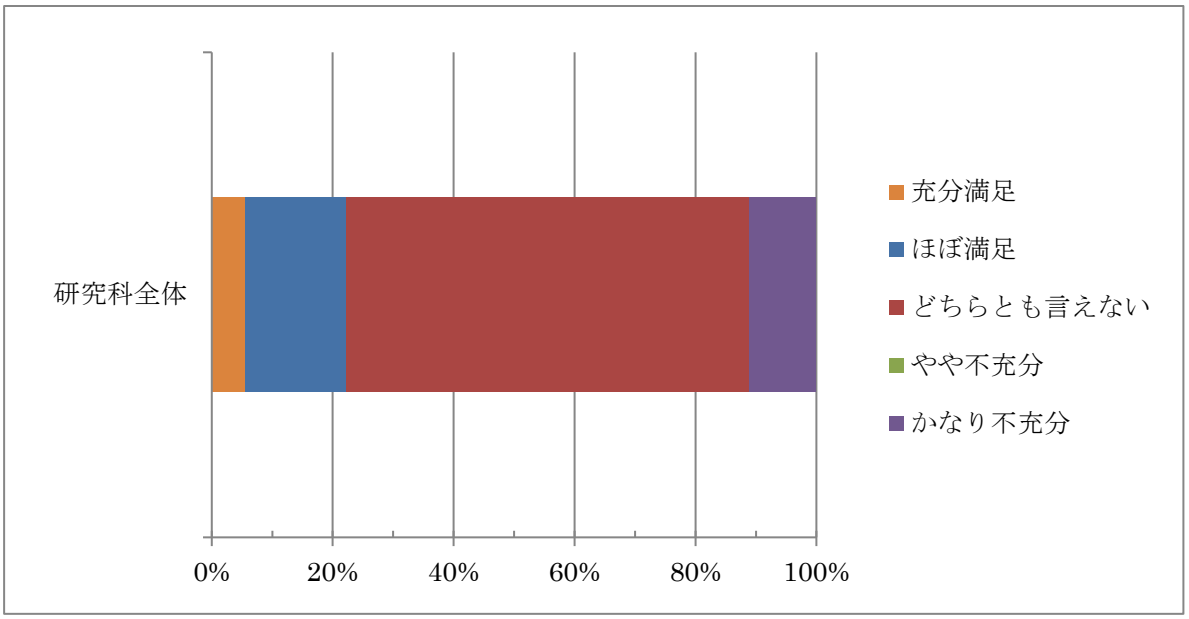
図Ⅱ-13(1)-3. 本学部の施設に対する満足度（情報処理室）



図Ⅱ-13(1)-4. 本学部の施設に対する満足度（蔵書室［4 階］）



図Ⅱ-13(1)-5. 本学部の施設に対する満足度（学生自習室，学生控室［2 階］）



図Ⅱ-13(1)-6. 本学部の施設に対する満足度（修士研究を行った研究室）

本学部の施設について，１．講義室，２．実験・実習室，３.情報処理演習室，４.蔵書室，５.学生自習室・学生控室（２階），６.修士研究を行った研究室の６箇所を対象に満足度を聞いた。１～５については例年とほぼ同じ結果となったが、6.修士研究を行なった研究室の満足度が平成28年度では約30%にとどまり，平成26年度（79%），平成27年度（77%）に比べて大きく減少した。

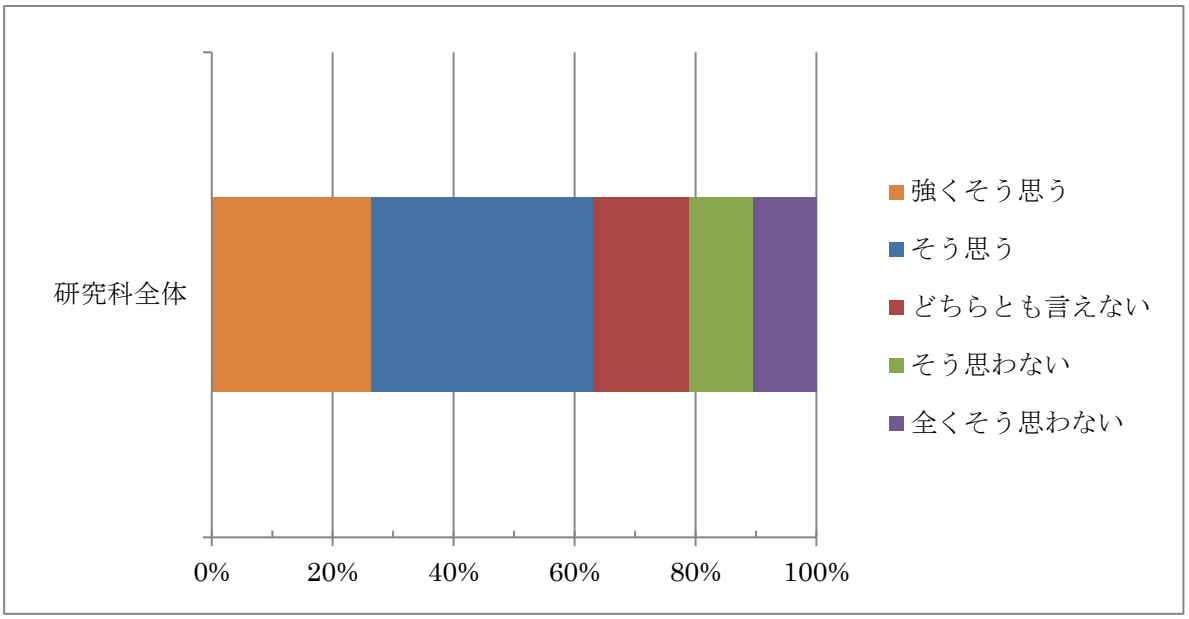
設問 13. （2）各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

- 講義室のブラインドやカーテンが壊れているのなんとかして。光が入ってきてスクリーンの映像が見にくいことがある
- 講義室に冷房をつけてほしい
- 各研究室，夕方以降も冷暖房使えるようにしてほしかった
- 研究室の面積がせまい
- 研究室が狭い。困る
- 冷暖房設備の充実を求む。温度調節，冷房等・・・

例年と同様に講義室や研究室の冷暖房管理（特に冬場の寒さ対策）に関する要望，研究室のスペースに関する要望が複数あった。これらを受けて，数年前よりいくつかの講義室に冷房設備を設置するなど改善を図っている。様々な制限のもとでこれらの要望に即座に答えることは容易ではないが，学生への理解を求めるとともに，継続して改善していく必要がある。

設問 14. （1）修士研究について満足していますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない



図Ⅱ-14（1）．修士研究に対する満足度

研究科全体で「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた肯定的評価は 63%であり，半数以上が修士研究に満足しているとの結果であり，前年度と同程度であった。しかし，「そう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた否定的評価が 22%であり，前年度に比べて 12 ポイント増加した。今年度はアンケート回答者数が 19 人と少なく，その影響を考慮して結果を考える必要があるあるが，平成 25 年度からの傾向として肯定的評価が減少し（平成 25 年度から順に 82%-→76%-→65%-→63%），否定的意見が増加している（8%-→13%-→10%-→22%）。原因の究明と改善が必要である。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

［肯定的意見］

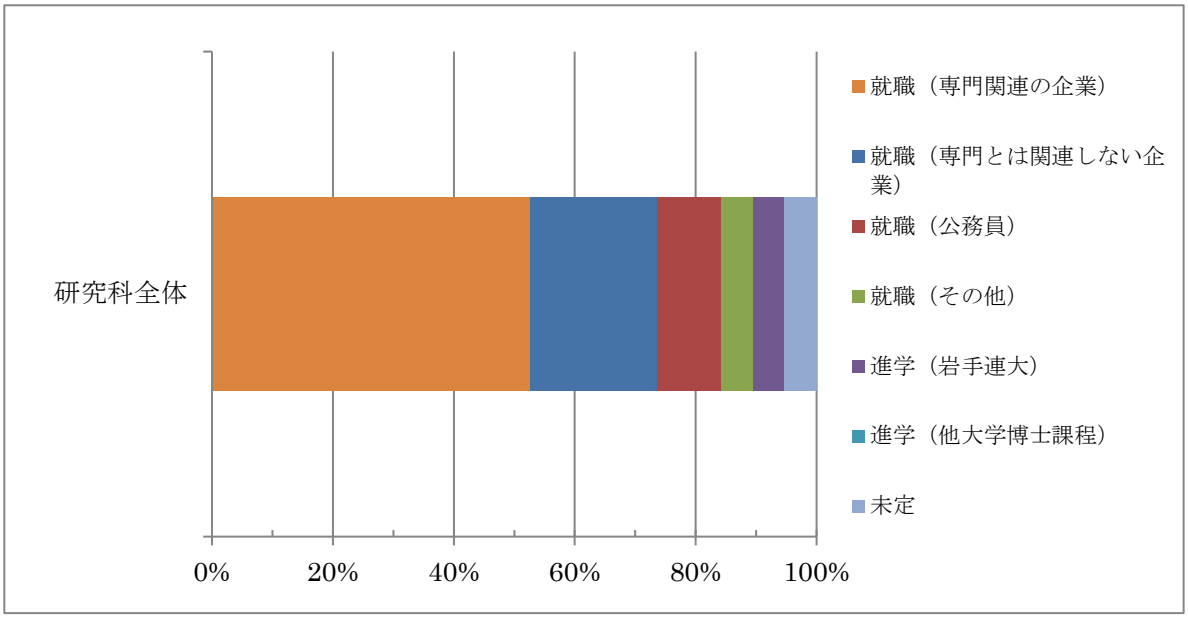
- しっかりできました
- 色々，思うように行かない事態が多かったが，最後に出た結果を受けて，やはりずっと取り扱ってきたテーマはおもしろいと再認識させてもらえた
- 指導教員の指導が非常に丁寧であった
- いろいろなことがあったけど，なんとかなったから
- 知識を高める事ができた。学会発表などの場を体験することで人間的にも成長できたと感じたため
- 自分がずっとやりたいたいと思っていたことができた
- 自身の成長を感じた。研究以外の面でも
- 指導教官に多くの研究指導を受けられるように，様々な研究者や教授などの方々をご紹介いただきながら，研究を進めることができた。また，金銭面でも多くのご協力を賜ったため

［否定的意見］

- とりあえず完遂できたけど，内容的には薄いかな。事情が事情だけにしょうがないとも言える
- 指導教員が嫌い
- もう少しがんばれた
- 自己否定され続けた 3 年半でした。気力は全部なくなりました
- 就職活動で時間がなかった
- もっと研究したかった
- 一番知りたかった事は，それなりに解明できたが，それを充たした次のステップをもう少し研究したかった

設問 15. (1) 研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。

1. 就職（専門関連の企業）　2. 就職（専門とは関連しない企業）　3. 就職（公務員）
4. 就職（その他）　5. 進学（岩手連大）　6. 進学（他大学博士課程）　7. 未定

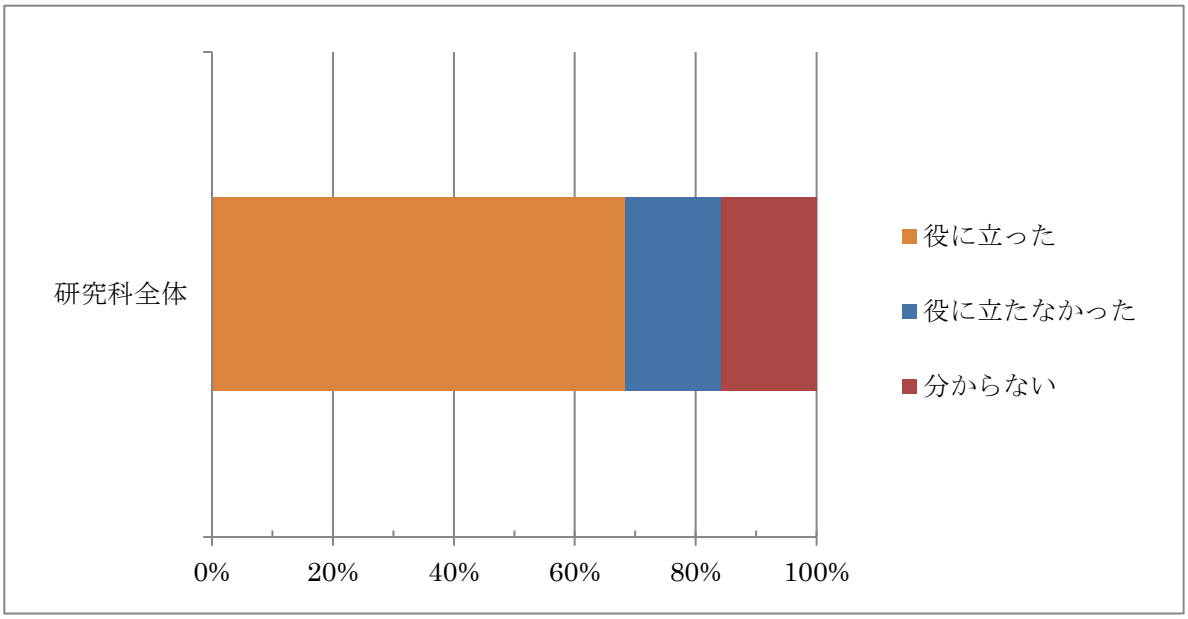


図Ⅱ-15(1)．研究科修了後の進路

研究科全体では「専門関連の企業」への就職が 53%であり，昨年度より 18 ポイント増加した。「専門とは関連しない企業」への就職は 21%と昨年度から 21 ポイント減少した。一方，「公務員」は 11%と昨年度より 8 ポイント増加した。就職の全体は合計で 90%であり，昨年度より 4 ポイント増加した。博士課程進学者は 5%であった。アンケートを実施した時点で進路未定者もわずかながらおり，さらに就職支援を充実させていく必要がある。

(2) 本研究科のカリキュラムで学んだことは、進路の決定にどのように影響しましたか。

1. 役に立った　　2. 役に立たなかった　　3. 分からない

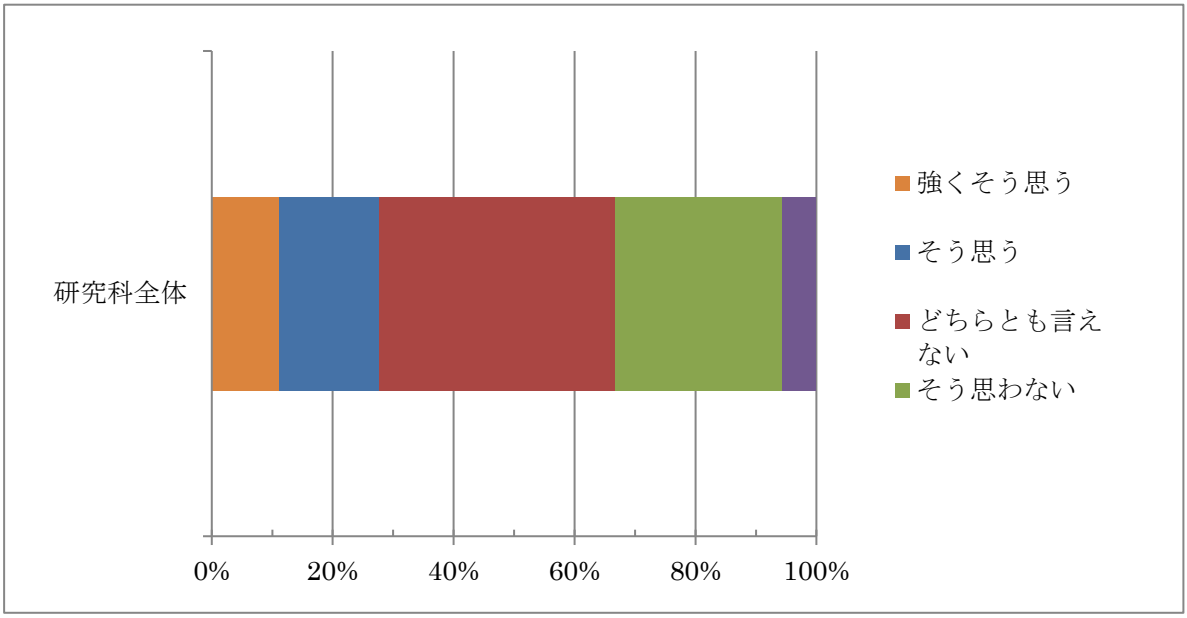


図Ⅱ-15(2)．研究科で学んだことの進路への影響

研究科全体では「役に立った」が 68%で昨年に比べて 18 ポイント増加した。「役に立たなかった」は 16%で昨年度（13%）と同程度であった。昨年度まで減少傾向にあった肯定的評価のポイントは過去３年間で最も高かった。昨年度は修士研究に対する満足度の減少が本質問に対する肯定的意見の減少と関係していることを考察したが，今年度の結果を見ると必ずしもそのような関係があるとは言えない。

(3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない

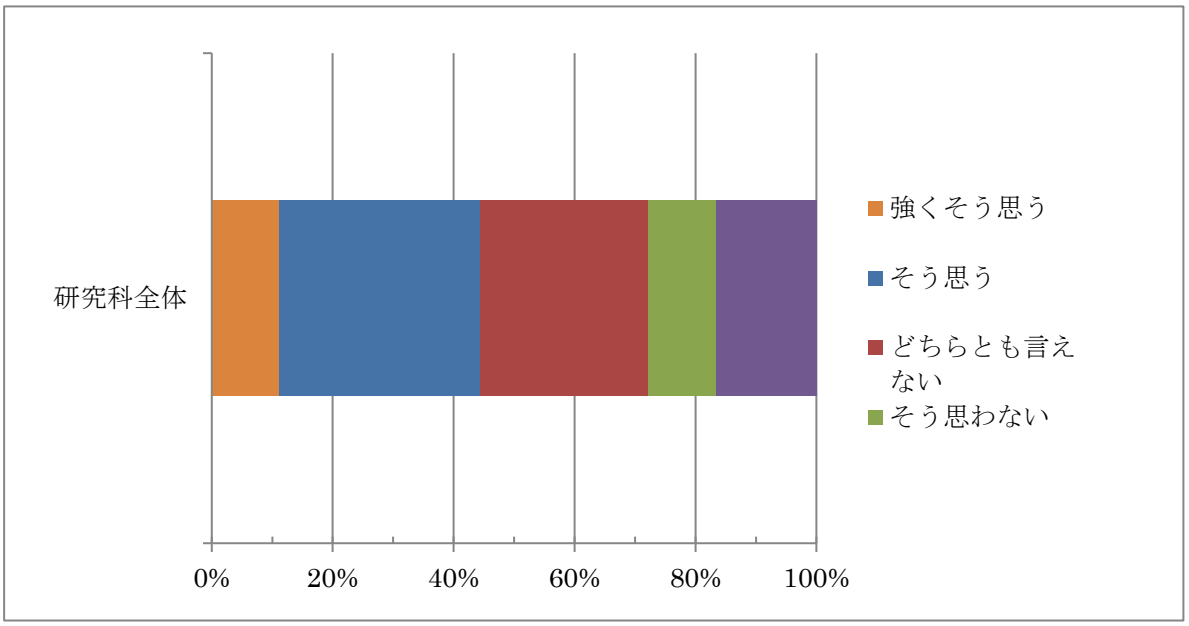


図Ⅱ-15(3)．進路支援の取り組みに対する満足度

研究科全体では，肯定的評価が 28%で昨年度から 2 ポイント減少し，否定的評価が 34%で昨年度から 4 ポイント増加した。平成 26 年度からの 3 年間を比較すると，わずかずつではあるが肯定的意見が減少し否定的意見が増加する傾向がみられる。その原因と支援の方法等について見直すことが必要と考えられる。

設問 16. (1) あなたが本研究科を修了するに当たり、大学院修了者に相応の知識および学力を身に付けたと感じていますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない 5. 全くそう思わない



図Ⅱ-16(1)．大学院修了者に相応の知識および学力の習得

3 か年で見ると，研究科全体では，「強くそう思う・そう思う」(67%→71%→44%)，「どちらとも言えない」(24%→27%→28%)，「全くそう思わない・そう思わない」(9%→2%→28%) であった。今年度は修士課程を通して相応の知識・学習を習得したとする意見が大きく減少し，習得していないとする意見が増加した。今後継続してその傾向を把握し，習得度の低下が客観的にも認識されるようであればその理由とともに分析し改善する必要がある。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

［肯定的意見］

- 色々と経験できたからです
- 学部卒ではできなかった，様々なことができるようになった
- 専門知識が身についたから
- 学部時よりも論理的思考ができるようになり，知識量も増した
- それなりの成果を挙げたため

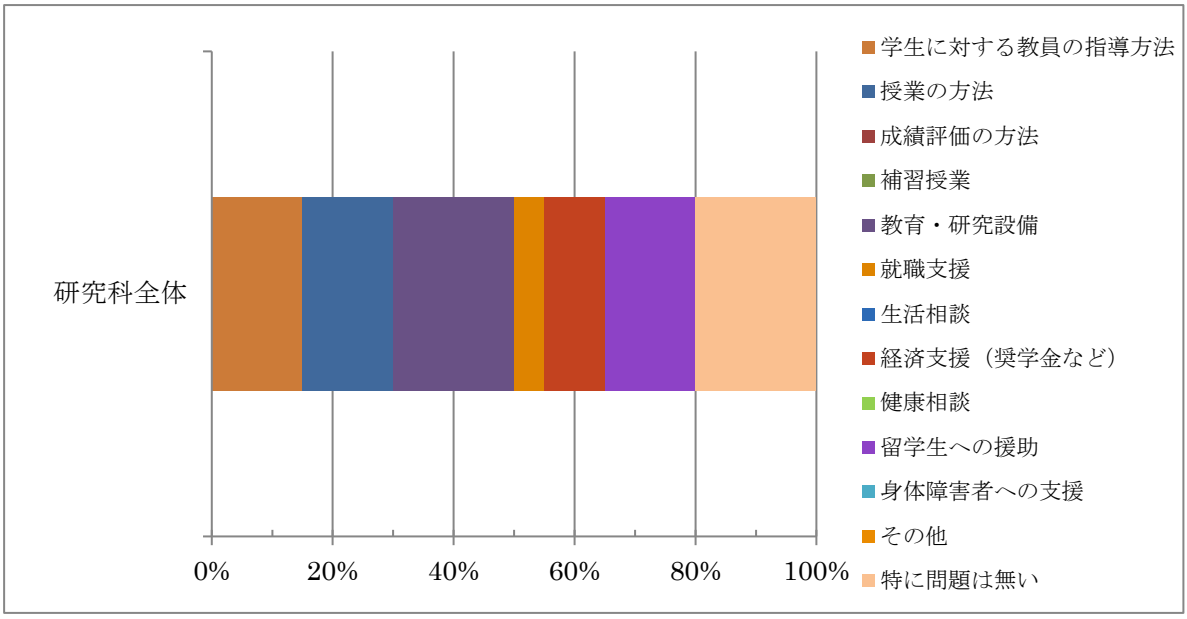
- 研究の際に，専門技術者（社会人）の方に，助言などいただける機会に恵まれました。また，自分の研究関連が実際に社会でどのように活かせるのか，学ぶことができた

［否定的意見］

- 実力不足。指導教員と所属ゼミ生の協力で修了要項を何とか満たせた
- 自主的に学ぶ意欲が希薄であった
- まだまだ勉強不足な点が多いと感じるため
- いまだに英語が読めません
- 「相応」の基準がわからない
- 誰のために研究してるのか，わからなくなった。自分を否定されるように感じた。結果，学力は身につけていない
- 自分が最もベストだと思って書いた内容は全てだめだったから，最後の修論発表でさえ，自分でやったものは全て否定されたので，修士として身につけたものは一つもなかったんだと思っています。

設問 17. （1）本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を、次の項目の中から一つを選んで下さい。

1. 学生に対する教員の指導方法　2. 授業の方法　3. 成績評価の方法　4. 補習授業
5. 教育・研究設備　6. 就職支援　7. 生活相談　8. 経済支援（奨学金など）
9. 健康相談 10. 留学生への援助　11. 身体障害者への支援
12. その他（　　）　13. 特に問題は無い



図Ⅱ-17(1)．本研究科の教育活動において早急に必要と考えられる改善点

昨年度 42%と高かった「学生に対する教員の指導方法」が今年度は 15%に減少し，平成 25 年度，平成 26 年度と同程度に戻った。「成績評価の方法」についても昨年度は 28%と高かったところ，今

年度は 0%と，以前のレベルに戻った。両項目の増減に相関があることが昨年度の結果から予想されたが，今年度の結果もその考察を支持する。

(2) **上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。**

- 就職：学校推薦枠とかあっても面白いかも　経済支援：そりゃ金は欲しいですよ。無利子がありがたい
- 指導教員は，自分の好き嫌いで人を判断するな。あなたの役割に優秀な人材を潰すことは含まれていない
- 私が係わった留学生は 2 人いたが，どちらもバイトして生活費の足しにしていたようだった
- プレゼンテーション演習Ⅱが，3，4 学期で継続されて受講しているにもかかわらず，1 単位分しかないのは，疑問。同演習Ⅰは，2 日間の集中講義で，1 単位であることを考慮するとバランスが悪い
- 今まで書いてきたとおりです。自分は書きましたが，書けなくて苦しんでいる生徒はもっとたくさんいますよ。改善してください
- ○○先生のラボが広すぎる。部屋の割り当てについて考えてほしい
- ほとんど活動していない研究室が広く，活発な研究室が狭い。不公平である（全てではない。名指しもしない）
- 授業の数が多く，特に野外に出て調査（研究活動）を行う必要のある学生にとっては，自由に研究できる機会が減っているように思われます
- 冷暖房

指導，授業，研究設備，経済的援助，就職支援など様々な要望があった。講義室への冷房の設置など可能なことから改善に着手しつつあるが，さらに対応を充実させ早急に行うことが望ましい。

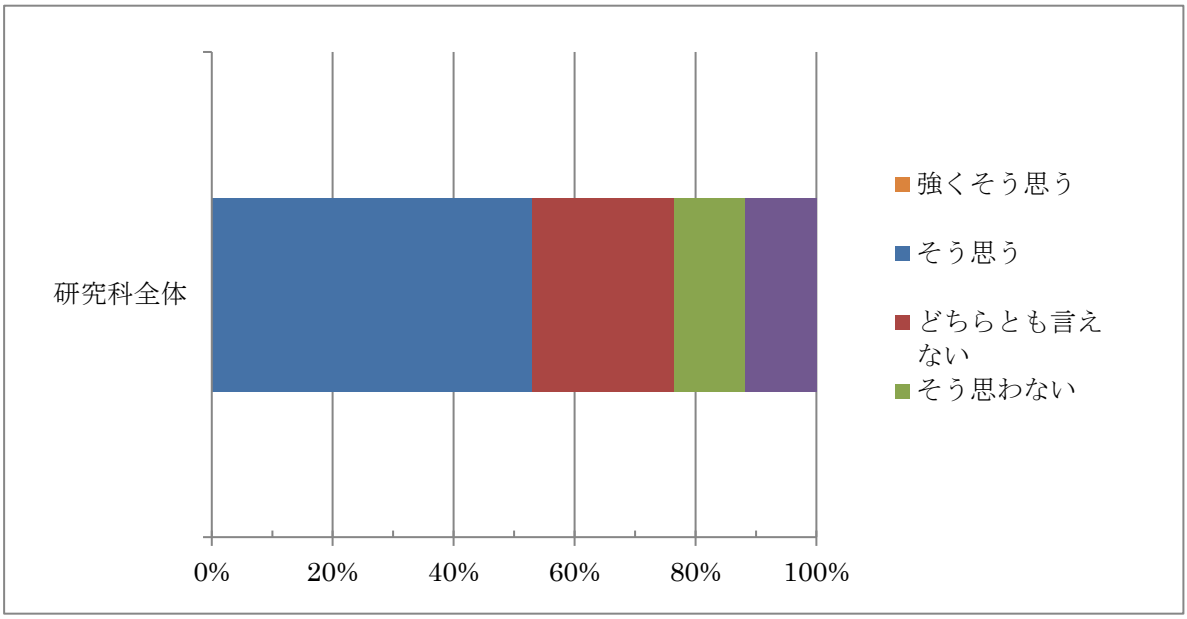
設問 18.　本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために、希望する点や、大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

- 修士論文提出書類は，はじめからすべて Word ファイルで配布していただいた方が助かる
- プレゼンテーション演習Ⅰをなくすべき。ある意味宗教じみてるから
- 教授だからとか偉い先生だからと言って，他の人が何も言えない，言わないシステムはやめた方がいいと思います
- 大学院の講義いらない。研究したい
- より研究活動に集中できるように，必修科目の数を減らす，あるいは，負担のない課題内容にしていただくと，学生は自由に研究活動ができる時間や指導者から指導を受ける時間が確保できると思います

継続して要望や批判に耳を傾け，改善を図っていく必要がある。

設問 19. (1) 総合的に判断して本研究科・コースの教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない　5. 全くそう思わない



図Ⅱ-19. 本研究科の教育・研究に対する総合的な満足度

平成 28 年度は総合的な満足度に対する肯定的評価が 53%であり，平成 27 年度の 74%，平成 26 年度の 75%に比べて約 20 ポイントと大きく減少した。これに対して否定的評価は 24%であり，平成 27 年度の 10%，平成 26 年度の 7%から増加の傾向にある。早急にその原因を究明し，対策を取ることが必要である。

Ⅲ. 教員対象授業アンケート（学部授業および研究科授業）

１. アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部および研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，学部および研究科の授業に関する教員の意識について調査することを目的にアンケート調査を実施した。

調査方法：各教員にアンケート用紙を配布することで調査を行った。各教員が担当している授業のうち最も重要と考えられる学部専門教育科目，研究科講義科目それぞれ１科目の合計２科目について回答してもらった。

調査対象:平成 29 年２月に学部, 研究科および生物共生教育研究センターに所属の教員とした。

調査期間：平成 29 年 2 月 8 日～2 月 22 日

教員数：　70 人　回答者数：　48 人(学部)，50 人(研究科)

調査項目：設問は以下の通りである。

『学部授業に関する調査』

設問 1. あなたが所属する学科を選択して下さい[注 1)]。

1. 生物学科　2. 分子生命科学科　3. 生物資源学科　4. 園芸農学科
5. 地域環境工学科

*生物共生教育研究センターの先生は 4 をお選び下さい。

設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

① 予定回数（2 単位 15 回とし、集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます）（　　）回

② 実施回数（集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます）（　　）回

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

1. 休講回数分を補講した　2. 一部補講した　3. 他の措置（　　）
4. 何もしなかった

設問 4. ① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

1. シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った
2. シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した
3. シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した

② 上記で、「3.」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

設問 5. ① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

1. 昨年度と同一であった　2. 一部変更した　3. 大幅に変更した

② 上記で、「2.」または「3.」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した
4. 分からない

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した
2. より専門性を重視して展開した
3. その他（　　）

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. 視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用
2. 画像データ（OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど）の提示
3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた
4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた
5. 宿題（レポートを含む）を課した
6. その他（　　）

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。
設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

『研究科授業に関する調査』
設問 1. あなたが所属するコースを選択して下さい。
1. 生物学コース　2. 分子生命科学コース　3. 生物資源学コース 4. 園芸農学コース
5. 地域環境工学コース

設問 2. 授業の予定回数と実施回数を選択して下さい。
① 予定回数（1 単位 8 回を目安*とし、集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。*2014 年 12 月 3 日コース長会議で了承）
1. 8 回　2. 7 回　3. 6 回　4. 5 回以下
② 実施回数（集中講義の場合は 90 分間を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目は除きます。）
1. 8 回　2. 7 回　3. 6 回　4. 5 回以下
設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。
1. 休講回数分を補講した　2. 一部補講した　3. 他の措置（　　）
4. 何もしなかった
設問 4. ① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。
1. シラバスに記載した内容に一致させて講義を行った
2. シラバスに記載した内容を意識し、できるだけ沿うように講義した
3. シラバスに記載した内容にはとらわれないで講義した

② 上記で、「3. 」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。
設問 5. (1)本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。
1. 昨年度と同一であった　2. 一部変更した　3. 大幅に変更した
(2)上記で、「2. 」または「3. 」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。
(3) 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。
1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した
4. 分からない
(4) 上記の設問(3)で「１」と回答した方は、その具体的な事例を教えて下さい。
設問 6. 大学院の講義は平成 24 年度から、それ以前の前後期制に代わりクオーター制で実施されています。
(1) 4 年を経過して、クオーター制による講義は、教育効果にどうような影響を与えたとお考えですか？
1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった　3. 教育効果は低下した
4. 分からない
(2)　上記の設問で「１」あるいは「３」と回答した方は、そう判断した理由を教えて下さい。
設問 7. 大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1. 大多数の学生のレベルを意識して展開した
2. より専門性を重視して展開した
3. その他（　　）

設問 8. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. 視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用
2. 画像データ（OHP、スライドプロジェクター、プレゼンテーションソフトなど）の提示
3. 授業の合間に質疑や討論の時間を設けた
4. 小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた
5. 宿題（レポートを含む）を課した
6. 実習形式の授業を行った
7. その他（　　）

設問 9. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが、そのような場合への対応として、どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 10. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために、このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

設問 11. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

２．学部授業に関する調査結果

設問１.あなたの所属学科をお答え下さい。

表Ⅲ-2-1. 回答率

	教員数（人）	回答数（人）	回答率（%）
学部全体	70	48	68.6
生物学科	14	7	50.0
分子生命科学科	14	8	57.1
生物資源学科	12	9	75.0
園芸農学科	15	13	86.7
地域環境工学科	11	11	100.0
生物共生教育研究センター	4	2	25.0

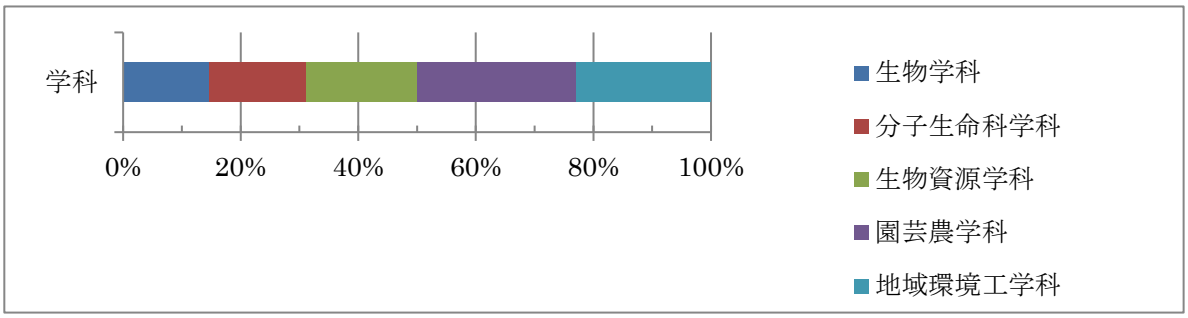


図 Ⅲ-2-1. 学科別回答割合

学部全体の回答率は 68.6%で過去 2 年(昨年度:68.6%, 一昨年度:71.8%)と概ね同じである。学科別では生物学科が 50.0%と低い。また, 地域環境工学科では 100%であった。

設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

(1) 予定回数(2 単位 15 回とし, 集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。)

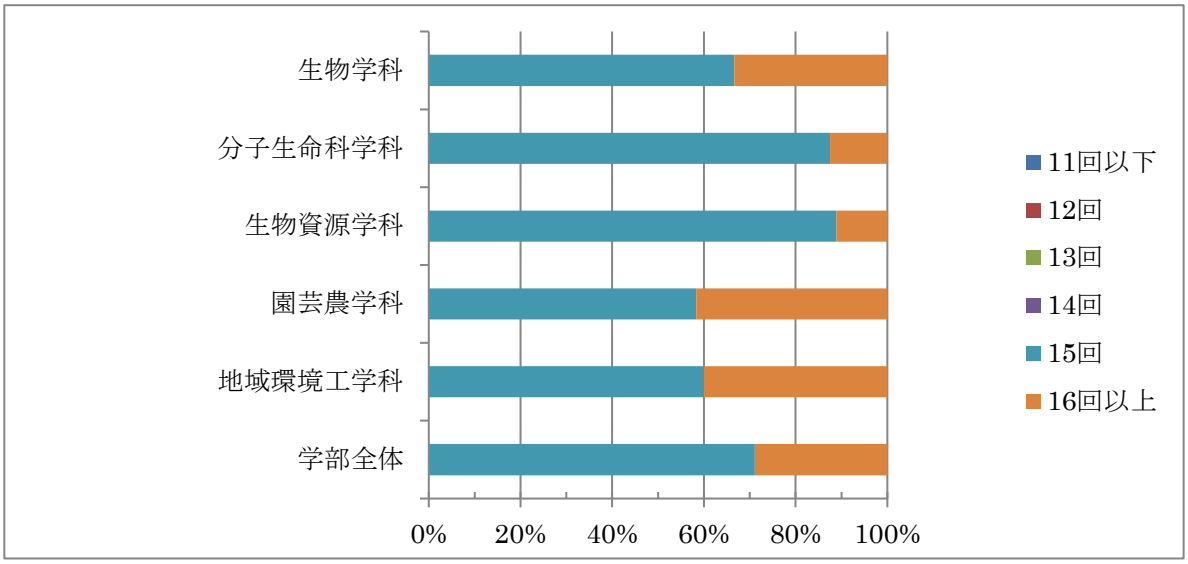


図 Ⅲ-2-2(1). 授業予定回数

学部全体回答数は 45 である。全体ではすべての回答が 15 回以上としており, 16 回以上が, 昨年度 25%から 28.9%へ増加した(一昨年度は 15%)。学科では, 16 回以上が, 園芸農学科で 42%, 地域環境工学科で 40%と昨年度に比べ 3~7%増加した。

(2) 授業実施回数(集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。)

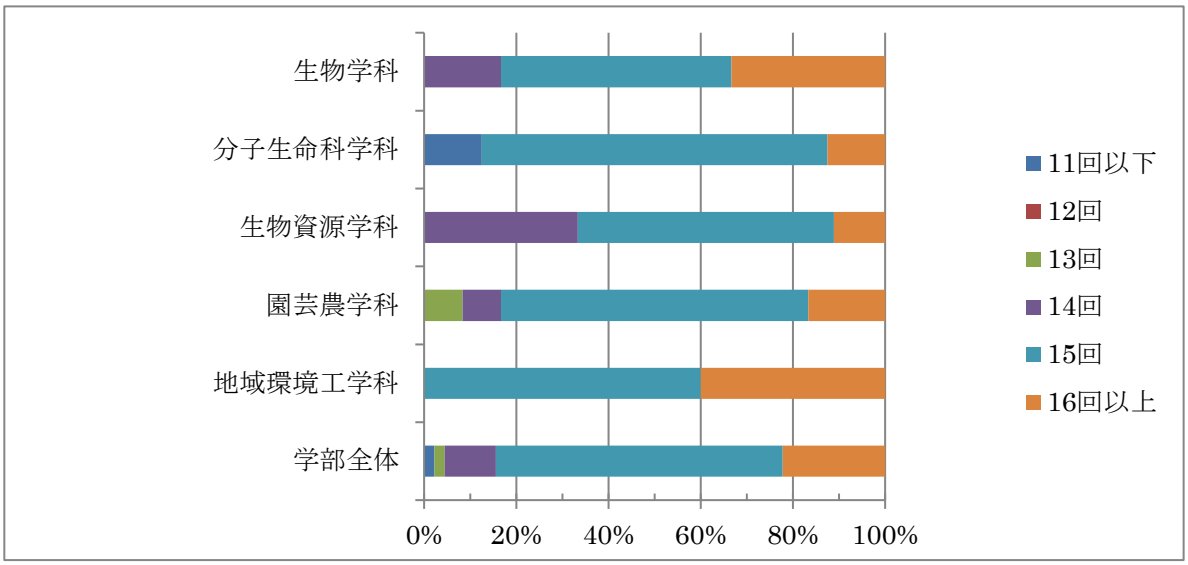


図 Ⅲ-2-2(2)．授業実施回数

学部全体回答数 45 で，実施回数 15 回以上が，昨年度と同じ 85%であった(一昨年度:75%)。また，16 回以上実施との回答は，前年度 20%であったのが 22%(一昨年度：10%)になった。一方で，14 回以下との回答は 11%と昨年度の 16%より減少した(一昨年度 10%)。学科別で見ると，地域環境工学科では全て 15 回以上実施となっている。分子生命科学科で 11 回以下が 1 名あった。14 回以下との回答は，生物学科で 16.7% (前年度と同じ)、生物資源学科 33.3%(前年より 1 名増) となっている。

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

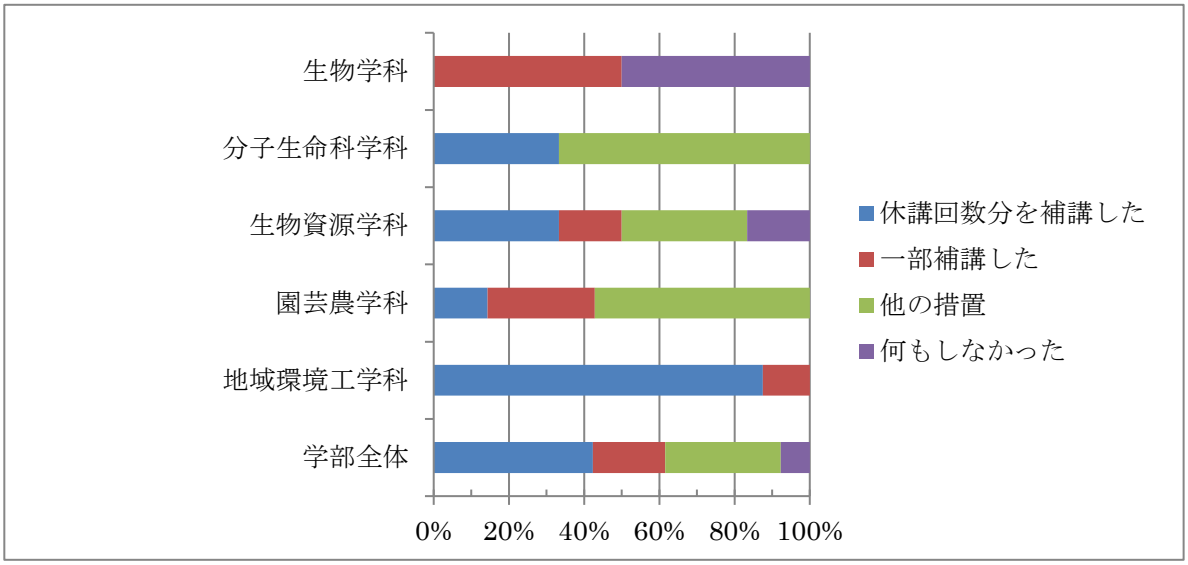


図 Ⅲ-2-3. 休講の代償措置

学部全体の回答数は 26 である。休講回数分の補講措置が取られたのは，学部全体で 61.5%であった。これは，昨年度の 45%から 17 ポイントの増加となっている(一昨年度：65%)。 一方，「一部補講した」・「他の措置」も併せなんらかの措置を取ったとの回答は 92.3%で昨年度の 80%から 12%増加している(一昨年度:92%)。学科別では，地域環境工学科は「休講回数分補講した」が

87.5%と最も多かった。一方，「何もしなかった」が，回答数は 2 名と昨年度の 6 名から 1/3 になったが，生物学科で 1 人，生物資源学科で 1 人いた。

講じた代替措置については以下の記述があった。

・レポート（生物資源学科 1 件、園芸農学科 2 件）
・休講はしていない（分子生命科学科 1 件）
・課題を出して，それに対するレポートを提出させた（分子生命科学科 1 件，生物資源学科 1 件，園芸農学科 1 件）
・毎回，自習課題を課した（園芸農学科 1 件）

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

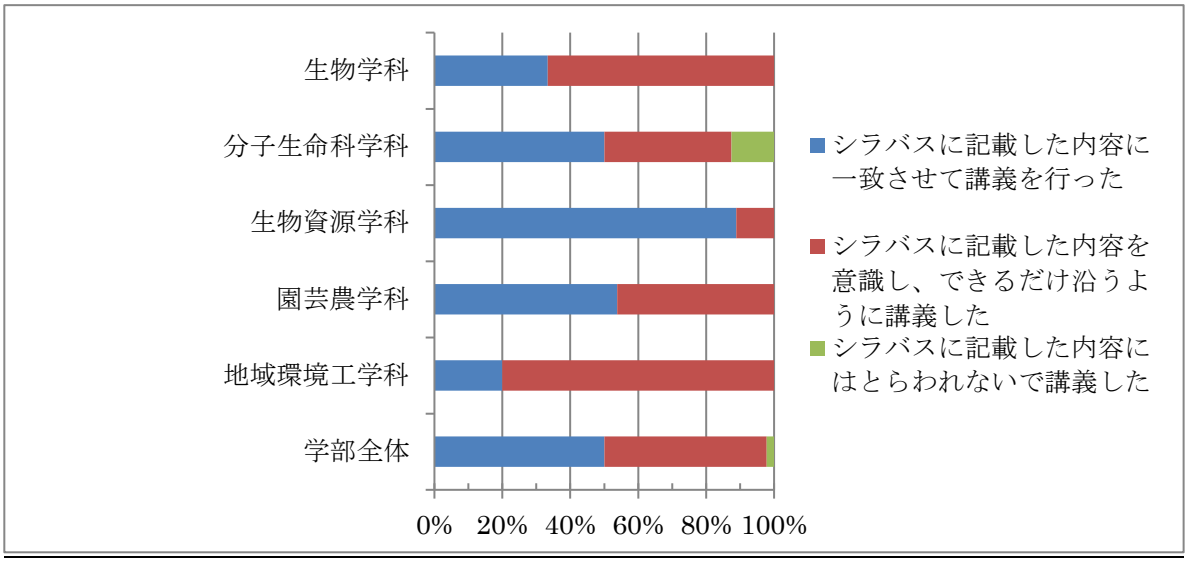


図 Ⅲ-2-4. シラバスと実際の授業の一致度

全体回答数は 45 である。学部全体で，「シラバスに一致させた講義を行った」が，昨年度の 42%から 51%にやや増加（一昨年度：48%），「できるだけ沿うように講義した」が，前年度の 58%から 49%にやや減少した（一昨年度：52%）。これらから，基本的にシラバスを重視して授業が行われていると言える。学科別では，「シラバスに一致させた講義を行った」は，ここ数年と同様、生物資源学科で 89%と高くなっている。

(2) 上記で，「3. 内容にはとらわれないで講義した。」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

以下の回答があった。

・教育的な面をより重視した（分子生命科学科 1 件）

設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

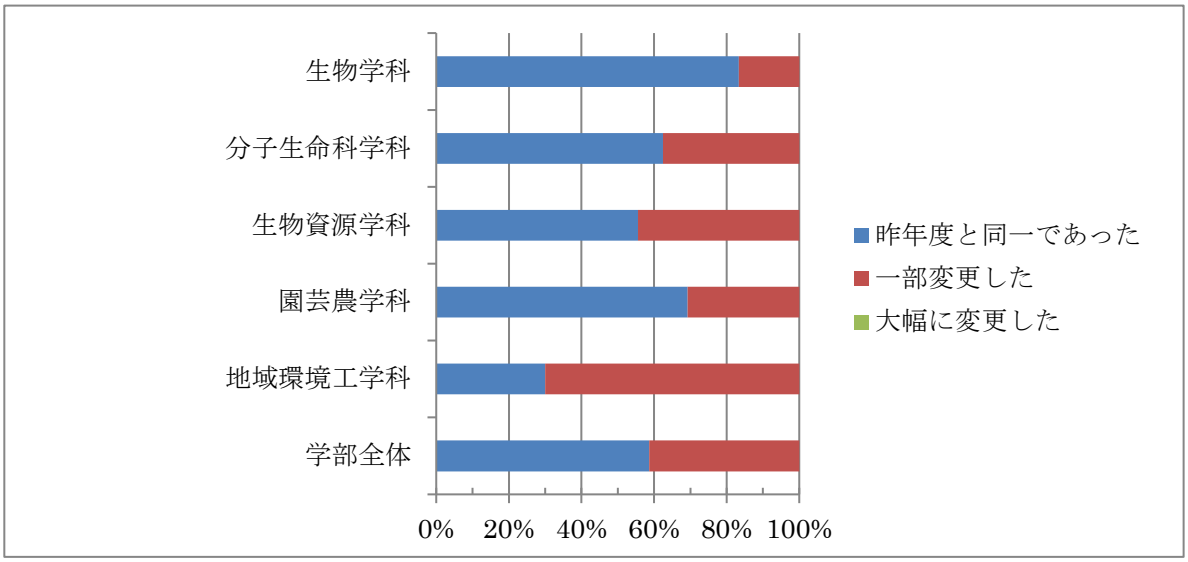


図 Ⅲ-2-5(1)．昨年度のシラバスとの比較

全体回答数は 46 である。学部全体では，「昨年度と同一」が 59%で昨年度と同じ(一昨年度:60%)。「大幅に変更」は，昨年度同様 0%であった。学科別では，生物学科・園芸農学科で「昨年度と同一」が大きく増加した。シラバス内容は大幅な変更はなされずに授業が行われていると言える。

(2) 上記で，「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

[生物学科]

・講義内容の削除と追加
・日々改善しているため
・新しい技術等が発見されていることに対応し改善した
・よりよい授業を心掛けた
・毎年，前年度の反省を踏まえ，内容を点検しているため
・より良い教育のため

昨年度の学生が，つまずきやすかった箇所に時間を割くようにした

[分子生命科学科]

・改善した
・新しい知見，課題を取り入れるため
・前半と後半で，計 2 回試験を行うようにした。よりきめ細かく学生の理解度を測るため

[生物資源学科]

・毎年少しずつ替えているから
・研究の進展に合わせた改訂
・内容を少し改善した

[園芸農学科]

・内容更新
・改善のため。情報のアップデート

［地域環境工学科］
・講義内容の削除と追加
・日々改善しているため
・新しい技術等が発見されていることに対応し改善した
・よりよい授業を心掛けた
・毎年，前年度の反省を踏まえ，内容を点検しているため
・より良い教育のため
・昨年度の学生が，つまずきやすかった箇所に時間を割くようにした

22 件の記述があり，シラバスの一部変更のケースではあるが，新たな知見や研究動向の取り入れ，学生の理解状況などからの改善，などが積極的に行われていると言える。

(3) 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

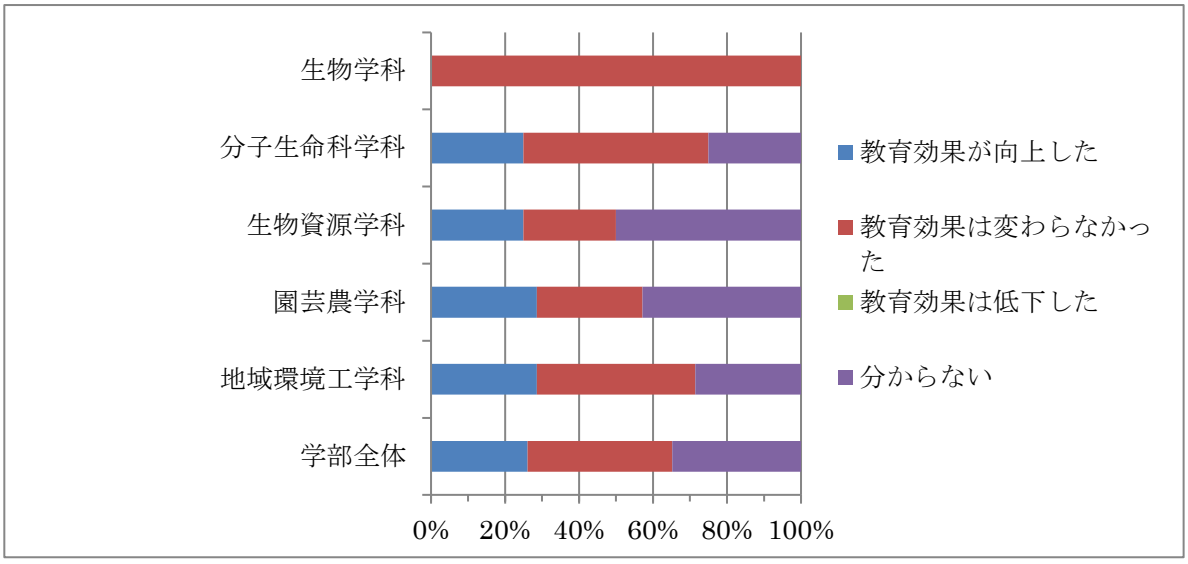


図 Ⅲ-2-5(3)．シラバス変更の効果

全回答数は 23 である。学部全体では，教育効果は「変わらなかった」、「分からない」を合わせて前年度の 84%から 74%へとやや減少した（一昨年度：90%）が，「教育効果が向上した」に比べ回答割合は大きい。学科別では，生物学科を除く各学科で 1 名または 2 名が教育効果が向上したと指摘した。この具体的内容については(4)で述べる。総じて，シラバス変更の教育効果への影響は明瞭でない場合が多いようである。

(4) 上記の設問３で「１．教育効果が向上した」と回答した方は，その具体的な事例を教えてください。

［分子生命科学科］
・学生が苦手とする分野がよく分かった
［生物資源学科］
・例示する題材により理解度が向上
［園芸農学科］

・講義の全体計画が，どの様に組み立てられ，進行中の講義内容が，どの位置づけに相当するのか判断できる

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

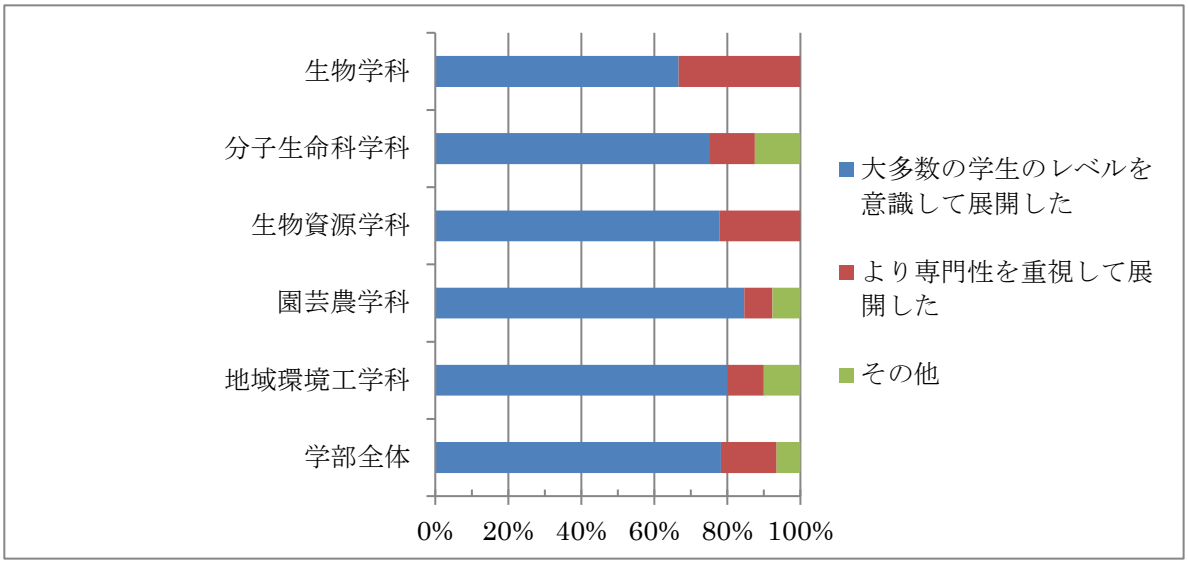


図 Ⅲ-2-6. 講義展開の考え方

全回答数は 46 である。学部全体では，78.2%が学生のレベルを意識した講義を行っており，昨年度 84%より若干低下したものの割合は大きい(一昨年度：84%)。学科別では，生物学科・生物資源学科では「専門性をより重視した講義」が，昨年度それぞれ 20%，18%から 33%，22%に増加した。

「その他」の回答

[分子生命科学科]

・できの悪い学生を意識している

[園芸農学科]

・ていねいに説明し，納得してもらう

・講義の内容を充実させる

[地域環境工学科]

・レベルと専門性のバランスを取って展開

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. **視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用**
2. **画像データ（OHP，スライドプロジェクター，プレゼンテーションソフトなど）の提示**
3. **授業の合間に質疑や討論の時間を設けた**
4. **小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた**
5. **宿題（レポートを含む）を課した**
6. **その他（　　）**

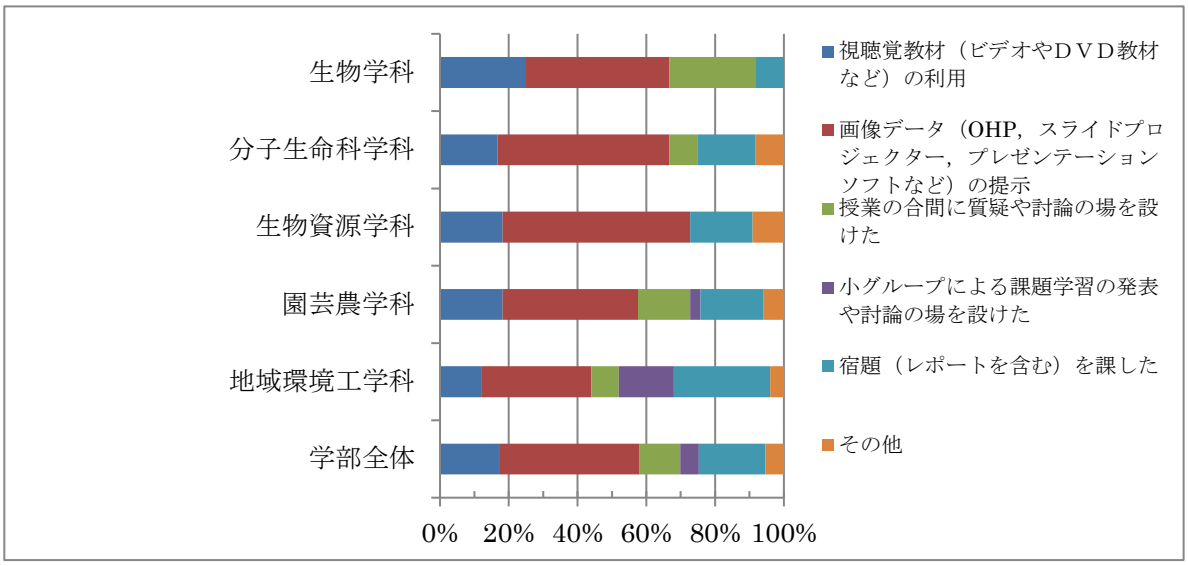


図 Ⅲ-2-7. 授業の工夫

回答は学部全体で 93 件に上った。全体では，「画像データの呈示」が最も多く昨年度同様の 40%あった(一昨年度：60%)。これと「視聴覚機材の利用」と併せ 58%（前年度：50%）に及び，これらが一般的に使われていることを示す。一方，「小グループによる課題学習の発表や討論の場を設ける」，「宿題を課す」が 24.7%(23 件）となって，昨年度（22.5%）以降多い状態が続いている。これは科目の単位取得が，授業受講だけでなく自己学習を含めたものであることから，授業外の学習を重視した取り組みが行われていることを表している。

「その他」の回答

[分子生命科学科]

・講義内容を減らす

[生物資源学科]

・練習問題の配布

[園芸農学科]

・小テスト

・実物を見せたり回覧したりした

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

[生物学科]

・学生が理解するまで説明した

・答案は個別に採点理由を説明したうえで，返却している

・答案を全員に返却し，採点基準等を説明している

・疑義を持つ学生は聞いていない

・評価方法を講義の初回と最終回に説明すると同時に，テスト，レポートの採点結果を速やかに返却する

・相談に応じる。採点基準を示す

・試験や課題の返却・解説

・必要に応じ説明している

［分子生命科学科］
・疑義を持たれたことはありません。解答用紙を返却しているからかもしれません
・成績や評価といった低い次元のことを考えるのはやめ，学問をすることを勧める
・希望があればテスト（答案）を返却している
・資料を示して説明している
・事前に評価基準，採点方法について説明しておく
・学生が納得するまで説明する

［生物資源学科］
・常に質問に応じている
・期末試験終了後，答案返却と解答例の掲示と約 1 週間疑義照会を受け付けている
・できるだけ多面的に評価できるようにしている
・テスト内容の開示と全体のデータ開示
・テストの採点結果を見せて説明している
・詳しく採点や評価法を説明する

［園芸農学科］
・採点基準の公開
・疑義を持つ学生はいなかった
・個人的にも相談を受けた経験がない。個人レベルで解決できない相談が，もしあったとしたら，学部の申立制度を説明し，手続きするように勧める
・できるだけ誠実に対応する
・成績評価基準は，シラバスに記載し，その通りやっている。例年，どの程度の学生が「不可」になるか，口頭で言っている

［地域環境工学科］
・学生が理解するまで説明した
・答案は個別に採点理由を説明したうえで，返却している
・答案を全員に返却し，採点基準等を説明している
・疑義を持つ学生は聞いていない
・評価方法を講義の初回と最終回に説明すると同時に，テスト，レポートの採点結果を速やかに返却する
・相談に応じる。採点基準を示す
・試験や課題の返却・解説
・必要に応じ説明している

昨年度同様，成績評価に疑義を持つ学生に対して評価基準を説明・開示したり，理解するまで説明する，等の対応が非常に多い。さらに，答案の返却が行われるなど，さまざまな取組がなさ

れており，多くの教員は学生の疑義に対し積極的に対応している。

設問 9.　教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

意見なし

設問 10.　このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

[園芸農学科]

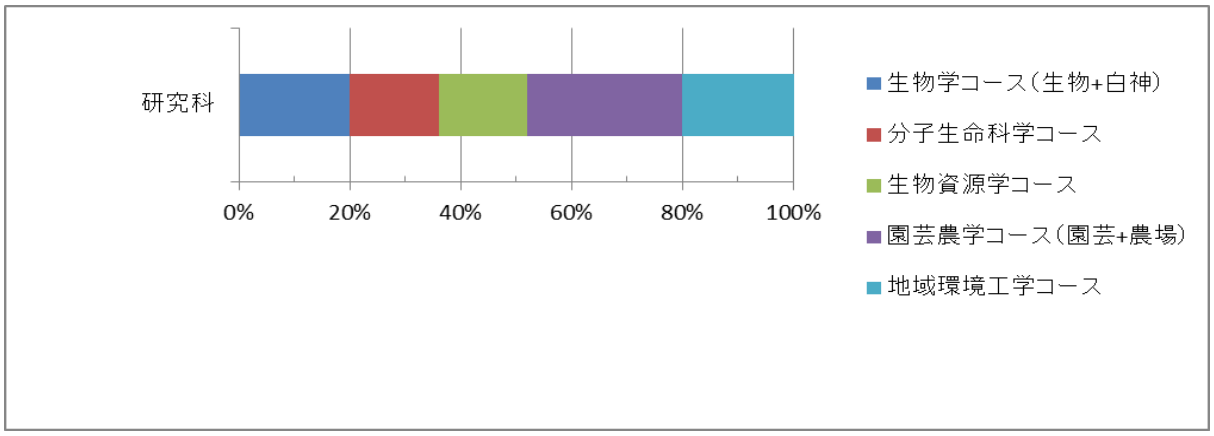
・教育効果は，自己満足であってはいけないと思う反面，その効果をどう評価するか？学生アンケートの内容で充分なのか

３．研究科授業に関する調査結果

設問 1.　あなたが所属する学科等を選択して下さい。

表 Ⅲ-3-1. 回答数

所属	回答者数
生物学科	10
分子生命科学科	8
生物資源学科	8
園芸農学科	14
地域環境工学科	10
研究科全体	50



図Ⅲ-3-1. コース別回答割合

集計では，生物共生教育研究センターは園芸農学コースに，白神自然環境研究所は生物学コースに含んでいる。

研究科全体での回答割合は 68.5%で昨年度(65.8%)・一昨年度(69.8%)とほぼ同様である。

設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

(1) 予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

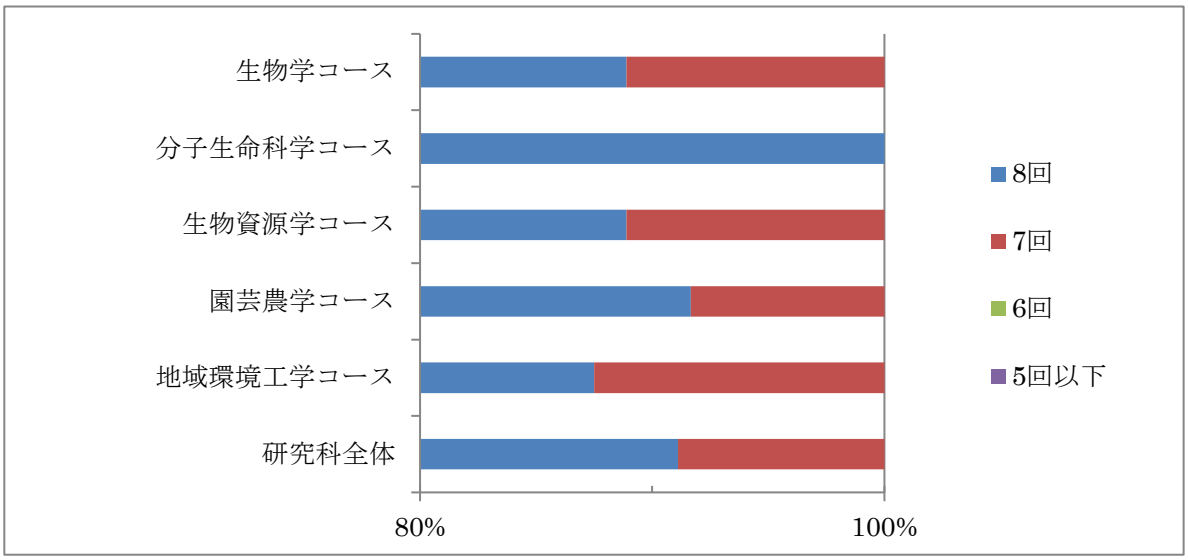


図 Ⅲ-3-2(1)．授業予定回数

全体回答数は 45 である。研究科全体で 授業予定回数は，8 回が 91%，7 回が 9%でほとんどが所定講義数を満たしている。なお，前年度と回答選択肢が異なるため年度間の比較はしていない。分子生命科学科では，回答者全員が 8 回としている。

(2) 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

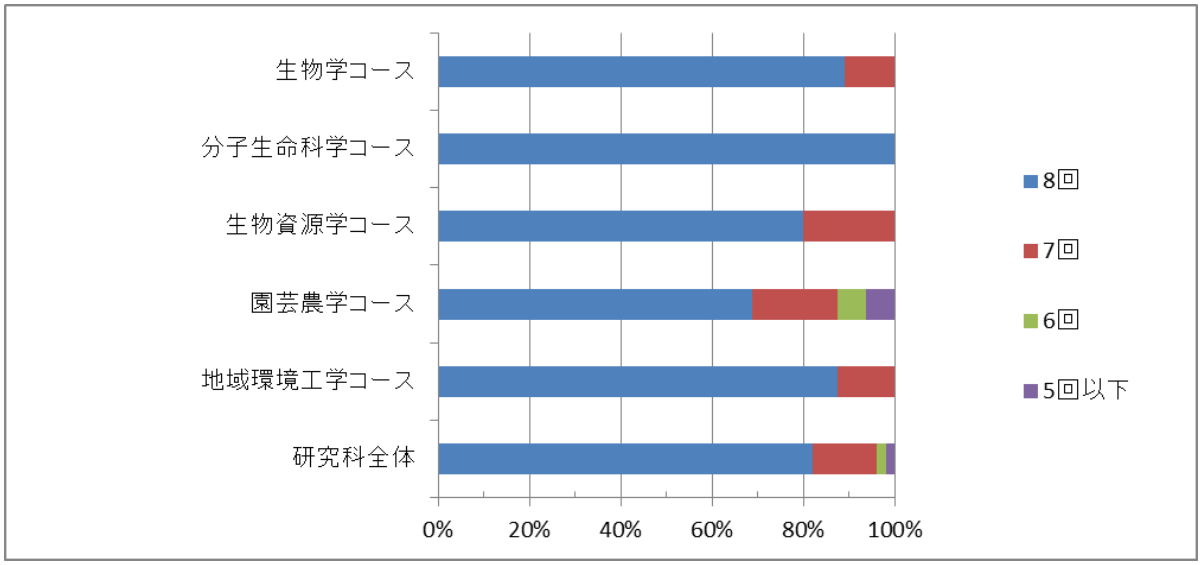


図 Ⅲ-3-2(2)．授業実施回数

全体回答数は 45 であった。研究科全体では 82%が 8 回講義をしている。分子生命科学コースでは回答者全員が 8 回実施している。なお，(1)と同様の理由で年度比較はしていない。園芸農学コースで 7 回以下が 33%(5 人)おり，6 回以下・5 回以下が各 1 名いる。

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

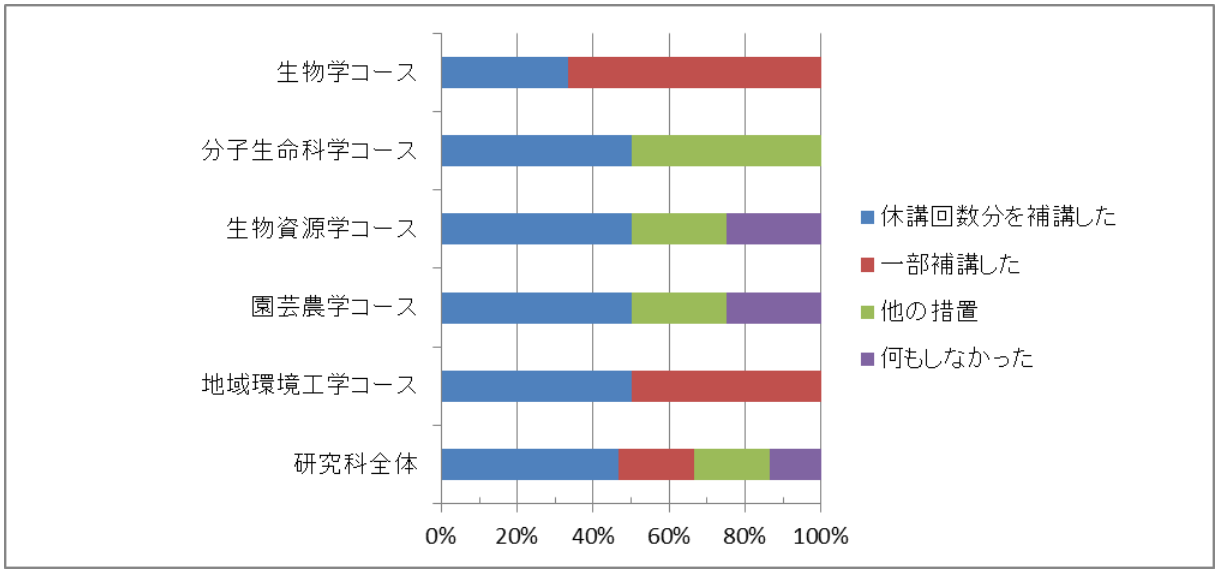


図 Ⅲ-3-3. 休講の代償措置

全回答数は 15 である（この数は昨年度の 1/3 である）。研究科全体では，一部補講も含め「補講した」が 67%で，昨年度(60%)と比較してやや上昇した(一昨年度：65%)。また，「何もしなかった」が研究科全体で 12%あるが，昨年度(20%)，一昨年度(20%) に比べ 8 ポイント減っている。コース別では，生物資源学コース・園芸農学コースで「何もしなかった」が各 1 名あった。

「他の措置」については，以下のようであった。

分子生命科学コース

・休講しなかった

生物資源学コース

・課題を提出させた

園芸農学コース

・課題を課した

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

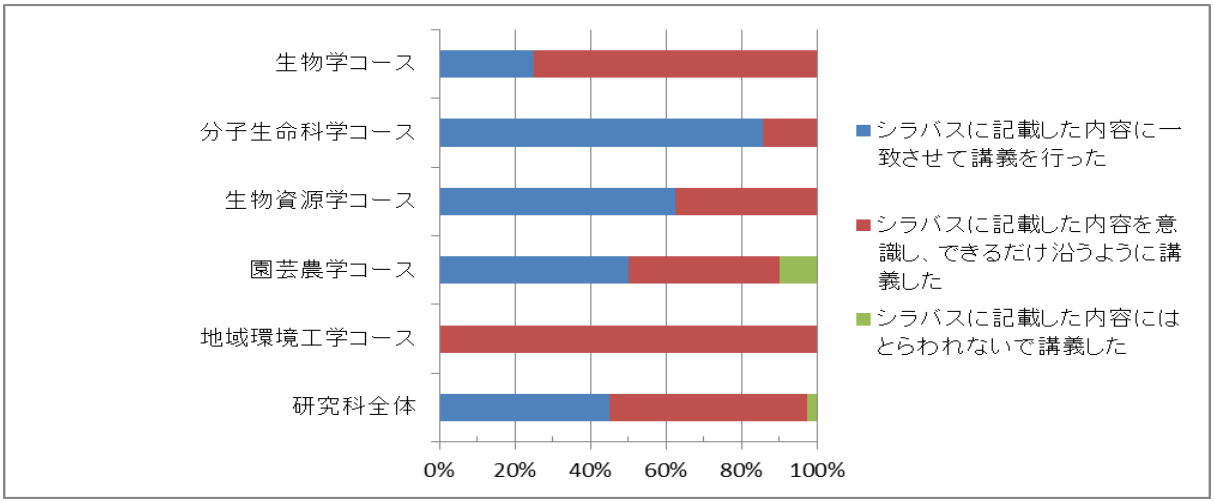


図 Ⅲ-3-4. シラバスと実際の授業内容との一致度合

全回答数は 40 である。研究科全体では，「シラバスと一致」，「できるだけ一致」と合わせると 98%で，昨年度（98%）と同じでほとんどを占める(一昨年度：83%)。大学院でもほぼシラバスに沿った講義が行われていることが分かる。園芸農学コースでは，シラバスに捉われない内容での講義が 1 件あった。理由は(2)に記載している。

(2) 上記で，「3. 内容にとらわれないで講義した」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

［園芸農学コース］

・あまりにも受講学生の専門が多様であったため

設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は前年度と同一でしたか。

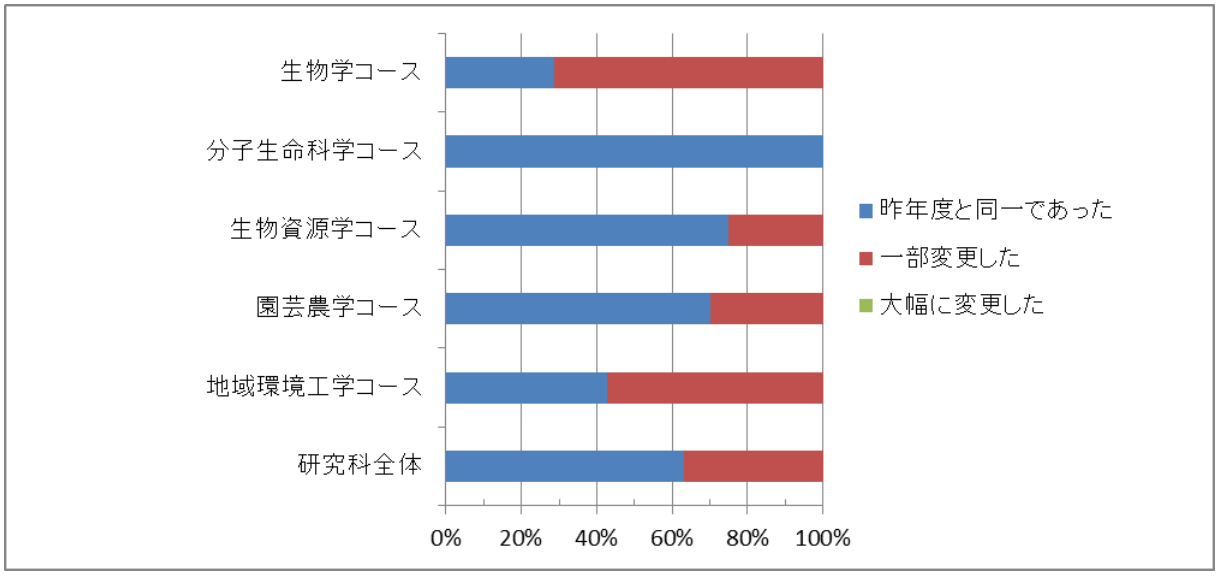


図 Ⅲ-3-5(1). 前年度のシラバスとの比較

全体回答数は 38 である。研究科全体で，「昨年度と同一」と「一部変更」がそれぞれ 63%，37%であり（昨年度：95%，一昨年度：96%)、「大幅に変更」は無かった。シラバスを大きく変更しない状況で推移している。

(1)② 上記で，「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

［生物資源学コース］

・毎年，受講生に合わせて少しずつ替えているため

［園芸農学コース］

・内容更新

［地域環境工学コース］

・学生の興味を考えて一部追加した

・学生の専門を考慮した
・学生課題（レポート）を変えたので，一部の講義を変更した

(1)③ 上記の場合で、シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した
4. 分からない

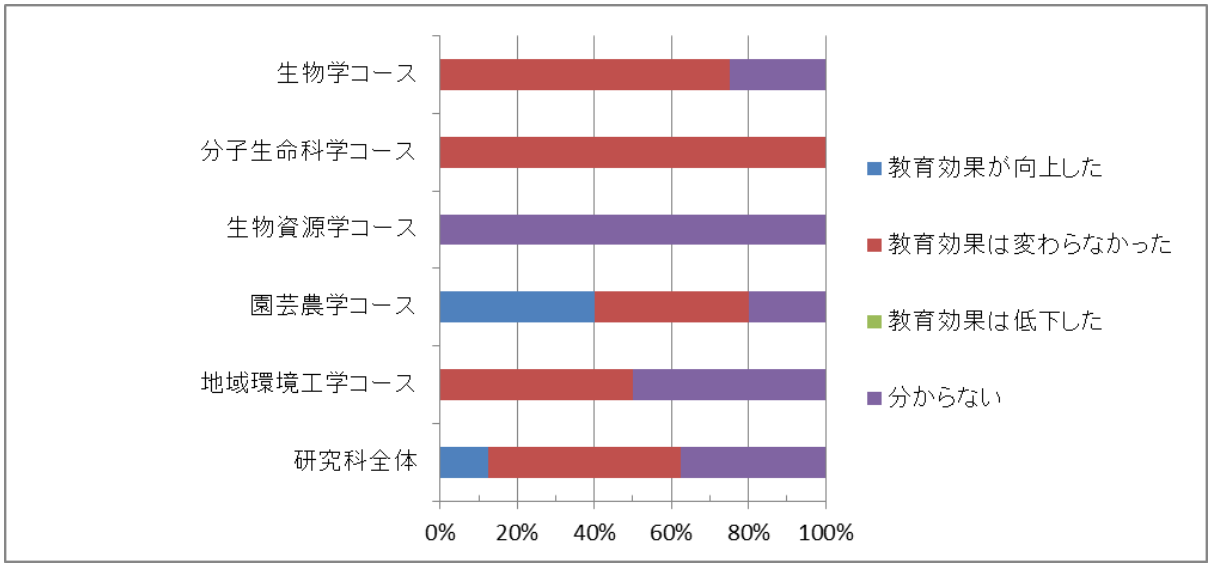


図 Ⅲ-3-5(2)．シラバス変更の教育効果

全回答数は 16 である。研究科全体で，「教育効果が向上した」と回答した件数(率)は 2 件(12.5%)のみであった（昨年度：6%，一昨年度：79%)。「教育効果は変わらなかった」が 50%を占めるが，①でシラバスが昨年度と同一の選択が多かったので当然とも言える。「分からない」が 6 件あったことは，変更が直ちに教育効果の改善に寄与したとは判断できないためもあろう。

設問 6. 大学院の講義は平成 24 年度から、それ以前の前後期制に代わりクォーター制で実施されています。

① 3 年を経過して、クォーター制による講義は、教育効果にどうような影響を与えたとお考えですか？

1. 教育効果が向上した 2. 教育効果は変わらなかった 3. 教育効果は低下した
4. 分からない

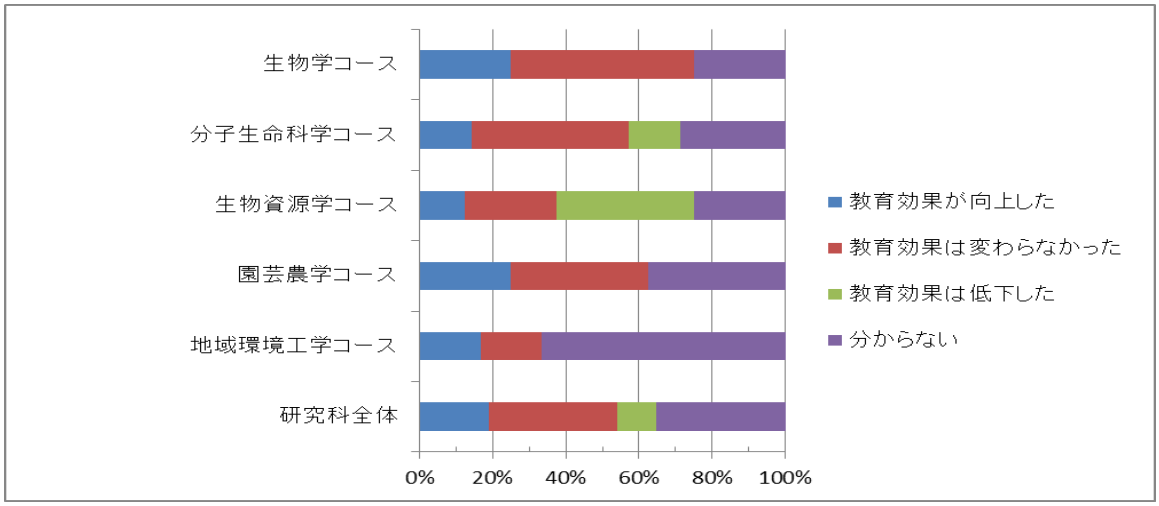


図 Ⅲ-3-6. クォーター制による教育効果

全回答数は 37 である。研究科全体で，クオーター制に対し「それ以前に比べ教育効果が向上」との指摘は 19%と昨年度(10%)よりやや向上した(一昨年度：25%)。逆に「低下した」が 11%と昨年度(20%)から半減している(一昨年度：6%)。分子生命科学・生物資源学各コースで「低下した」との回答が各 3 件，1 件あった。また、研究科全体で「分からない」が 35%で，昨年度の 54%よりは減っているものの割合は多い。これは、以前と講義内容構成が変わるなど効果の比較が難しいためと推定される。

②にも指摘あるように、集中的な講義、多様な科目が開講される利点、短期間細切れで専門性が不十分となる欠点など両面が挙げられる。

② 上記の設問で「１」あるいは「３」と回答した方は、そう判断した理由を教えて下さい。

[生物学コース]

・コマ数が多くなり，多様な科目を選択することができるようになった

・内容の濃い授業となった

[生物資源学コース]

・今までⅠとⅡを通して，体系的に教えていた内容が，ⅠとⅡにわかれ，それに伴い受講生も大巾に入れ替わるため，ⅠとⅡを別の内容で実施しなければならなくなった。その分，教育効果が低下していると考えている

・大学院生こそ，長い期間をかけて専門の授業を行うべきなのに，さらに短くして授業を行えば教育効果が低下するのは当然である

・集中して講義を受けているように思う

[園芸農学コース]

・学生の選択肢が増え，学習意欲が高いままに講義が終了する。中だるみがないので，それも良点ではないか

[地域環境工学コース]

・集中して講義したことにより，知識の定着が改善された

・2 単位制の時の講義内容を 2 つに分けた結果，1 単位分のみの受講がほとんどとなり，理解の程度が低下した

8 件の回答のうち，5 件で効果があったとし，3 件は低下したとの記述である。講義の選択

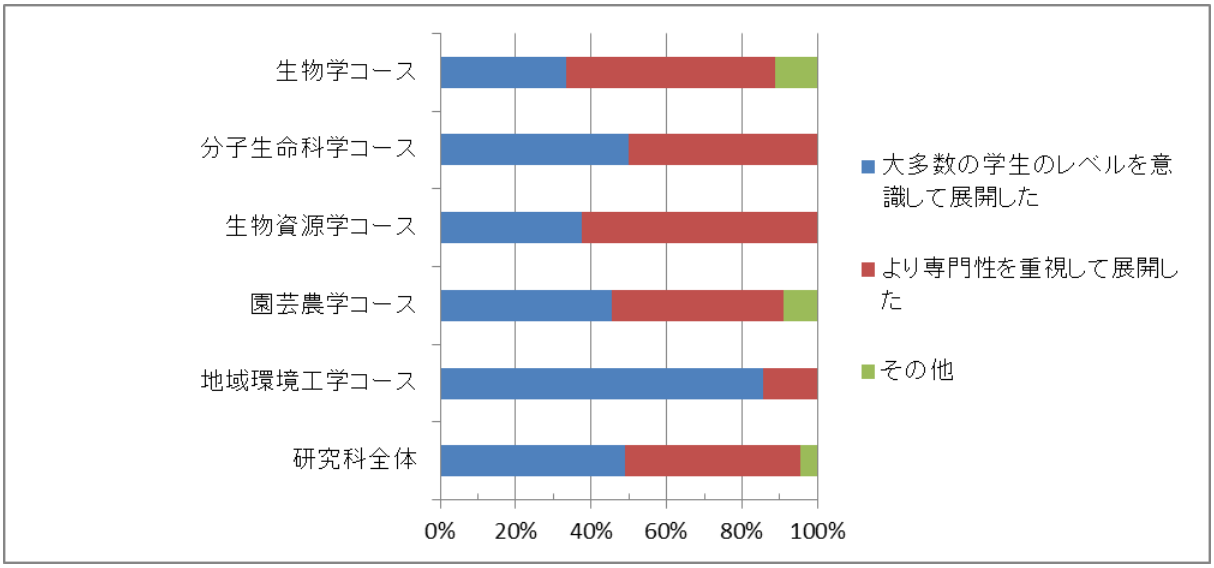
肢が増えたことや，期間が短く集中した講義にできたことが肯定的理由である。一方，時間をかけ体系的に講義できなくなったことでの理解低下が懸念材料として挙げれらている。

設問 7．大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

1．大多数の学生のレベルを意識して展開した

2．より専門性を重視して展開した

3．その他（　　）



図Ⅲ-3-7．講義についての考え方

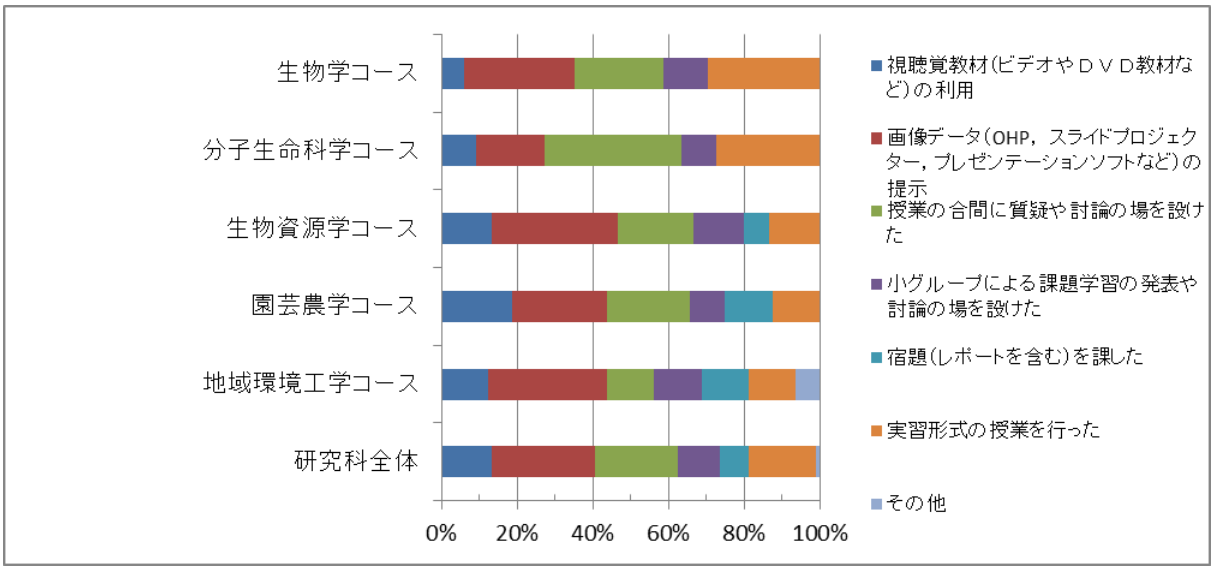
全回答数は 43 である。研究科全体では，「学生のレベルを重視」とした回答が 49%，「専門性重視」が 47%であり，昨年度の各回答（56%，42%）よりやや専門性重視が増えた。しかし，過去 3 年間で両者は概ね同程度と言える範囲にある（一昨年度：50%，40%）。

「その他」とした回答

[園芸農学コース]

・履修生の専門あるいは，意向・希望も考慮した

設問 8．学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。



図Ⅲ-3-8．授業の工夫

全体回答数は 91 件である。研究科全体で，「画像データ活用」・「視聴覚機材の利用」が計約 41%を占め，学部授業と同様である。「授業の合間に質疑・討論の場を設けた」，「小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた」，「実習形式の授業を行った」など学生の能動的学習としたケースが 51%に上り，昨年度の 40%よりさらに増加した(前々年度：29%)。コース別では，分子生命科学コースでこのような取り組みが 73%と最も多いが，全体的に約 5 割が実施している。

「その他」とした回答
[地域環境工学コース]
・現地研修（見学）

設問 9．成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

[生物学コース]
・今までにとくに無い（4 件)。
[分子生命科学コース]
・無し（2 件)。
・希望があればテスト（答案）を返却する
・事前に評価基準を説明する
・学生が納得するまで説明する
[生物資源学コース]
・できるだけ多面的（レポートと試験）に評価するように心がけている
・なぜ，そのような成績になったのかを説明する
・詳しく採点，評価法を説明する
[地域環境工学コース]
・学生が理解するまで説明する予定である

・レポート等を返却し，採点基準を説明している
・今までなし。もしあれば，相談する（話し合いに応じる）
・レポート返却，解説

全体で１６件の記述があり。「疑義を持つ事例無し」が 7 件と多い。また，「学生に説明する」が 6 件，「レポート等を返却する」が 3 件あった。

設問 10. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

回答なし

設問 11. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

回答なし

Ⅳ　教員対象教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため学部教育に関する教員の意識について調査することを目的とした。

調査方法：アンケート用紙を各教員に配布して調査を行った。学生に対するアンケートの設問と共通項目を設けた。

調査対象：平成 29 年 3 月の時点で学部・遺伝子実験施設，生物共生教育研究センターおよび白神自然環境研究所に所属する教員とした。

調査期間：平成 29 年 2 月 8 日～2 月 22 日

調査対象教員数：66 名(学部)，66 名(研究科)，　有効回答者数：49 名(学部)，48 名(研究科)

調査項目：設問は以下の通りである。

設問 1．あなたの所属学科およびコースをお答えください。

設問 2．本学部および本研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する学科・コースの教育目標を知っていますか。

設問 4．本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

設問 5．あなたが所属する学科・コースの教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）およびコースのカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

設問 6．あなたはシラバス作成時に,学科・コースの教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

設問 7．(1) 授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。

1．シラバスと授業内容が異なることは極力避けるべきである

2．より良い授業内容を提供するためには、ある程度異なっても構わない

3．担当科目の性格から、異なることは避けられない

4．その他（　　）

(2) 何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合、あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。

1．異なる理由を受講生に説明する必要がある 2．受講生に説明する必要はない

3．その他（　　）

(3)上記の設問で「2.」と回答した理由を教えて下さい。

設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

(1) 学生による授業評価の妥当性についてどのようにお考えですか。

1．かなり妥当な授業評価である　2．ほぼ妥当な授業評価である　3．どちらとも言えない　4．やや妥当でない授業評価である　5．まったく妥当でない授業評価である

設問 9．本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。

(1)この１年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい（参加されなかった場合は０を記入して下さい)。

(2)参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。

設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。

設問 11. (1)本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2)上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

設問 12. (1) 卒業研究は必要であると思いますか。

(2)上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

設問 13. (1) あなたの学科の大多数の卒業生は，本学部での教育により大学卒業生に相応の知識と学力を身に付けたと思いますか。

(2)上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

設問 14. (1) あなたのコースの大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専 門知識を身に付けたと思いますか。

(2) 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

２．調査結果

設問 1. あなたの所属学科およびコースをお答えください。

表Ⅳ-１(１). 回答率

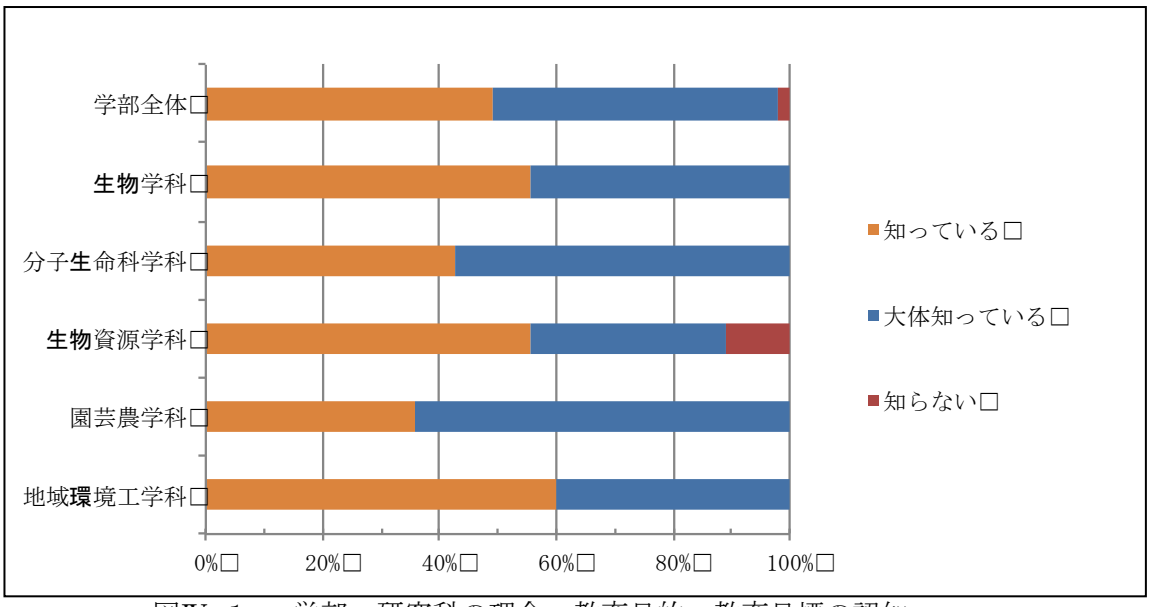
学科	教員数	回答数	回答率	H26 回答率
生物学科	14	9	64%	57%
分子生命科学科	13	7	54%	64%
生物資源学科	11	9	82%	75%
園芸農学科	17	14	82%	68%
地域環境工学科	11	10	91%	100%
学部全体	66	49	74%	69%

3 か年（平成 25～27 年）の学部全体の回答率を見ると，71%→69%→74%と推移した。学科毎に見ると，「地域環境工学科」（100%→100%→100%），「生物資源学科」77%→75%→82%），「園芸農学科」（58%→68%→82%），「生物学科」（69%→57%→64%），「分子生命科学科」（50%→64%→54%）と推移している。なお，「生物共生教育研究センター」は「園芸農学科」に含めて集計している。

表Ⅳ-１（２）．　回答率

コース	教員数	回答数	回答率	H26 回答率
生物学コース	14	9	64%	41%
分子生命科学コース	13	7	54%	64%
生物資源学コース	11	9	82%	58%
園芸農学コース	17	13	77%	68%
地域環境工学コース	11	10	90%	91%
研究科全体	66	48	73%	69%

設問 2.　本学部および本研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

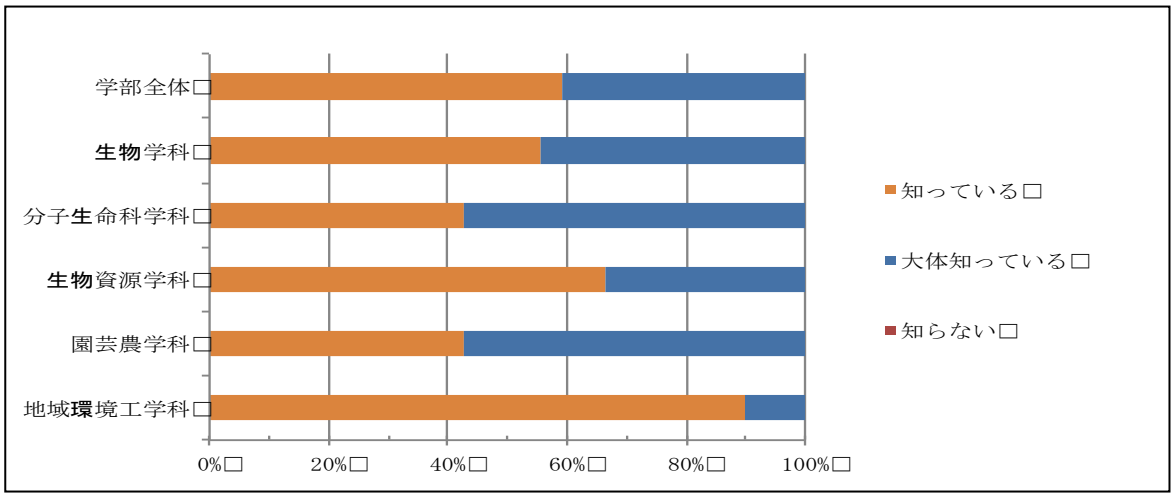


図Ⅳ-１．　学部・研究科の理念・教育目的・教育目標の認知

学部・研究科の理念・教育目的・教育目標の認知について，3 か年の推移を学部全体で見ると，「知っている」（45%→50%→49%），「大体知っている」（55%→50%→49%）と推移している。「知らない」は 2%である。回答した教員のほぼ全員が，学部と研究科の理念・教育目的・教育目標を概ね認知している。

3 か年の推移を学科別に見ると，「知っている」は「地域環境工学科」（73%→73%→60%），「生物資源学科」（50%→56%→56%），「生物学科」（22%→25%→56%），「分子生命科学科」（33%→33%→43%），「園芸農学科」（36%→54%→36%）となった。

設問 3. あなたが所属する学科・コースの教育目標を知っていますか。

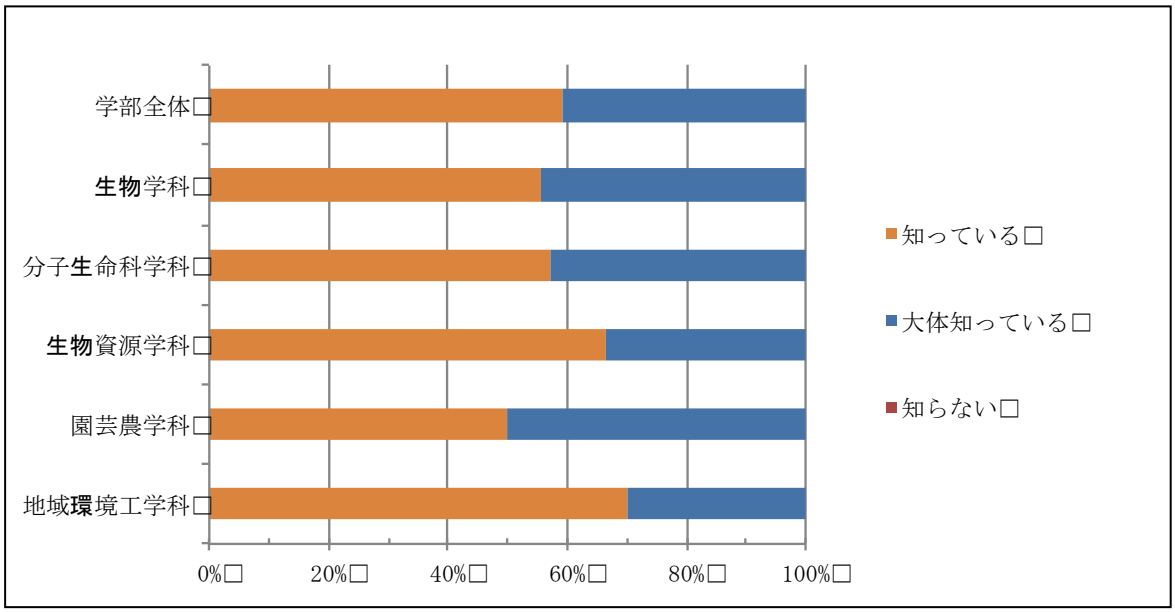


図Ⅳ-２． 所属学科・コースの教育目標の認知

所属学科・コースの教育目標の認知について，3 か年の推移を学部全体で見ると，「知っている」（58%→58%→59%），「大体知っている」（42%→42%→41%），「知らない（0%→0%→0%）と推移しており，全教員が概ね認知している。

学科別に「知っている」の 3 か年の推移を見ると，「地域環境工学科」（100%→91%→90%），「生物資源学科」（50%→56%→67%）「生物学科」（56%→38%→56%），「園芸農学科」（45%→62%→43%），「分子生命科学科」（29%→33%→43%）と推移している。特に「地域環境工学科」に「知っている」の割合が高い。

設問 4. 本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

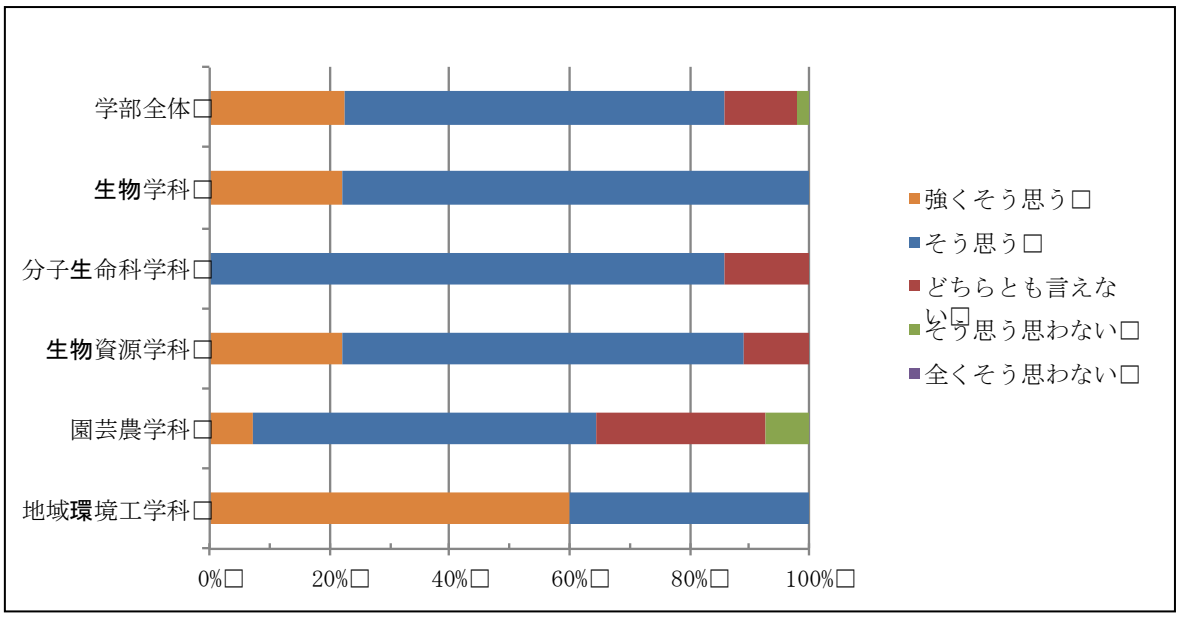


図Ⅳ-３． 入学者受け入れ方針の認知

アドミッションポリシーの認知について，3 か年の変化を学部全体で見ると，「知っている」（42%→50%→59%），「大体知っている」（54%→50%→41%），「知らない」（4%→0%→0%）と推移している。このように， 教員全員がアドミッションポリシーを概ね認知し，且つ，この認知度が年々高まっている。

「知っている」の比率を学科別に 3 か年で見ると，「地域環境工学科」（55%→64%→70%），「生物資源学科」（30%→56%→67%），「分子生命科学科」（29%→33%→57%），「生物学科」（33%→25%→56%），「園芸農学科」（55%→62%→50%）となる。

設問 5. あなたが所属する学科・コースの教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）およびコースのカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

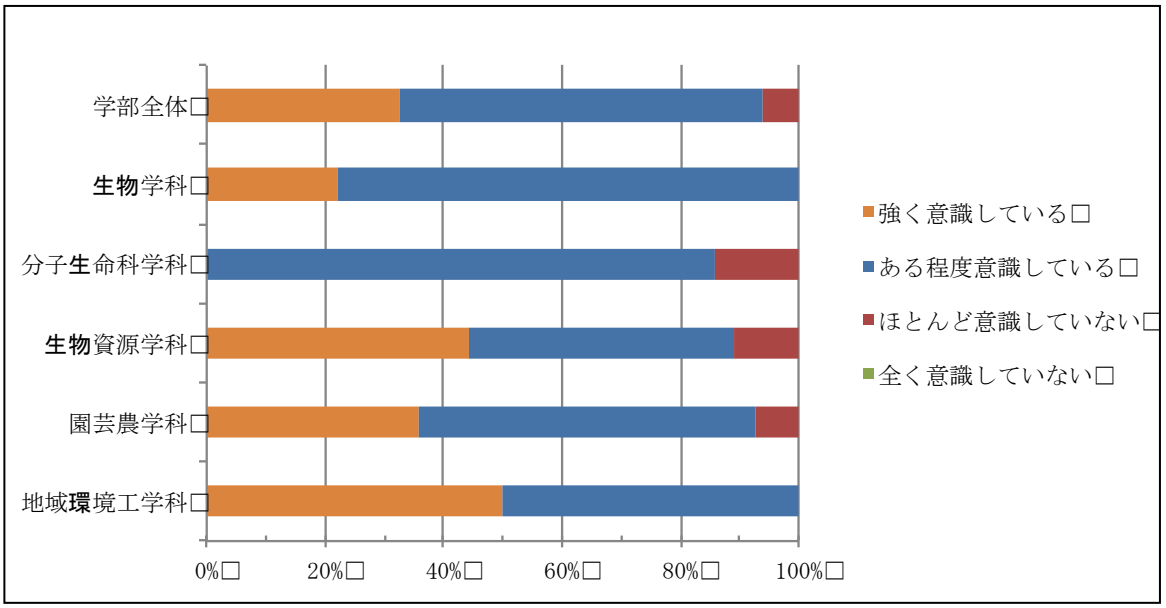


図Ⅳ-４． 所属学科・コースの教育目標とカリキュラムとの合致

学部全体では肯定的評価（「強くそう思う」と「そう思う」）を 3 か年で見ると，90%→88%→86%であり，ほとんどの教員が概ね合致すると考えている。

学科別の「肯定的評価」を 3 か年で見ると，「地域環境工学科」（100%→100%→100%），「生物学科」が（89%→100%→100%），「生物資源学科」（80%→67%→89%），「分子生命科学科」（86%→89%→86%），「園芸農学科」（91%→85%→64%）となっており，園芸農学科の肯定的評価は低く，且つ，年々低下している。

設問 6. あなたはシラバス作成時に，学科・コースの教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

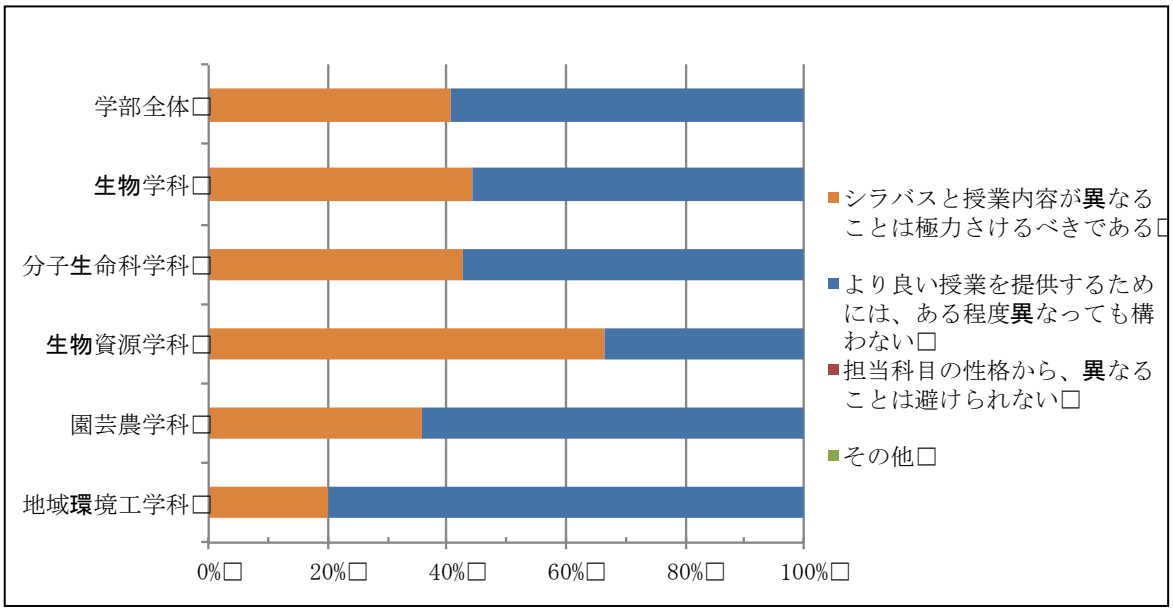


図Ⅳ-５．　教育目的・目標に従ったシラバスの作成

3 か年で見ると，学部全体で 「強く意識している」(23%→36%→33%)，「ある程度意識している」(71%→58%→61%)と推移した。「強く」と「ある程度」意識している教員が 3 か年とも 9 割を超えており，全体として「教育目的・目標に従ったシラバスの作成」が意識されている。また，「全く意識していない」は 3 か年とも 0%であった。

学科別に「強く意識している」と「ある程度意識している」の合計割合を 3 か年で見ても，「生物学科」と「地域環境工学科」が 100%→100%→100%，「園芸農学科」が 100%→92%→93%，「生物資源学科」80%→89%→89%、「分子生命科学科」86%→89%→86%であり各学科で教育目的・目標にしたがったシラバスの作成が意識されている。

設問 7. ①授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。



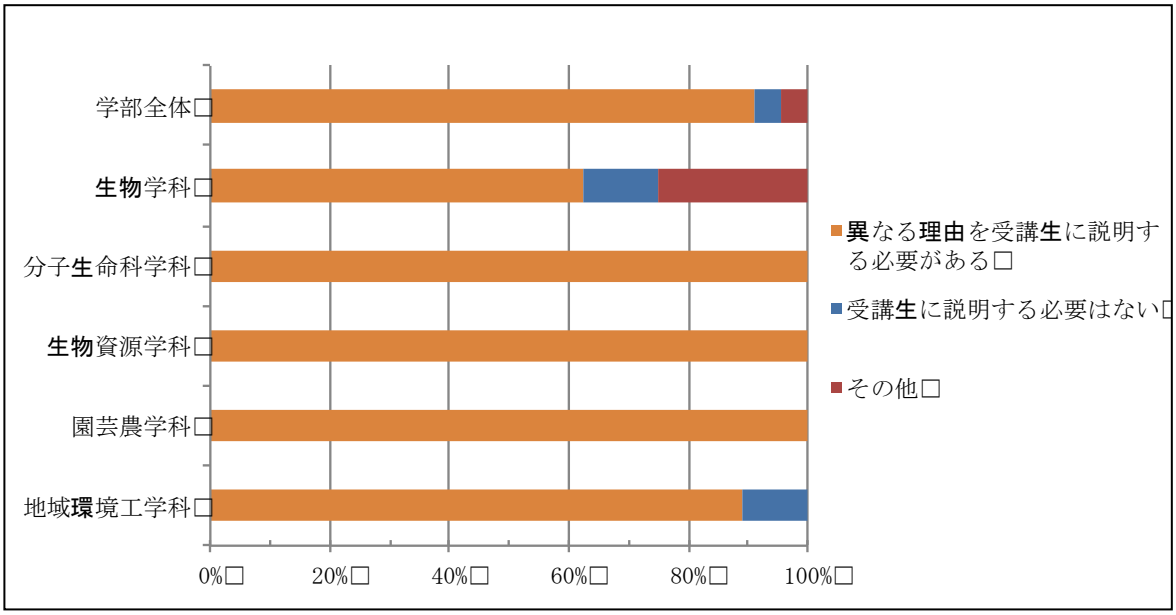
図Ⅳ-６（１）．　シラバスと実際の授業内容の不一致に対する見解

３か年で見ると，学部全体で，「極力さける」（48%→44%→41%），「ある程度異なってもかまわない」（50%→56%→59%），「異なることは避けられない」（0%→0%→0%）と推移している。このように教員の意見は，「極力さける」と「ある程度異なっても構わない」に分かれている。

学科別の３か年の推移は以下の通りである。「生物資源学科」では「極力さける」100%→100%→67%，「ある程度異なっても構わない」0%→0%→33%，「生物学科」では「極力さける」22%→13%→44%，「ある程度異なってもかまわない」76%→88%→56%，「分子生命科学科」では「極力さける 57%→56%→43%，「ある程度異なってもかまわない」43%→44%→56%，「園芸農学科」では「極力さける」27%→38%→36%，「ある程度異なっても構わない」73%→62%→64%，「地域環境工学科」では「極力さける」36%→18%→20%，「ある程度異なっても構わない」64%→82%→80%となった。

シラバスは学生との約束事であり，教員が約束を違えることを極力さけようとするのは当然である。しかし，教育効果を上げるために変更が必要になることもある。どちらに力点を置くのかは，学科間で異なる場合があることが示された。

設問 7．②何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合，あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。



図Ⅳ-６（２）．　シラバスと授業内容が異なる場合の受講生への説明

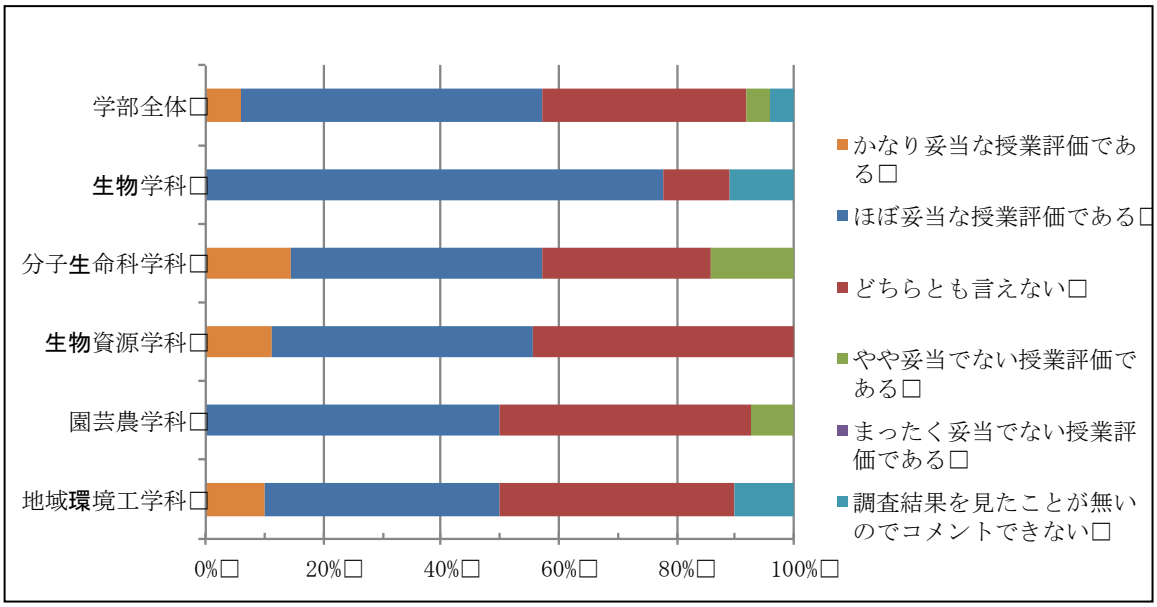
3 か年で見ると「異なる理由を受講生に説明する必要がある」が 94%→94%→91%と大勢を占めている。しかし，「説明する必要はない」との意見も 2%→6%→4%ある。

「その他」の「自由記述欄」には，「「必要がある」というより，単純理由を簡単に説明しておくという程度である」（生物学科）との記述があった。

設問 7. ③上記の質問で２．と回答した理由を教えて下さい。

「受講生に説明する必要はない」と考える理由の記述はなかった。

設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。
① 学生による授業評価の妥当性についてどのようにお考えですか。

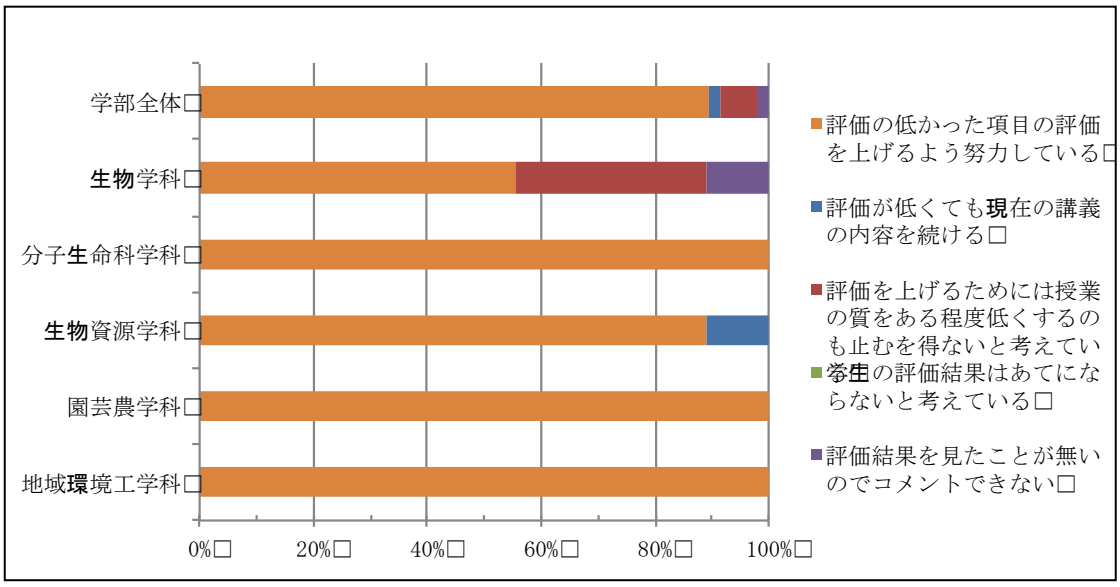


図Ⅳ-７（１）．　学生による授業評価アンケートの妥当性

3 か年で見ると学部全体では，「かなり妥当」と「ほぼ妥当」の合計は 58%→63%→57%と推移した。「やや妥当でない」と「まったく妥当でない」の合計は，4%→6%→8%と推移した。6 割近い教員は学生による授業評価を概ね妥当だと肯定的に受け止めているが， 35%の教員は「どちらとも言えない」と懐疑的である。

「かなり妥当」と「ほぼ妥当」の合計の 3 か年の変化を学科別に見ると，「生物学科」（89%→86%→78%），「分子生命科学科」（29%→44%→57%），「生物資源学科」（50%→67%→56%），「地域環境工学科」（36%→60%→50%），「園芸農学科」（82%→61%→50%）となっている。「学生による授業評価」への信頼感の度合いは，「生物資源学科」で高く、「生物学科」「分子生命科学科」「生物資源学科」，「地域環境工学科」で上昇傾向にあり。「園芸科学科」では，この信頼感の度合いは低く，且つ，低下傾向にある。

②授業評価の結果を改善に利用していますか。

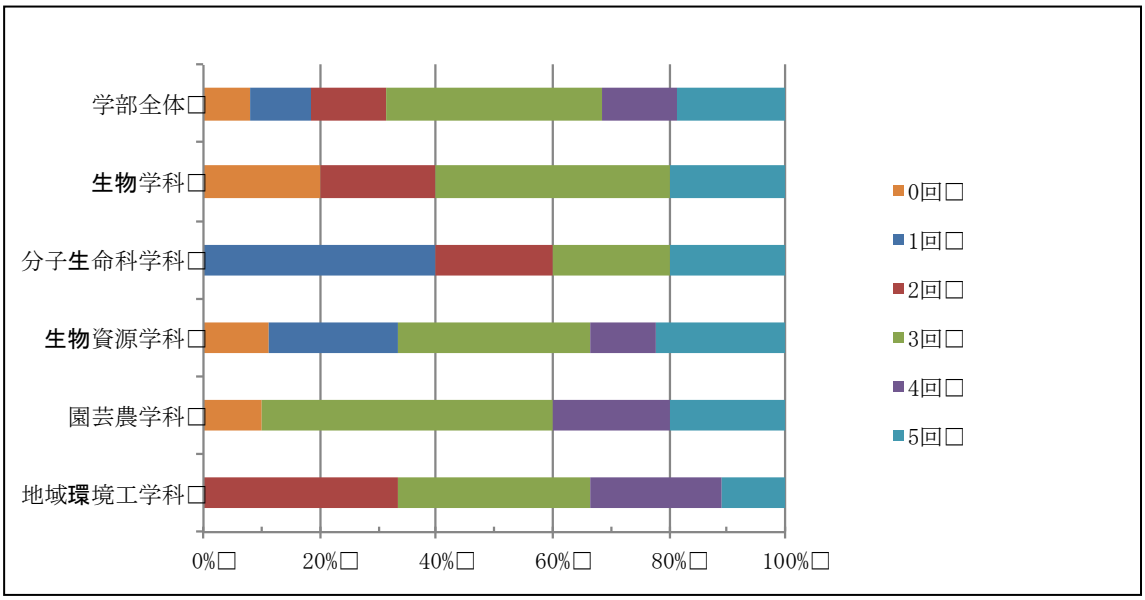


図Ⅳ-７（２）．　学生による授業評価結果の授業改善への利用

３か年で見ると，学部全体では「評価の低かった項目の評価を上げるよう努力している」（83%→83%→90%），「評価が低くても現在の講義の内容を続ける」（2%→2%→2%），「評価を上げるためには授業の質をある程度低くするのもやむを得ない」（7%→9%→6%），「学生の評価結果はあてにならない」（2%→4%→0%），「評価結果を見たことがないのでコメントできない」（7%→2%→2%）となった。9 割近い教員が授業評価結果を授業の改善に利用していることが示された。

設問 9．本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。
①この１年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい。
（参加されなかった場合は０を記入して下さい）。

1. 学部主催のＦＤ活動

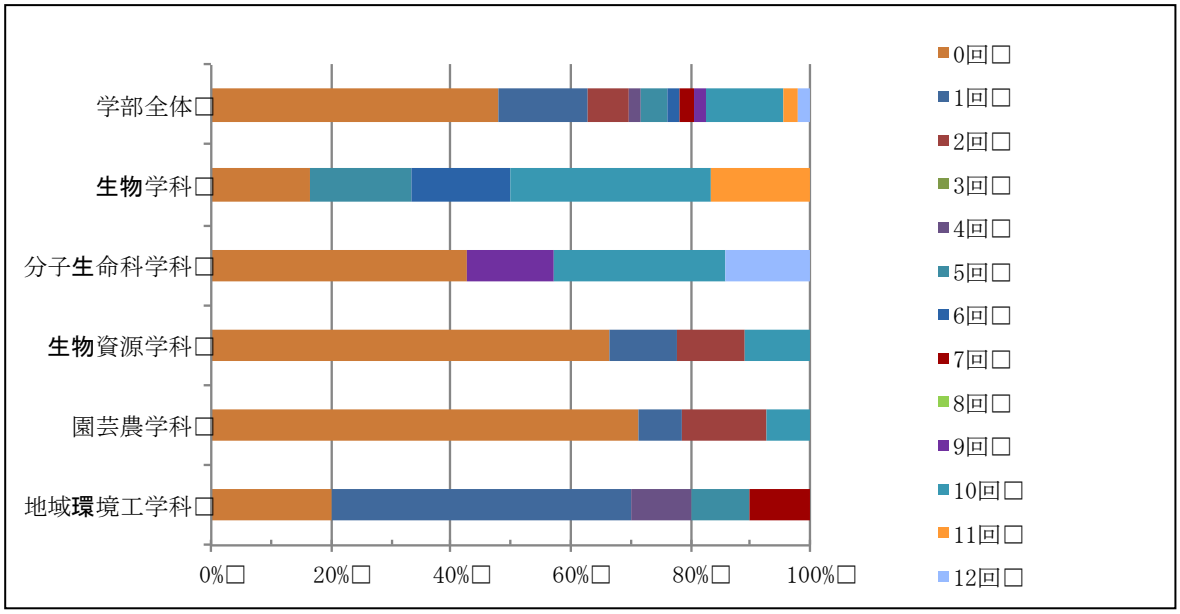


図Ⅳ-８（１）．　学部主催のＦＤ活動への参加回数

学部主催のＦＤ活動への参加回数毎の集計を 3 か年で見ると，学部全体で 0 回（9%→10%→8%），1 回（9%→42%→11%），2 回（9%→29%→13%），3 回（9%→2%→37%）であり，1 回以上参加した教員が 90%を占めている。

学部全体の延べ参加回数を 3 か年で見ると 80 回→77 回→91 回と推移した。1 教員当たりの参加回数を 3 か年で見ると，学部全体では 1.7 回→1.5 回→2.4 回と推移した。

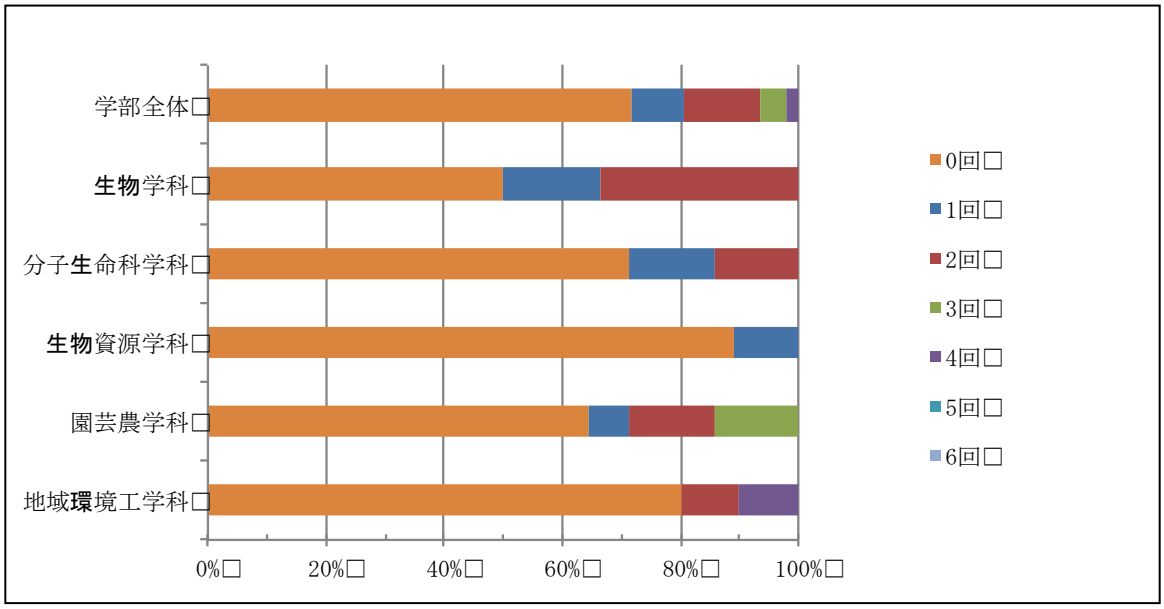
2. 学科主催のＦＤ活動



図Ⅳ-８（２）．　学科主催のＦＤ活動への参加回数

学科主催のＦＤ活動への参加回数は，多い教員で 12 回である。学科別の 1 教員当たりの参加回数を 3 か年で見ると，「生物学科」（4.6 回→5.9 回→7.0 回），「分子生命科学科」（6.4 回→7.0 回→5.8 回），「地域環境工学科」（1.4 回→2.1 回→2.1 回），「生物資源学科」（1 回→2.3 回→1.4 回），「園芸農学科」（2.5 回→1.4 回→1.1 回）となっている。「生物学科」や「分子生命科学科」が特に多いことが認められた。

3. その他の活動

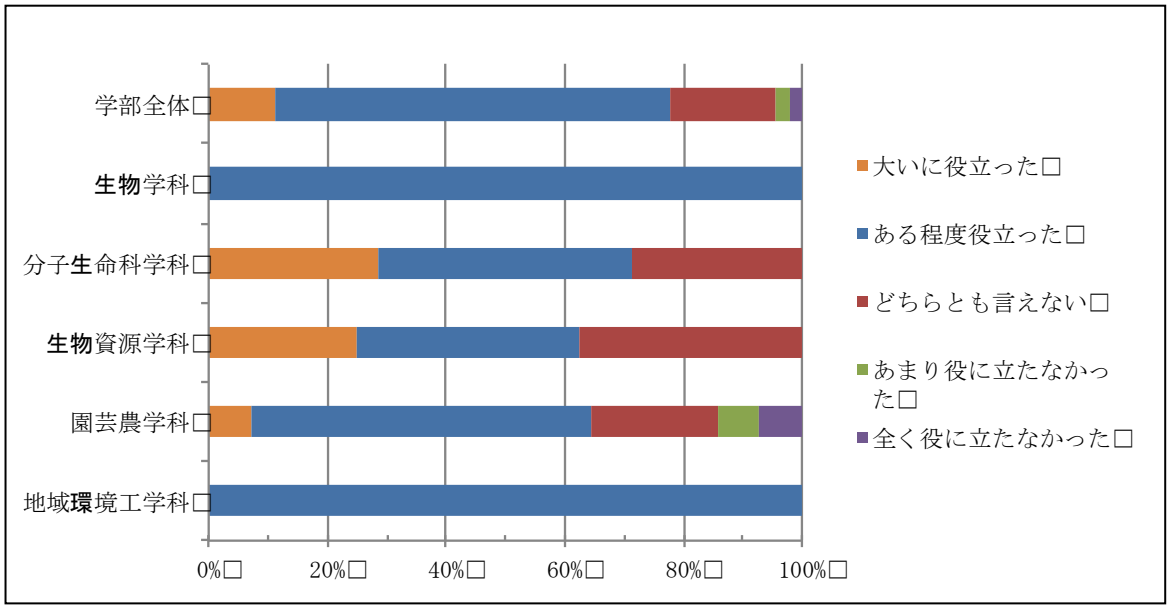


図Ⅳ-８（３）． その他の活動への参加回数

その他のＦＤ活動とは，大学全体のＦＤ活動や学外でのＦＤ活動である。参加回数毎に 3 か年で見ると，学部全体では 0 回（79%→61%→72%），1 回（4%→27%→9%），2 回（15%→8%→13%），3 回(0%→4%→4%），4 回(0%→0%→2%），5 回（2%→0%→0%）となる。

学科別の回答者 1 人当りの平均参加回数を 3 か年で見ると，「生物学科」(0.9 回→0.3 回→0.8 回），「園芸農学科」（0.7 回→0.8 回→0.8 回），「地域環境工学科」（0.4 回→0.8 回→0.6 回），「分子生命科学科」(0 回→0.1 回→0.4%）「生物資源学科」(0.1 回→0.6 回→0.1%）と推移している。約 7 割の教員が，学部や学科の主宰でないＦＤ活動へ参加していないことが認められる。

②参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。

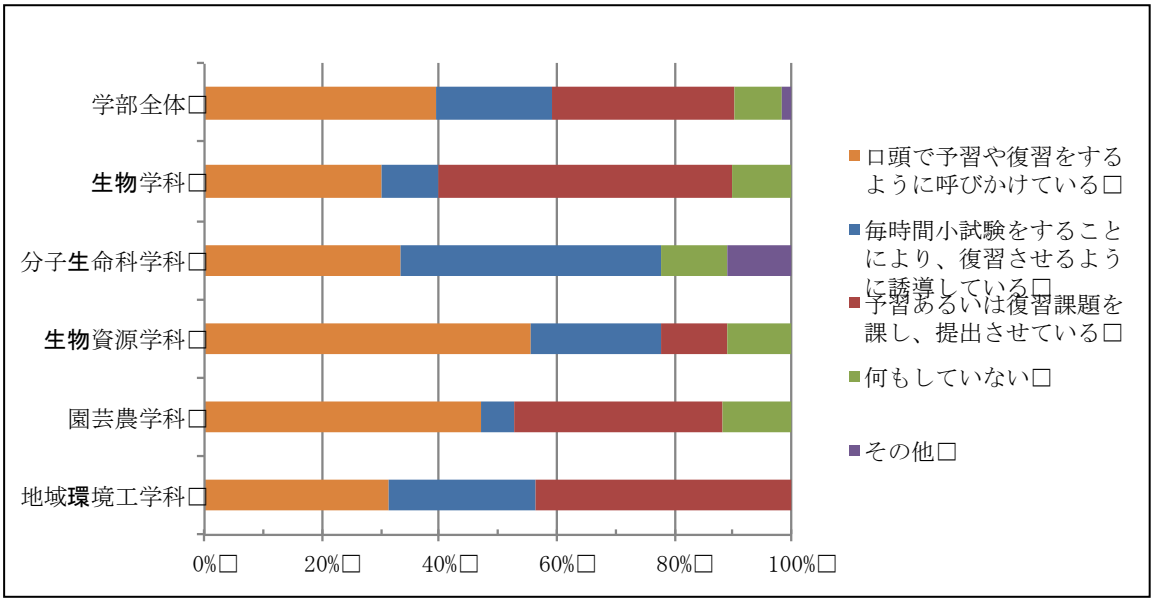


図Ⅳ-８（４）． 参加したＦＤ活動の教育改善効果

学部全体では 3 か年で見ると，肯定的評価（「大いに役立った」11%，「ある程度役立った」67%）が 87%→79%→78%であった。8 割に近い教員がＦＤ活動の教育改善効果を認めているが，「どちらとも言えない」（18%）や「あまり役に立たなかった」（2%）という評価もあった。

学科別に 3 か年で見ると，肯定的評価は「生物学科」（100%→71%→100%），「地域環境工学科」（91%→100%→100%），「分子生命科学科」（67%→78%→71%），「園芸農学科」（82%→89%→64%），「生物資源学科」（89%→86%→63%）であった。

設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。



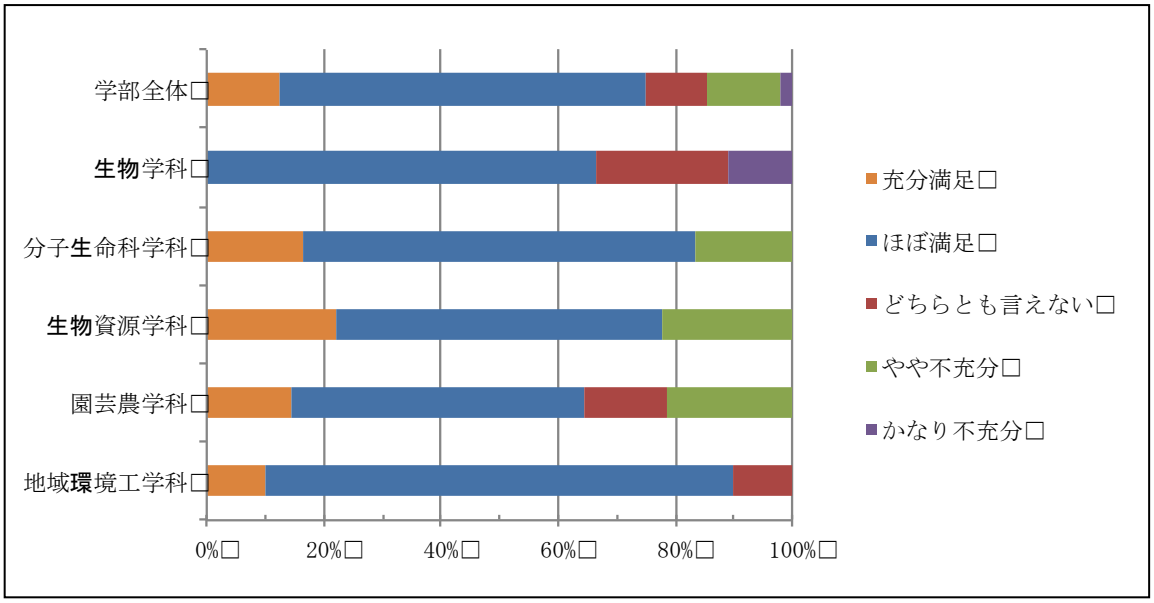
図Ⅳ－９．　学生に対する時間外学習の促進方法

3 か年の推移を見ると，学部全体では，「口頭での予習・復習の呼びかけ」（45%→49%→39%），「予習・復習課題を課す」（17%→28%→31%），「小試験で復習を誘導する」（14%→14%→20%），「何もしていない」（12%→5%→8%），その他（12%→4%→2%）であった。このように，9 割の教員が時間外学習を促している。

「その他」の自由記述欄には，「先の週の講義内容をもとにした質問を講義中に学生に投げかけ，理解度合いや復習の度合いをはかっている」（分子生命学科）との記述があった。

設問 11. ① 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

1. 講義室

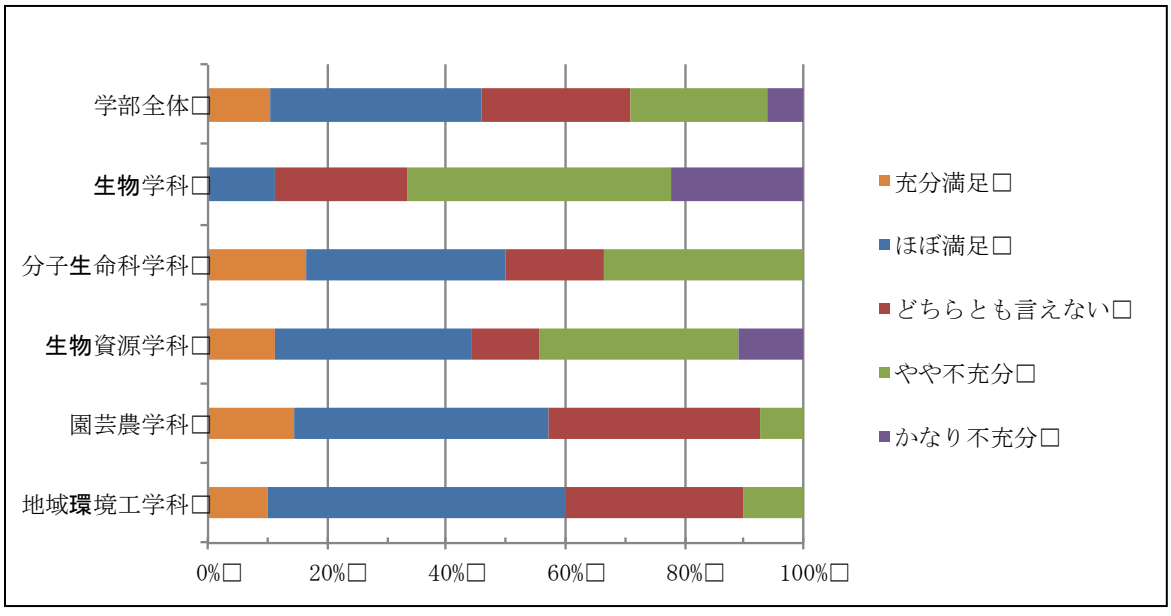


図Ⅳ-１０(１)．　講義室

講義室について 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(77%→79%→75%)，「どちらとも言えない」(13%→13%→10%)，「やや不充分」(10%→8%→13%)，「かなり不充分」(0%→0%→2%) であった。

「充分満足」・「ほぼ満足」を学科別に見ると「地域環境工学科」(82%→80%→90%)，「分子生命科学科」(100%→89%→83%)，「生物資源学科」(70%→78%→78%)，「生物学科」(89%→86%→67%)，「園芸農学科」(55%→69%→64%) となった。

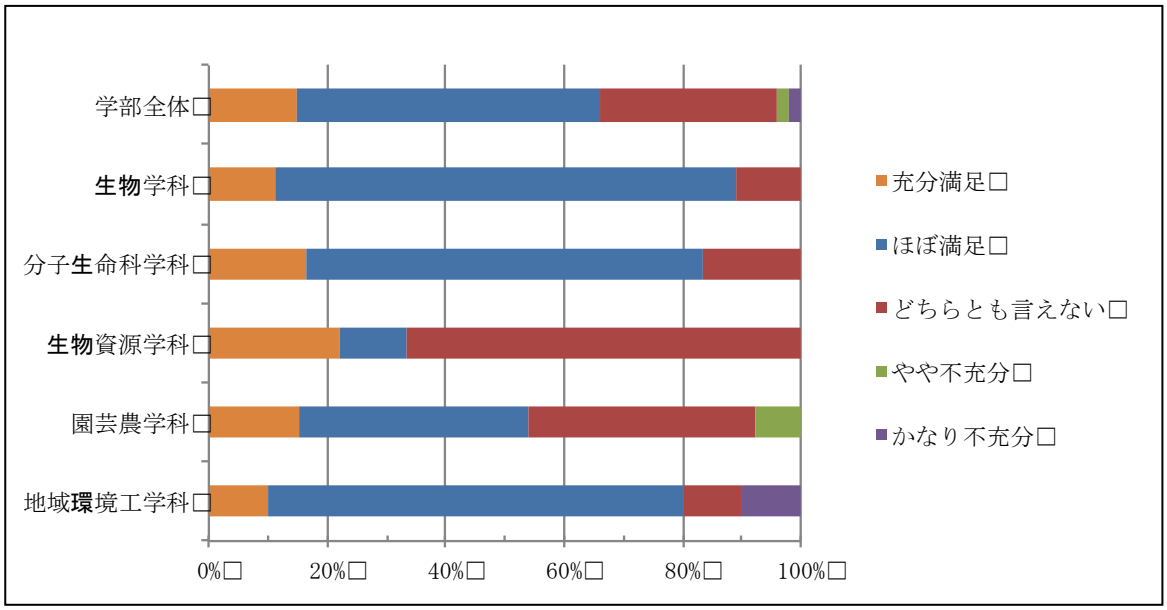
2. 実験・実習室



図Ⅳ-１０(２)．　実験・実習室

実験・実習室について 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(56%→51%→46%),「どちらとも言えない」(17%→22%→25%)，「かなり不充分・やや不充分」(27%→27%→29%) と推移している。このように，約半数の教員 (54%) が「満足」していない。

学科別に「充分満足」・「ほぼ満足」を見ると「地域環境工学科」(70%→60%→60%),「園芸農学科」(73%→46%→57%),「分子生命科学科」(57%→67%→50%),「生物資源学科」(60%→67%→44%),「生物学科」(22%→13%→11%) であった。「生物学科」の満足度が 3 年連続で最も低く，且つ，減少していることが特徴的である。「かなり不充分・やや不充分」は,「生物学科」(67%→75%→67%),「生物資源学科」(30%→22%→44%),「地域環境工学科」(18%→20%→10%),「園芸農学科」(9%→15%→7%)，「分子生命科学科」(18%→11%→33%) と推移した。「生物学科」に不充分と考える教員の割合が高い。



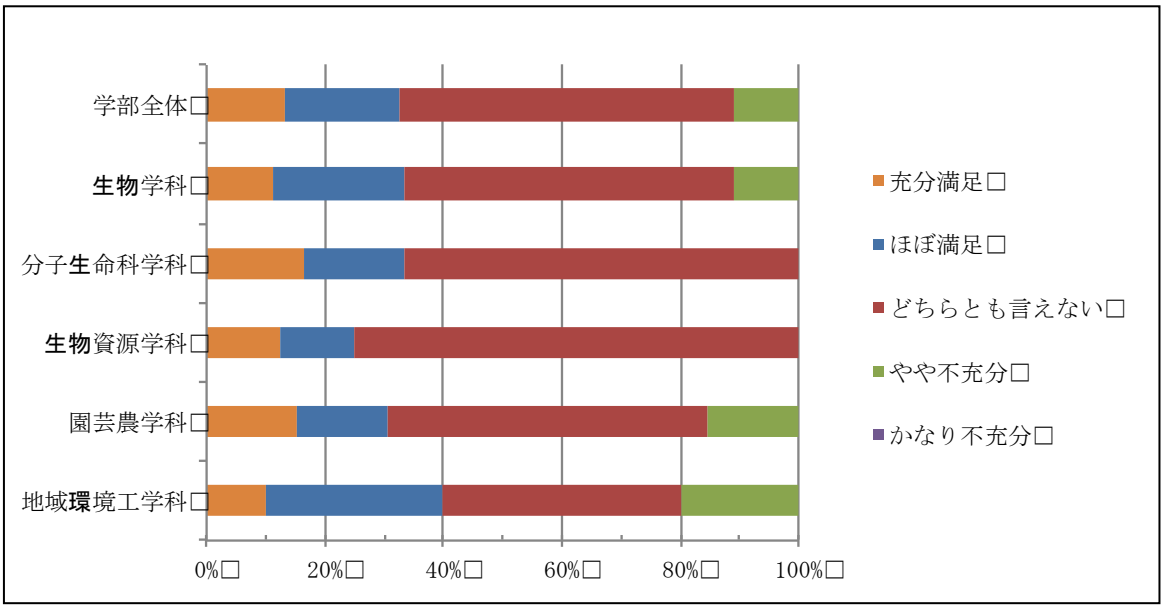
3. 情報処理演習室

図Ⅳ-１０(３). 情報処理演習室

情報処理演習室について 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(55%→67%→66%),「どちらとも言えない」(36%→29%→30%),「かなり不充分・やや不充分」(9%→4%→4%) と推移した。肯定的評価は 66%であり，3 割の教員が「どちらとも言えない」と考えている。

学科別に「充分満足・ほぼ満足」を見ると「生物学科」(56%→63%→89%),「分子生命科学科」(71%→78%→83%),「地域環境工学科」(82%→80%→80%)，「園芸農学科」(727%→58%→54%),「生物資源学科」(27%→56%→33%) と推移した。「かなり不十分・やや不十分」は,「地域環境工学科」(18%→10%→10%)，「園芸農学科」(9%→0%→8%)，「生物学科」(0%→13%→0%)，「分子生命科学科」(14%→0%→0%),「生物資源学科」(0%→0%→0%) であった。

4. 蔵書室(4 階)

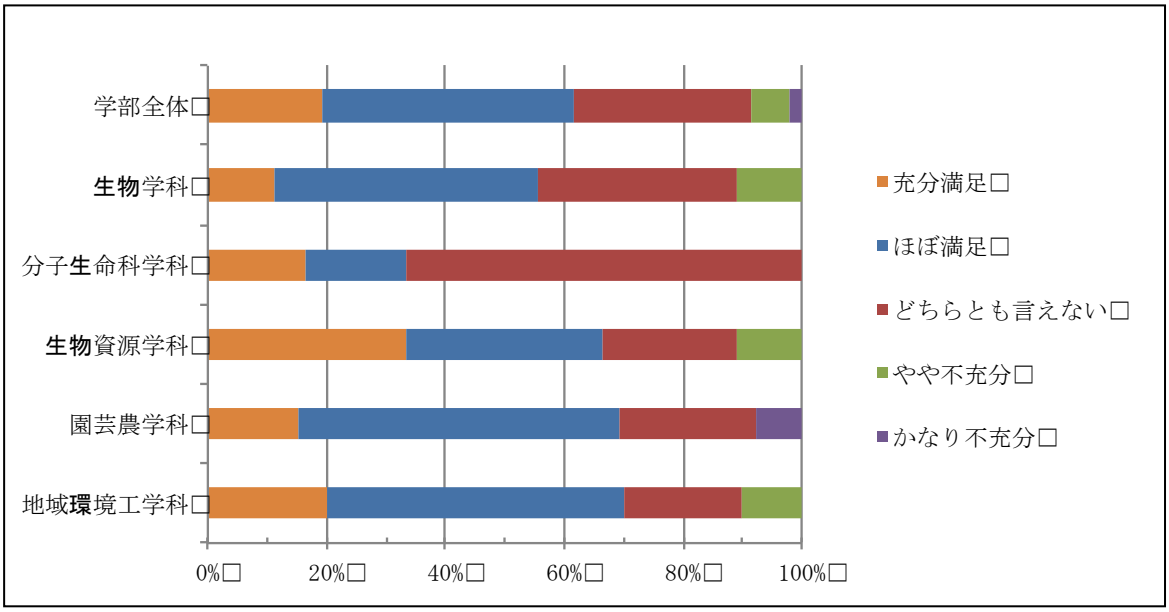


図Ⅳ-１０(４). 蔵書室(4 階)

4 階の蔵書室は、平成 28 年 3 月に 2 階の図書閲覧室の書物が移されて新設された。学部全体で見ると,「充分満足・ほぼ満足」が 33%,「どちらとも言えない」が 57%,「やや不充分」が 11%,「かなり不充分」が 0%であった。このように約 3 割の教員は満足であるが, 6 割近い教員は「どちらとも言えない」と答えている。

「充分満足」と「ほぼ満足」の合計を学科別で見ると「地域環境工学科」が 40%,「分子生命科学科」が 33%,「生物学科」が 33%,「園芸農学科」が 31%,「生物資源学科」が 25%であった。「かなり不充分」と「やや不充分」の合計は,「地域環境工学科」が 20%,「園芸農学科」が 15%,「生物学科」が 11%,「分子生命科学科」が 0%,「生物資源学科」が 0%であった。

5. 学生自習室・学生控室(2 階)

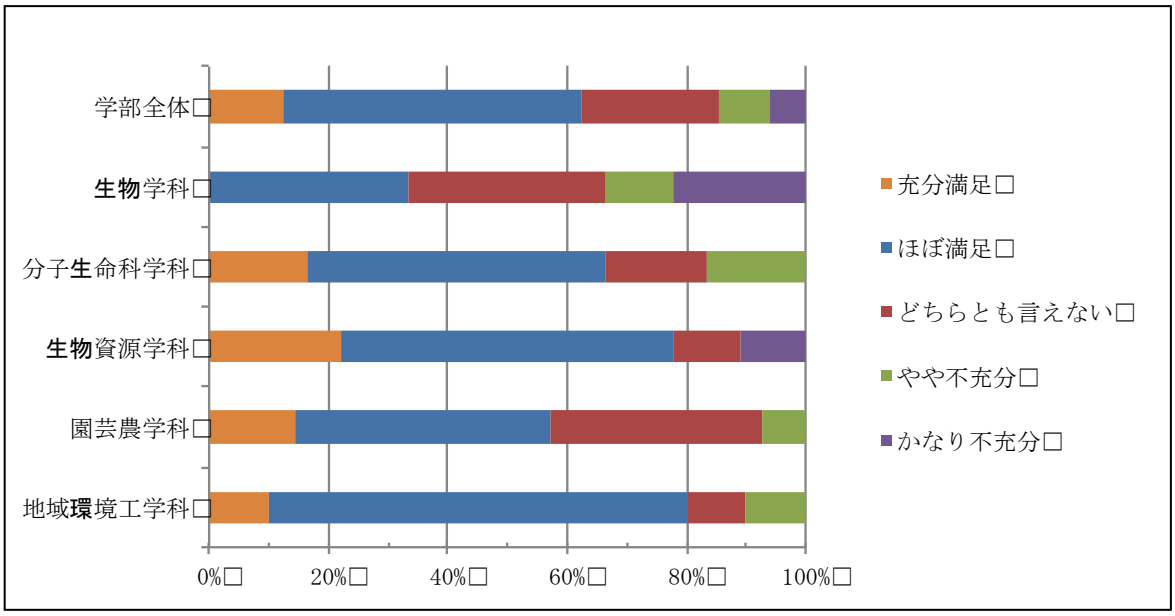


図Ⅳ-１０(５)．　学生実習室・学生控室(2 階)

2 階の学生自習室・学生控室(2 階) は平成 28 年 3 月より新設された。学部全体で見ると「充分満足・ほぼ満足」が 62%,「どちらとも言えない」が 30%,「やや不充分」が 6%,「かなり不充分」が 2%であった。このように，約 6 割の教員が概ね満足している。

「充分満足」と「ほぼ満足」の合計を学科別で見ると「地域環境工学科」が 70%,「園芸農学科」が 69%,「生物資源学科」が 67%,「生物学科」が 56%,「分子生命科学科」が 33%であった。「かなり不充分」と「やや不充分」の合計は,「地域環境工学科」が 10%,「生物学科」が 11%,「生物資源学科」が 11%,「園芸農学科」が 8%,「分子生命科学科」が 0%であった。

6.　研究室



図Ⅳ-１０(６)．　学生実習室・学生控室(2 階)

研究室について 3 か年で見ると，学部全体では「充分満足・ほぼ満足」(56%→53%→62%)，「どちらとも言えない」(19%→27%→23%)，「かなり不充分・やや不充分」(25%→20%→15%)と推移した。満足している教員が増え，不充分と感じている教員は減少していきている。

学科別に「充分満足・ほぼ満足」を見ると，「地域環境工学科」(82%→70%→80%)，「生物資源学科」(50%→67%→78%)，「分子生命科学科」(86%→44%→67%)，「園芸農学科」(45%→39%→57%)，「生物学科」(22%→50%→33%) である。「かなり不充分・やや不充分」は，「生物学科」(67%→50%→33%)，「分子生命科学科(0%→11%→17%)，「生物資源学科」(40%→22%→11%)，「地域環境工学科」(0%→0%→10%)，「園芸農学科」(18%→23%→7%) と推移した。「生物学科」では不十分と感じている割合が他学科よりも高が、その割合は「生物資源学科」や「園芸農学科」とともに減少している。

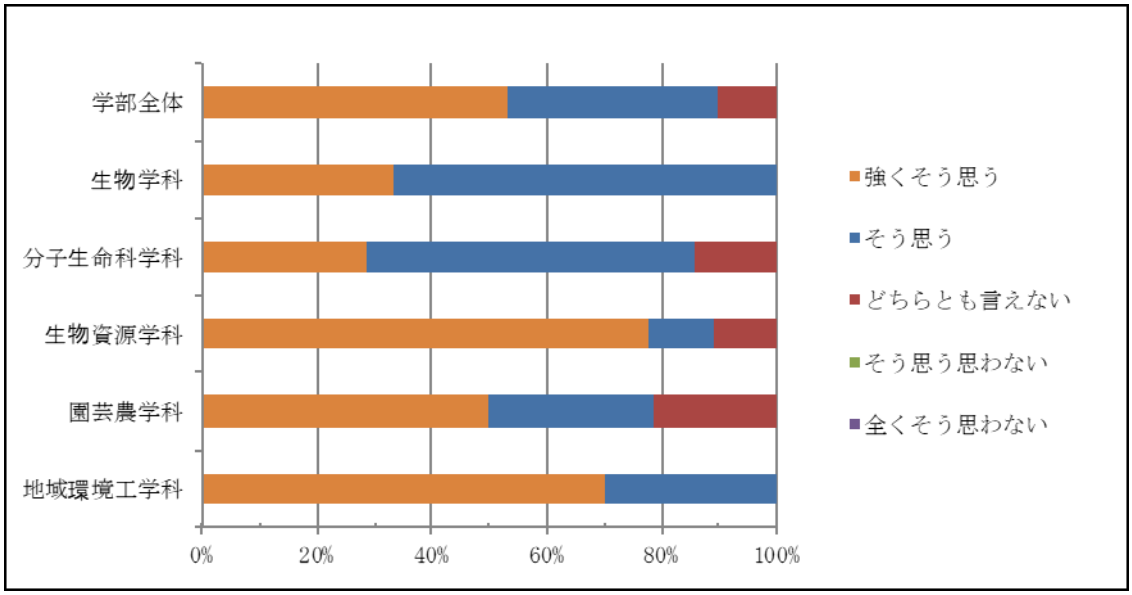
② 上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

［生物学科］

・実験実習室，研究室 ― スペースが足りない
・実験実習室 ― 学生数に対して実験室のスペースが足りない
・実験実習室，蔵書室(4 階)，研究室 ― スペースの狭さ，室温のコントロールの問題
・講義室，実験実習室 ― エアコンが整備されておらず，教育環境がよいとは言えない。講義の人数に対して部屋が狭く，試験の際に中立性を保つことができない。実験室の不足のため無理のある時間割となっている
・実験実習室 ― 毎回同じだが，スペースが小さい
・学生自習室・学生控室（2 階）― スペースが小さくなったので
・実験実習室，研究室 ― 設備，スペースが不充分

［分子生命科学科］
・実験実習室 ― 学生実験に必要な装置が足りない
・講義室 ― 板書とプロジェクターの併用が難しい
・実習室 ― 機器が不足している。研究室は，学生数分のデスクを入れるには狭い
［生物資源科学科］
・実験実習室 ― 空調がないので，夏場の実習で学生がつらそう。内容によっては，窓を開けることが出来ないので面積がせまい
・講義室 ― 経年劣化が感じられる
・実験室 ― 手狭
・研究室 ― 学生控室がなく，すべて実験室仕様になっている。そのため学生にとっては落ち着ける環境がない
・講義室 ― スライドと黒板を同時に利用できないケースがある。ホワイトボードなどがあれば対応できるので準備してもらいたい
［園芸農学科］
・講義室 ― 暖房が効きすぎる部屋，効かない部屋の差がありすぎる
・情報処理演習室，蔵書室(4 階)，学生自習室・学生控室（2 階）― せまい
・講義室 ― 資料提示装置が古い。プロジェクターが古い
・講義室 ― プロジェクターの調整不良
［地域環境科学科］
・情報処理演習室 ― H28 年度では，4F サテライト教室の液晶プロジェクターの不具合について何度か事務方に相談したものの改善されなかったため，やむを得ず総情センターに教室を変更し，授業を行った。H29 年度も同様
・蔵書室(4 階) ― 遠いので利用難い
・実験実習室，蔵書室(4 階)，学生自習室・学生控室（2 階）― スペースがせまい

設問 12. ① 卒業研究は必要であると思いますか。



図Ⅳ-１１． 卒業研究の必要性

3か年で見ると，学部全体で，「強くそう思う・そう思う」（84%→86%→90%），「どちらとも言えない」（16%→14%→10%），「そう思わない・全くそう思わない」（0%→0%→0%）となった。卒業研究は必要と考える教員の割合は年々増加し，9割を占める。

学科別に見ると，「強くそう思う・そう思う」は，「地域環境工学科」（100%→100%→100%），「生物学科」（89%→100%→100%），「分子生命科学科」（100%→78%→89%），「生物資源学科」（70%→67%→89%）「園芸農学科」（82%→85%→79%）と推移した。「そう思わない・全くそう思わない」は前年度に続き 0%となった。

②設問 12. ② 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない 5. 全くそう思わない

［生物学科］

1 卒業研究のない理系に何の意味があるのか？

2 講義で得た知識を活用することを学ぶことができるから

1 自分で問題解決を計る経験

1 人間形成に役立つ座学では学べないことが身につく

2 自ら考え，計画を立て，実行し，一つのことをやり遂げるということを身をもって体験することは非常に重要である

［分子生命科学科］

2 物事を論理的にとらえ遂行し，まとめ表現する能力，問題にあたったときに解決する能力を身につける上で最も良い機会である究極のアクティブラーニング

1 本人が責任を持って取り組む事で，勉強する事の意味を理解するきっかけになり得るから

2 大学を卒業して大学院に進学しない場合には，論文のまとめ方を教える唯一の機会になるため

2 学部・学科の教育目標の点から考えれば，必要であると思う

［生物資源学科］

1 総合的な学力を身につけることができる機会となるため

2 教育目標達成のため，理系の学生としての資質を身につけるのに適性

1 総合教育のため

3 いかにも意欲の無い学生さんに無理にさせる必要は無く，選択科目が適切ではないかと思う。

1 卒業研究は実践力や考えさせる力をつけるためにもっともカリキュラムの中で重要だから。

1 卒業研究を通して学生が自ら考える力，プレゼンをする力などを身につけることができると思うため

1 卒業研究がなければ大学生は高校生以下になってしまう

1 考えるキッカケになり，自分で技能を身につけられる

［園芸農学科］

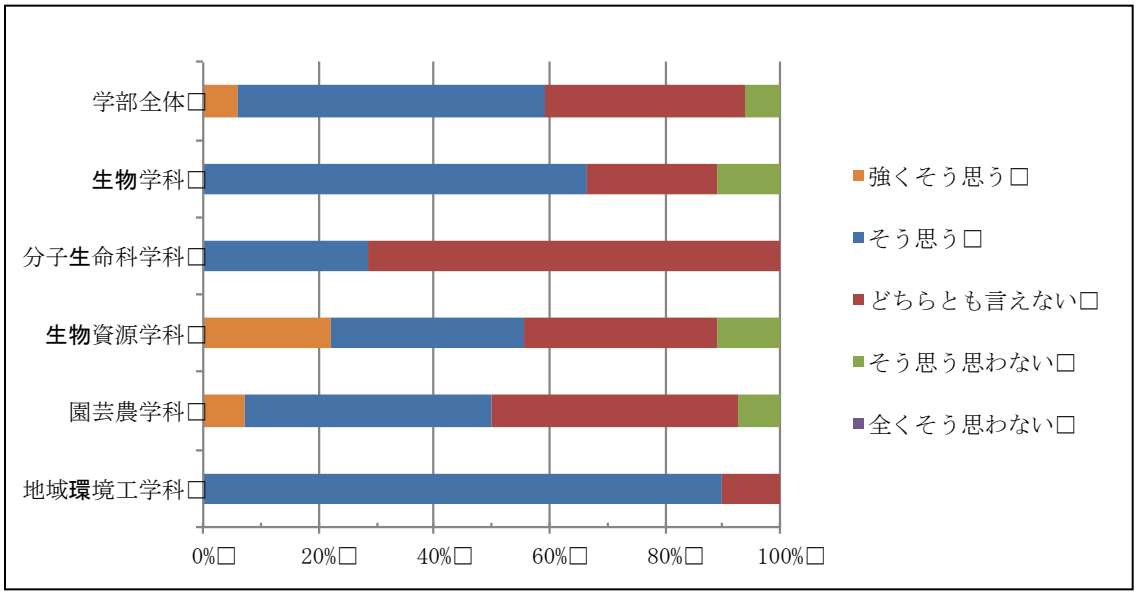
1 学生が成長するのを実感する。教員１人で１０人以上担当する私学との差別化

1 テーマに対して自ら勉強ができるため

3 学生によっては，卒業研究がストレスになっていると感じることがあるから

２　まとめる力をつけるため
２　自身で考え，工夫する力が養われる。問題意識とその解決能力の醸成
１　学生が学修すべきすべての要素が含まれているので，計画的に実施することで多くのことを学ぶことができる
［地域環境工学科］
２　４年間での総括になる
１　個人の能力が伸びる
１　大学は研究機関であるため，専門学校とは異なる
２　卒業研究を通して，計画性や課題解決能力，科学的な感性などが身につくと思うので。大学での学びの集大成だと思うので

設問 13. ①　あなたの学科の大多数の卒業生は，本学部での教育により大学卒業生に相応の知識と学力を身に付けたと思いますか。



図Ⅳ-１２．　学部卒業生の知識と学力の修得

３か年で見ると学部全体で，「強くそう思う・そう思う」（60%→63%→59%），「どちらとも言えない」（29%→33%→35%），「全くそう思わない・そう思わない」（10%→4%→6%）であった。59%の教員が，「卒業生は知識と学力を身に付けた」と考えている。

学科別に３か年で「強くそう思う・そう思う」を見ると，「地域環境工学科」（82%→90%→90%），「生物学科」（67%→75%→67%），「生物資源学科」（60%→66%→56%），「園芸農学科」（55%→42%→50%），「分子生命科学科」（29%→44%→29%）と推移している。このように、学部生の知識と学力が身についたと感じる度合いは、例年において「地域環境工学科」で特に高く，「分子生命科学科」で特に低い。「全くそうは思わない・そう思わない」は，「生物資源学科」（0%→22%→11%），「生物学科」（11%→0%→11%），園芸農学科」（9%→0%→7%），「分子生命科学科」（0%→0%→0%），「地域環境工学科」（0%→0%→0%）と推移した。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

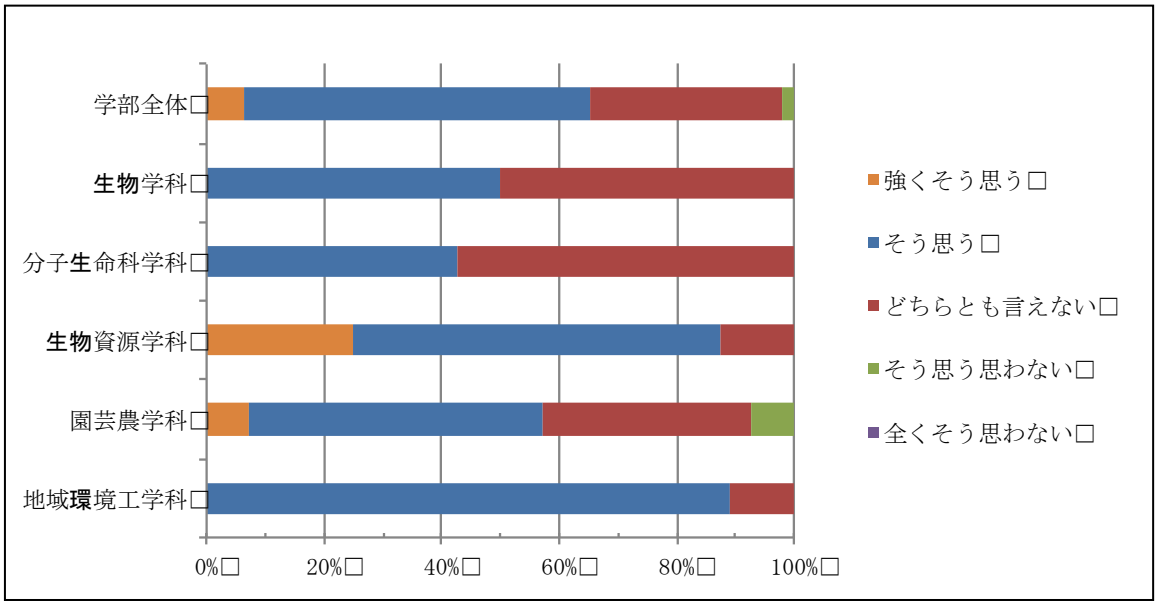
1. 学生に意欲がない　2. 学生の基礎学力不足　3. 講義内容が高度過ぎた
4. 教員に問題　5. その他（　　）

表Ⅳ-２．　身についていない理由（学生）

理　由	回答数（学科）
学生に意欲がない	1（生物資源 1）
学生の基礎学力不足	3（生物 1，生物資源 1，園芸農学 1）
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	0
その他	0

3 か年で見ると，「学生の基礎学力不足」（2 人→6 人→3 人），「学生の意欲がない」（1 人→3 人→1 人），「教員に問題」（0 人→3 人→0 人），「講義内容が高度過ぎた」（0 人→0 人→0 人）と推移した。「その他」（自由記述欄）には，「指導に充分な時間・労力を割けない場合があるため」（園芸農学）との記述があった。「その他」（自由記述欄）には記述がなかった。

設問 14　① あなたのコースの大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。



図Ⅳ-１３．　修士修了生の専門知識の修得

3 か年で見ると，研究科全体では，「強くそう思う・そう思う」（67%→71%→65%），「どちらと

も言えない」(24%→27%→33%)，「全くそう思わない・そう思わない」(9%→2%→2%) であった。

コース別に 3 か年で見ると，「強くそう思う・そう思う」は，「地域環境工学コース」(70%→89%→89%)，「生物資源学科」(67%→78%→88%)，「園芸農学コース」(64%→54%→57%)，「生物学科」(75%→75%→50%)，「分子生命科学コース」(57%→67%→43%) と推移した。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか．以下の中から選んで下さい。

1. 学生に意欲がない　2. 学生の基礎学力不足　3. 講義内容が高度過ぎた
4. 教員に問題　5. その他（　　）

表Ⅳ-３．修士修了生が専門知識を修得できなかった理由

理　由	回答数（学科）
学生に意欲がない	0
学生の基礎学力不足	1（生物資源１）
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	0
その他	1（園芸農学１）

大学院修了生に専門知識が身に付いていないと判断した 1 名の教員は，「学生には基礎学力が不足している」と回答した。その他（自由記述欄）では，1 名の教員から「カリキュラムに問題」（園芸農学科）との記載があった。

Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解

生物学科

学科の教育目標及びアドミッションポリシーに対する認知度は「知っている」，「ある程度知っている」を合わせても 60%程度であり，学科の教育目標とカリキュラムが合致していると肯定的に評価した割合と同程度であった。合致していないと評価した記述には教養教育科目に対する否定的回答が目についた。

学科の専門教育に対する満足度が 65%程度で 5 学科の中で最も低かったのは，今後の検討材料である。自由回答の中に，専門講義に対して高く評価する回答と低く評価する回答の両方があり，講義によって学生の評価に大きな差があることがうかがえる。教員の指導に対する満足度は 65%程度であり，学部平均と同じくらいであった。この設問の自由回答にも教員の指導に対する肯定的意見とやや批判的意見があり，教員の指導に対する満足度も教員間で大きく異なっていたこと

がうかがえる。また，勉強する時間が講義時間(30 時間)の 1.0 倍未満と回答した割合が他学科に比べ多く，意欲的に学習する姿勢が低いと言える。昨年も，自主的に学習する時間が低いという結果となり，今後自主的な学習を促進する手立てが必要と思われる。印象に残った講義としては，例年と同じように「臨海実習」や「生態学野外実習」をあげた学生が多かった。

施設の満足度に関しては、実験・実習室が不充分と答えた学生の割合が 5 学科中、最も高かった。この点は改組により来年度には改善されることになっている。卒業研究を行なった研究室に対する満足度は約 80%以下であり，5 学科中で二番目に低い評価であった。また、卒業研究を行なったことに対する満足度も 80%と 5 学科中で最低となり、昨年と同じ結果となった。自由記述欄には，卒業研究に満足したという回答も多く，研究室間での差が大きいと思われる。

進路に係わる質問について，カリキュラムで学んだことが進路の決定に生かせていない傾向が見て取れる。生物学科では半数が他大学を含め大学院に進学し，半数が就職する。アンケート結果では就職した学生の中で自分の専門と関係した企業に就職した学生は一人もおらず，学部で就職する学生にはカリキュラムが進路決定にかせていない現状が見て取れる。そのため，大学の進路支援の取り組みを肯定的に評価した学生の割合も 30%程度と低かった。現在の日本では大学院を修了しないと専門性が評価されない社会状況になっているため，学部生には専門カリキュラムが進路に繋がらないという問題がある。一方，修士学生へのアンケート結果では，専門と関連する企業に就職した割合は 50%と高く，専門性が就職に結びついている結果となっている。基礎分野が中心の生物学科では専門科目が就職に結びつかないことへの学部生の不満が卒業時の学科に対する評価にも影響を与えているのかもしれない。専門科目では英語を使う授業が多いにもかかわらず，英語の実力が低いという回答が複数あり，学部教育では専門性以外に英語やプレゼンなどの一般的能力を向上するカリキュラムを強化する必要があるのかもしれない。

最後に，総合的に判断した学科の教育に対する満足度は 50%と 5 学科で最低であった。アンケート結果から考えられる理由として，学部卒業者の進路決定に専門性が生かせてない不満と，教員間の教育に対する熱意の差への批判などがあると考えられる。いずれも，簡単には解決できない問題であるが，満足度を高めるための地道な努力は今後も必要になろう。

（平成 29 年度生物学科学科長　杉山修一）

分子生命科学科

他学科と比べて「学部の理念」、「学科の理念」、「アドミッションポリシー」を知らない学生が多い。「学科の理念」や「アドミッションポリシー」についてはガイダンスで説明しているつもりであるが、なかなか伝わらない。基礎ゼミなどを通して周知させる必要がある。また、ガイダンスが適切でないとする学生が他学科に比べて多かった。「ガイダンスを受けても授業の選択に役に立ったとは感じなかった」という個別意見があるが、これは履修相談と勘違いしているものと思われる。

専門教育に満足している学生は多く、９０％以上であった。その一方で、教員の指導に対する満足度は他学科と比べて低かった。

講義室外での学習の時間は個人差が大きいが、概してよく勉強しているとは言い難い。講義室での受講時間の２倍（大学設置基準）に満たない学生が８割を越えており、０．５倍未満のものが２０％もいた。当学科は過年度生が多いが、講義室外での学習の時間が少ないことが大きく影

響しているものと思われる。サークル活動やアルバイトが忙しく、なかなか学習の時間をとるのが難しい学生もいることと思われるが、ガイダンスや面談などを通して自主学習の重要性を訴えていく必要があるものと思われる。

卒業研究を行なった研究室の設備については、他学科に比べて高い満足度であった。８５％以上が満足すると答えており、満足していない学生は５％未満であった。

進路に関しては、専門と関連する企業に就職する割合がおよそ５０％となっており、他学科と比べて有意に高かった。

大学院では、プレゼンテーション演習Ⅰに対する不満が多かったが、これは例年のことである。コースを問わず同じ批判を耳にすることは多く、研究科全体で考えなければいけない問題となっている。

（平成 29 年度学科長　姫野俵太）

生物資源学科

平成 29 年 2 月に実施された同年 3 月卒業予定学生と教員に対するアンケート調査結果に基づき、生物資源学科・学部学生と学科教員の回答結果から今後の課題を分析した。なお、研究科コース学生の調査結果は研究科全体でまとめられており、コース所属学生数が限られ年次差も大きいため、学科（コース）としては分析しなかった。

【学部学生】の回答にみられる特徴と今後の課題

全 18 問（28 項目）に対する生物資源学科（以下、当学科）学生の回答結果は、ほとんどの項目で学部全体の平均的な数値と同程度であったと判断されるが、当学科に特徴的な傾向がみられる項目がいくつかあり、そこに当学科の特徴と課題の一部が表れているように思われる。

教育に関する項目で、問６「シラバスは受講科目の選択或は授業の全体的な構成の把握に役立ったか」に対して、当学科学生の肯定的意見は昨年と同様、全学科内で最も低かった（76%）。また、問７「あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足しているか」に対しても、当学科学生の肯定的意見は最も低いレベル（68%）であった。一方、問８「所属する学科の教員の、講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足しているか（卒業研究を除く）」に対する肯定的意見は高いレベルであり（約 85%）、学生への教育支援，施設・設備に関する問 13「卒業研究を行った研究室」と問 14「卒業研究を行ったことに満足しているか」に対しては、共に約 90%がほぼ満足していると回答している。このことは、学科の教育カリキュラムにおいて、専門基礎教育科目と研究室配属前後のより専門性の高い教育科目の間にギャップがあり、学生がそれを敏感に感じ取っているからではないかと考えられる。この傾向は、問 15-2「本学部のカリキュラムで学んだことは、進路の決定にどのように影響したか」に対して、「役に立った」と回答した学生が全学科中一番少なく（約 33%）、逆に「役に立たなかった」が全学科中最高（約 25%）で、残りの約 40%が「わからない」（全学科中最高）と回答したことからも読みとれるように思われる。さらに、同じ問 15-1「あなたの卒業後の進路は次のどれか」に対しても「専門とは関連しない企業に就職」と回答した学生が全学科中で一番多かった（約 35%）。すなわち、大学で学んだことが社会に出てから十分に生

かせないだろうと感じている学生の割合が多いということになる。学科カリキュラムに関する自由記述欄の中にも、「(学科の教育目標と) 合致していると思えるカリキュラムもあれば，関連性がまったく分からないカリキュラムもあると感じたから」、「学科内の分野が幅広すぎて，理解が追いつけなかった」などの意見がみえる。当学科では、平成 28 年度から食品科学コースが新設され 3 コース体制となり、学科内の教育分野は益々多様化している。今後、より多くの学生が多様な専門基礎教育分野の幅広い知識を基にそれぞれの専門分野に進んでゆくことが実感できるように、授業内容を工夫・改善してゆくことが必要と考えられる。

また、成績評価に関する項目では、昨年度に引き続き、問 9 「成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはあるか」に対して「ある」と回答した学生の割合が全学科の中で最も高く（約 33%)、その一方で、「学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出した」と回答したのはわずか 3%程度であった。この点は、「昨年度報告書の当学科の見解」の中でも取り上げられており、「本制度の存在を期末試験実施の際に各教員から説明する或は成績表配布期間に合わせて掲示で周知する等の対策を講じるべきである」と指摘されている。今後、学科内で話題にして検討してゆく必要がある。

就職支援に関して、問 17「本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点」に対して、当学科では「授業の方法」（約 15%）と「就職支援」（約 15%）を挙げた学生の割合が他学科に比べて高かった。「授業の方法」については上記の「教育に関する項目」で分析したことと関連付けながら改善してゆく必要があり、本稿ではこれ以上分析しない。「就職支援」に関しては、学部全体に属する課題とは思うが、学科として考えてみると、問 15-3「本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思うか」に対して、「強くそう思う」或は「そう思う」と回答したのは全学科中で最も少なく（約 30%)、「どちらともいえない」が一番多かった (50%)。つまり、否定的意見が多かったことが窺われる。また、問 12「進路の相談」に関しては、学科全体の 70%近い学生が何らかの相談をしており（学部全体と同程度)、約 50%が「就職支援センター」を利用したと回答していている。学生の進路相談に関しては、もう少し支援が欲しかったと考えていた学生が学科内に

【教員】の回答に見られる特徴と今後の課題

全 14 問（23 項目）に対する生物資源学科（現食料資源学科、以下、当学科）教員の回答結果の多くは学部の平均的な数値と大きく変わらない範囲であったと判断されるが、上記「学生の意識」と関連する項目について分析した。

問 9 の授業改善のための各種の研修活動（FD 活動）に関する項目において、まず当学科教員の FD 活動参加回数は学部全体とほぼ同程度であったが、学科主催の FD 活動参加回数はほとんどが 0 回であった。当学科では毎月学科会議を開催しており、その中で学生の動向、授業への出席・単位取得状況について教員間で共通認識を持てるように努めている。しかし、上記のように学生の「教育方法の改善」に対する一定の意見があることを考えると、既に【学部学生】の項目でも触れたように、個々の教員が全学・学部或は学科レベルの様々な FD 活動を活用して、学科カリキュラムをより意識した授業改善に取り組んでいく必要がある。

一方、施設・設備に関する項目では、学生実習室・学生控室(2 階)を「十分満足、ほぼ満足」と回答した教員の割合が約 65%、「研究室」を「十分満足、ほぼ満足」と回答した割合が約 80%で共に高いレベルであった。「卒業研究は必要か」に対しても「強くそう思う」教員の割

合が高く（約 75%）、当学科の教員は研究室レベルの専門教育に重心を置いた教育を展開していると捉えることができる。これは、研究室や卒論の実施に対する学生の満足度の高さとも一致しており、それなりの効果が得られているものと判断される。

（平成 29 年度学科長　佐野輝男）

園芸農学科

学部学生の回収率は約 70%とほぼ例年並みであった。アンケートの結果は学科の学生の意見を集約出来ていると考えられるが、さらに回収率を上げるにはさらなる工夫が必要であろう。学科の専門教育などに対する満足度はほぼ 70%と良好な結果を示している。詳細を見ると、専門教育への満足度は 75%、教員の指導は 75%、卒業研究を行った研究室の満足度は 70%、カリキュラムと進路決定の関係は 76%と高評価となっている。一方、大学卒業者に相応の知識や学力を身に付けたと感じている学生の割合は約 40%と低い。この値は例年低いが、これは本学科の学生の就職先が専門分野以外になる学生が半数以上であり、様々な分野に就職する現状から、必ずしも学んだことが生かせないことと、大学や学科の教育内容から、学んだことが職業に直接結び付きにくく、学生が実感しにくいことを表していると考えられる。そのような学生にとってはそもそもこの質問の意味が判断しにくく、学力の定義も曖昧なので質問の改善が必要かもしれない。
改善点としては、一部の講義や研究室での指導が不適切であったことがうかがえるので、これらはその講義や指導教員を特定して具体的な解決策を取る必要があろう。講義に関しては授業アンケートで特定出来るので、卒業研究についても授業アンケートのような形式のアンケートが必要かもしれない。また、卒業研究を行う研究室の狭さについての不満については現状では解決が難しいが、以前にあったような人数が多い場合の大学院生用の部屋を用意するなど学部全体での対策は可能と考えられる。また、中庭の樹の枝によって研究室が日陰になっていることや WiFi の環境に関しては、学部の関係部署で解決して欲しい。

（平成 29 年度学科長　荒川　修）

地域環境工学科

卒業生のアンケート回収率が平成 27 年度より 15 ポイント低下し 80%を下回ったことは問題である。学部平均を上回るとはいえ、各指導教員によりアンケート回答への協力を積極的に働きかける必要がある。

教育目標等の認識について、平成 28 年度は、学科の教育目標について８割以上の学生が認識し、他学科と比べ際立って高い。一方の学部については６割、アドミッションポリシーについては５割にとどまっていて、５学科の中で２番目に高いが大きな差はない。学科の目標だけではなく学部の目標についても意識したガイダンスを検討したい。

また、カリキュラムについては、９割の学生が学科の教育目標と合致していると評価しており、ガイダンス内容の適切さ、シラバスへの評価も同様に９割を上回っており、当学科教育が学生に高い評価されている。専門教育や教員指導、さらに卒業研究への満足度も肯定的回答が９割に達しており、こちらも高く学生から評価されている。ただし、成績評価については、２割を上回る学生が疑問を持ったことがあるという回答で、学科として成績評価の根拠を学生伝達する努力を

している点からすると、ややもの足りなさを感じる。

学生の主体的学習に関して、大学設置基準が求める授業時間の２倍以上の予習復習を行っている学生は２割にも達しておらず、１倍未満の学生が半数近いので、引続き主体的な学習意欲を持ち、予習・復習をしっかり行うような指導と授業運営が望まれる。

学生の学習環境のうち、教員の相談体制については、平成 26 年度と同様に、学業の相談窓口で教員との面談が５割程度の回答率であり、学生への学習指導がていねいに行われていることを示している。施設・設備的な面では、全体に否定的な回答は目立たないけれども、平成 28 年度は実験・実習室でかなり不十分という回答が２割近く存在していて、屋外の老朽化した施設への不満だと考えられる。

卒業後の進路との関係では、カリキュラム、進路支援への取組みとも８割の肯定的な回答を得ており、学部内で最も高い水準である。また、大学卒業者として修得した知識・学力について肯定的な回答が８割に達しており、平成 26, 27 年度が５， ６割だった回答より高まった。

教育活動全体として、まず早急に改善すべき点について、特に問題はないという回答は、平成 27 年度に引き続き４割程度で、教育・研究設備を中心とする不満が示されている。とはいえ総合的判断としては、肯定的な回答が７割を上回っており、合格水準と判断できる。

地域環境工学コースの修士課程の教育活動については、春季修了する学生が１名のみで、適切な指導を受けていることがうかがえるが、学生の充足が最大の問題である。

教員対象授業アンケートでは、平成 26 年度に続き回答率が 100％と、当学科教員の教育への責任感を示している。

学部の授業実施では、規定回数に達しない授業か皆無であり、休講時には補講が実施されている。また、授業実施に際しては、８割がシラバス通りではなく、シラバスに沿うように授業を行っており、昨年度のシラバスとの比較では７割が一部変更しており、常に教育改善を意識して、授業実施に当たっていることがわかる。授業の工夫では、宿題を課すやグループ課題学習の取組みが他学科に比べ高く、成績評価についても他学科に比べ積極的に説明していることがわかる。研究科の授業実施も、基本的には学部と同様の傾向である。クォーター制の教育効果については、分からないという回答が７割と高い。

教員対象教育評価アンケートでも、本学科教員が、学科の教育目標とカリキュラムとの関係を強く意識し、予習復習を学生に課し、学生の反応を見ながらて授業運営していることがいずれの設問からもうかがえる。ただしＦＤへの参加頻度は特段多いわけではない。施設・設備については、一部否定的な回答も存在するが、概ね一定水準には達していると評価している。卒業研究の必要性は学部で最も強く意識しており、卒業生の質についても学部で唯一肯定的回答が９割と高水準である。

以上より、地域環境工学科では、教育実施に対し、これまでの努力を継続し、一定水準の成果を上げ続けているが、部分的には学生の評価が高くない事項があるので、ガイダンス等を通じ、教育目標の周知を一層進め、主体的学習意欲を高めていくことが望まれる。

（平成 29 年度学科長　藤崎浩幸）

Ⅵ. 教育改善委員会（平成 28 年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見）

学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて

（１）学部・研究科の教育理念，教育目的，教育目標，学科の教育目標，アドミッションポリシーについて

学部の教育理念，教育目的，教育目標の認知度は，学部全体では50％強で昨年度度と大きな変化はなかった。学科の教育目標の認知度は，学部全体では60％弱で昨年度度と比べて10％近く増加した。アドミッションポリシーの認知度は，学部全体では40％強で昨年度と変わりはなかった。一方で，学科の教育目標とカリキュラムは，学部全体では70％弱が合致していると回答している。学生は各学科のカリキュラムに強い関心を示す一方，教育目的，目標，アドミッションポリシー等については希薄感があることから，認知度および評価の低かった学科においては，入学時教育やガイダンス時など機会あるごとに継続的に説明する必要がある。

研究科の教育目的および目標の認知度は昨年度度の60％と同程度の58%であった。アドミッションポリシーの概要について63％が「知っている」と回答し、昨年度、一昨年度より低下した。カリキュラムは，研究科全体では39％が合致していると回答し，昨年と比べて41%と大きく低下した。大学院説明会等における説明に改善が必要である。

（２） ガイダンス，シラバス，専門教育に対する満足度について

ガイダンス・シラバス・専門教育については，学部全体で72～83％が肯定的意見であった。昨年度と同様に学科によって差が見られるので，評価の低い学科では改善のための工夫が必要である。

研究科におけるシラバス内容については，「強くそう思う＋そう思う」が84％で昨年度の93％から減少している。シラバスの内容と講義の内容の乖離を是正する努力が必要であると考えられる。

（３） 教員の指導や対応について

教員の指導や対応に対する評価は肯定的な意見は昨年度度からやや上昇し72％であった。今年度も昨年度度と同様に学生の意見には教員の対応を評価するものと批判するものが見られ，学科によっても大きく異なっていた。この点については，学科教員間での情報共有など継続的な改善が必要と思われる。

（４）成績評価について

成績評価に対し疑問や異議を持つ学生の割合は23％で昨年より5%上昇した。成績評価の問合せについては，97％の学生が問い合わせしていなかった。昨年度と同様に方法を知らない学生も見られ，ガイダンスでの周知方法を徹底することが必要である。

（５）講義への取組みについて

講義への取組みに関して，１日の学習時間（予習と復習）についての質問項目では，今年度も

「2倍未満」の回答が71％と学習時間は非常に短い。継続的に予習・復習を含めた授業に対する学生の意識改革を促すとともに，学生の学習意欲の向上策を指導していくことが教員に求められる。

（６）施設等に関して

例年同様，冷暖房に関する要望が多かった。学習環境を改善するための方策を学部としては考える必要がある。平成28年度に一部の講義室に冷房設備が導入された結果か，満足度が僅かに上昇した。他に，時計設置の要望やプロジェクターの不具合が指摘された。

（７）卒業論文研究・修士論文研究について

学生の卒業論文研究に対する満足度は85％で過去3年間と同様に極めて高い。修士論文研究では63％であり，半数以上が満足しているものの、過去5年間では低下傾向にある。また，昨年度度と同様に一部の学生は個人的感情による否定的な意見もあり,教員と学生のコミュニケーション不足が原因と考えられる。学部及び研究科での教育におけるこれらの研究科目は，講義による知識の修得だけではなく，課題に対して実験や演習を通して総合的な問題解決能力を育成する上で有効である。

（８）学部・研究科の教育のあり方について

卒業生の52％が身に付けたとしており，過去数年と同様であった。学生に専門知識の重要性を認識させるためにも継続的に学習意欲の醸成に向けた対応が必要である。教育・研究への取組みに対しては過去数年と同様に70％以上の学生が満足している。しかし，指導方法や授業方法，教育研究設備，経済支援制度，成績評価の方法などについては昨年度度と同様に改善すべき点もあり，個々の教員がアンケート結果の内容を吟味し向上を図っていく必要がある。

教員対象授業アンケートについて

（１）授業の実施方法，授業内容とシラバスとの一致について

学部の授業科目において，授業の実施回数は15回以上実施した教員は85％で昨年度と同じであった。授業内容とシラバスとの一致については，昨年度と同様に，シラバス内容の大幅な変更はなかった。シラバスの内容を一部変更したことについては，新しい知見や前年度の反省を踏まえ内容を点検している回答があり，教育改善に努めていることがわかる。大学院での講義の場合は，ほとんどシラバスの内容に従って実施されている。

教員対象教育評価アンケートについて

（１）カリキュラムやシラバスが学科・コースなどの教育目標に合致しているか

ほとんどの教員が，教育目的・目標に従ってシラバスを作成しており，教育目標を強く意識していることがわかる。

（２）「学生による授業評価」の捉え方とＦＤについて

「学生による授業評価」についての捉え方は学科により大きく異なっているが，全体としては60％が学生の評価を概ね妥当と捉えており，教員は学生の授業評価アンケートが教育改善には有効であると認識している。ＦＤ活動定着しつつあると思われるが，自己評価委員会/教育改善委員会が開催する「アンケート調査・報告会」に積極的に参加を呼びかける必要がある。

（３）学生の学習促進について

昨年度と同様，ほとんどの教員（92％）は，授業中に「口頭での予習・復習の呼びかけ」，「小試験」，「課題を課す」等を実施しており，授業時間以外学習を促している。しかし，学生の授業以外の学習時間はそれほど長くなく，より一層の学習意欲向上と自発的な学習への取り組み方策の検討が必要である。

（平成 29 年度副委員長　坂元君年）